

報季四社

14.5

817

輯一第年七十和昭

×
複写

編社報新濟經洋東



始



公社債、株式の引受募集及び賣買
コール、手形の仲介其他金融業務

日本銀行引受國債賣捌取扱店

藤本ビルブローカー証券株式會社

本店

大阪市東區北濱五丁目

東京支店

電話(代表)北濱②五九〇一番
東京市麴町區大手町二丁目

其他支店

電話(代表)丸ノ内②四三三一番
橫濱・靜岡・福島・小樽・秋田・名古屋
金澤・京都・神戸・岡山・廣島・松山
門司・福岡・臺北・京城・新京・奉天

有價證券業
大株一般・國債・實物取引員

武田證券株式會社

武

大阪東區北濱

郵便局私書函第九十號

目

電話北濱(23)345676869 代表六四五(106) 五四三一

編社報新濟經洋東

報季四社會

輯一第年七拾和昭

融金・託信資投・式株・債社公

券證材野

目丁二町土安區東市阪大 店本
目丁一樓戶江區橋本日市京東 店支京東

店支

山岡・戸神・郡京・屋古名
湯全・松高・島廣
北・城京・幌村・園靜・湯新

券證材野洲滿

連大・京新・店支 天奉・店本



三和信託

資本金 參千六百萬圓

社 長 中 根 貞 彦
專務取締役 濱 口 雄 彦

本店 大阪市東區今橋三丁目

支店 船場、池田、東京、丸之內、名古屋、京都、奈良、和歌山、御坊、神戸、廣島、高松

小倉、福岡、熊本(出張所)

昭和十六年版 (最新刊)

株式會社年鑑

B 5 判
五四五頁
定價 三圓
送料十二錢

東洋經濟 登載會社 壹千參百十六社

東洋經濟編

統制經濟は愈々強化されるが、統制經濟によつて何よりも必要な事は各種統計の整備である。本書は我國重要會社、銀行の貸借對照表、損益計算表、事業規模等を數期に互つて比較對照し、併せて沿革其他各般の事項を明にせるもので臨戰體制下必備の參考書である

永井雅也著 紡績標準原價計算 定價四・八〇 送料二〇
藤井誠一著 滿洲經濟の再建 定價一・五〇 送料一〇〇

東京・日本橋二丁目 東洋經濟新報社 振替 五六一八 東京 番八



公債・社債 株式業務一般

大阪商事株式會社

本店 大阪市東區高麗橋三丁目
支店 東京市日本橋區江戸橋一丁目
滿洲大商證券株式會社
奉天市大和區加茂町第六號

一般情勢

支那事變勃發以來第五回目、第二次歐洲大戰開始以來第三回目の新年を迎へようとしてゐるが、内外の情勢はなほ一層多事多端ならうとしてゐる。殊に世界の動亂は愈よ長期化し、且つ擴大するかの如く思はれるが、さうなつた場合には、日本に對する影響も亦、必ずしも良いとは言へない。

【日米關係と經濟界】 先づ、當面の日米問題に就て述べると、第七十七議會に於ける東郷外務大臣の施政演説によれば、昭和十六年四月以來「米國政府との間に日米問題の根本的調整に關する話合ひを行ひ來つた」。この話合ひは、八月二十八日の近衛メッセーヂを契機として一層活潑となつたものゝ如くだが、十月十八日、近衛第三次内閣の後を承けて成立した東條内閣も

前内閣以來の日米交渉を繼續し、十一月五日、「野村大使を援助せしむるため來栖大使の米國派遣を見るに至つた」と發表した。來栖大使は目下ワシントンにあつて、野村、來栖、ローズヴェルト、ハルの四氏會談が行はれつゝある。本書の發行される頃には、この日米會談の結果もはつきりするだらうが、その會談内容を窺知し得ず、且つその成否を豫測し得ない今日に於ては、この問題に關する見透しを論ずることは困難である。併し次のことだけは確かだ。

即ち、日米交渉が決裂し、兩國間の關係が悪化して、我が駐米大使館スポークスマンが言明したと傳へられる如く（紐育タイムズ十月廿九日）、「日本政府が石油その他の物資を手に入れるために自存自營上の措置をとらざるを得なくなる」時が來た場合には、太平洋の波が決して

一般情勢

穩かでないことを覺悟しなければならぬ。また假りに日米交渉が何らかの形で成立し、その結果米國の對日經濟封鎖が緩和され、或は撤去されるとしても、更に英國や蘭印が米國に追隨して同様な態度に出たとしても、これによつて、日本經濟の諸困難が一度に吹き飛ぶといふ安易な觀察を下すことは、早計である。勿論日本經濟の當面する諸困難は、A B C D 包圍陣によつて加重されてゐるには違ひない。併し、それだけが唯一の原因だと考へるとは誤りだ。

【世界動亂の前途】 のみならず、英獨戰、獨ソ戰を中心とする世界動亂は容易に熄みさうもなく、却つて益々長期化し、擴大しようとしてゐる。その結果は、問題を經濟的側面だけに限つても、世界的な物資不足とインフレーション

ション傾向とを一層助長することになり、日本經濟に對しても、さういふ點に於て、多かれ少なかれ惡影響を及ぼすだらう。

獨逸官邊では、獨ソ戰五ヶ月間の戰果としてソ聯軍捕虜三百七十九萬、ソ聯軍の死傷者、捕虜等の總計一千萬人と發表してゐるが、なほソ聯の戰意は相當強固なものがあると傳へられ、ソ聯は假にその首都を失つても、奥地に退いて抗戰を續けるだらうと言はれてゐる。英獨戰に於ても、英國は十一月以來北アフリカに新たな軍事行動を起し、この方面から獨伊を牽制しようとしてゐる。而して獨英の雌雄を決すべき英本土攻略は、簡單に實現しようとは見られない。その上米國の參戰が實現するならば、獨伊の勝利までには、なほ相當の時日を要するものと思はれる。

界 業 産

翻つて國內の情勢はどうか。前述したやうに、假に日米交渉が何等かの形でまとまり、A B C D包圍陣が若干緩められるとしても、これを以て日本經濟の好轉を豫想するならば、それは輕卒と言はねばならない。寧ろ、「憂きことのなほこの上に積れかし」といふ覺悟を固めることこそが、今日の諸困難打開に近づく道である。第七十七議會の施政演説に於て東條首相は、「帝國は實に悠久二千六百餘年の歴史に於て、かつて見ざりし國家隆替の岐路に立つてゐる」と述べたが、このことは、我が國の經濟に就ても同様に言へるだらう。

【財政の膨脹と産業界】 第七十七議會に於て三十八億圓の昭和十六年度臨時軍事費追加豫算案が可決された。その結果、十六年度の臨時軍

事費は八十七億五千五百萬圓となり、事變以來の臨時軍事費は二百五十二億圓を超えるに至つた。左の如くである。(單位百萬圓)

十二年度	二、五四〇
十三年度	四、八五〇
十四年度	四、六〇五
十五年度	四、四六〇
十六年度	四、八八〇
同一般會計第二豫備金支出	七、七五〇
同第七十七議會通過追加豫算	三、八〇〇
累 計	三三、三〇〇

臨時軍事費だけでも既に右のやうな支出を行つて來たが、明十七年度の財政は更に膨脹するものと豫想される。第七十六議會を通過した十六年度の豫算は一般會計と臨時軍事費とを合せて約百三十億圓であつた。明十七年度の豫算はそれよりも更に三十億圓見當を膨脹して、百六十億圓に達するものと思はれる。

界 業 産

かやうに財政が膨脹すれば、當然歳入の調達——公債の消化や増税が問題になる。來るべき通常議會(第七十八議會)には、當然、相當大規模な直接税の増税案が提出されるだらう。が、それと同時に、より一層問題になるのは、物資の調達である。就中軍需物資は、是が非でも、國家の必要とするだけを調達せねばならない。従つて、これを産業界に就て言へば、軍需生産第一主義、民需物資生産の抑壓といふことが、從來より以上に強く行はれるだらう。

【重點主義の徹底】 即ち、軍需生産への原材料、勞力及び資金の集中は今後更に一層徹底的に行はれるだらう。而も、同じ軍需産業のなかでも、大量且つ高能率の生産を爲し得る事業に、重點が集中されるだらう。このことは

同じ軍需産業に於ても、非能率、非大量生産事業の整理、統合が行はれることを意味する。限られた物資、資金、勞力を以て最大の生産を擧げるためには、それも亦己むを得ない。

而して、假りに對日包圍陣が幾らか緩和されるとしても、この重點主義化の傾向には變化が起らないだらう。對日經濟包圍陣が我が産業界の重點主義化と整理統合に拍車をかけたことは確かである。併し、その一層根本的な理由は、戰爭遂行のために我が産業界を最も效果的、最も能率的に運営せねばならぬといふ所にある。そのために、國家が最も必要とする分野への、而も生産能率の最も高い企業への資材、資金、勞力の集中的、計畫的な割當てが行はれる。そして、そこから産業界の再編成が起つて來てゐるのである。

投資方針

のみならず、産業界の整理統合は、いま一つの理由よりして、日米交渉の成否に拘はらず、進められなければならない。即ち、我が産業界は、今次事變以來、正確に言へば、昭和六年の金輸出再禁止以來、急激な膨脹を續けて來た。この産業界が、今後更に一段の發展を遂げるためには、一度は或る程度の整理を行はなければならない。その整理が對日經濟封鎖と重點主義の強化とによつて、促進されてゐるのである。かういふ産業界の事情の下で、如何なる投資方針をとるべきか。

【株價の位置】 先づ株價の水準を見ると、最近の株價は相當低い位置にある。十六年七月廿六日の株價は、米國の對日資産凍結を入れて事變以來の最低に落ち、その後回復したとは言ふ

もの、未だく低い。我社調査の産業株三十種平均日々相場によつて、事變以來の株價の推移を示すと左の如くだ。(單位圓)

十二年七月六日	104.4
十三年七月卅日	83.7
十五年一月八日	99.1
同 十月廿五日	73.7
十六年三月十五日	80.8
同 七月廿六日	71.9
同 十一月廿四日	75.5

即ち、昭和十四年九月の歐戰勃發後、前大戰當時の如き好況來を期待して株價は昂騰に轉じ翌十五年初には事變以來の最高に達したが、その後は大體に於て下向傾向を續け、今日に至つてゐる。

そこで、今後の株價は大勢としてどの方向へ向ふだらうかと言へば、下値は淋しいものと見

投資方針

て大過あるまい。その理由は、前輯にも述べたやうに、七月廿六日の暴落を契機として政府の強力な株價對策が行はれるに至り、その對策は今日では既に萬全と言へるからである。野村證券と野村信託とのタイアップによつて開始された投資信託の如きも、株價の下落を支へるのに役立つだらう。

【嚴選主義が必要】 従つて株價としては、動くとすれば上へ行くより他ないと思はれるが、併し、だからと言つて總ての株が上昇すると考へることは出来ない。これだけの株價對策がとられてゐながら、とき／＼陷沒的下落を示す株式があることに徴しても然りだ。

協同證券のてこ入れと言つても、凡ゆる株を、買ふといふのではない。生

産力擴充に役立つ株及び主力株の買支へが主である。だから、業績、内容が悪化し、而も協同證券の買支へが行はれない銘柄のものは、往々にして陷沒的に下落する。また、前述したやうに、軍需工業株、時局産業株と言つても、最重點のものと、さうでないものとは區別をしなければならぬ。長い歴史と大資本の背景を持ち、基礎が鞏固で生産能率の高い一流軍需株と、さうでないものとは株價の動きも違ふ。

なほそれと同時に、やゝ永い眼で見れば、戦後經營を忘れてはならぬから、さういふ意味で平和株中の重點的なものへの注意も必要だ。

要するに、投資方針としては、國家の必要とする生産擴充への協力を主眼とすることが第一、同じ業種のうちでも、玉石を識別して、選擇を誤らぬことが第二だ。(十六年十一月廿六日記)

凡例

【決算期】 決算期中三月末より八月末決算迄を上期とし、九月末より翌年二月末決算迄は下期とす。

【單位】 統計欄資産負債「收支勘定」は千圓、「利益率」「配當率」は割、「株價」は圓を單位とす。其他は適宜その個處へ挿入す。

【株主資本】 期末拂込資本、各種積立金準備金及引當金(但し社員積立金、法定退職手當準備積立金に類する勘定は控除)前期繰越金及び当期利益金繰越損失金及び当期損失金は負數にて加ふ)の合計を以て株主資本とす。

【社外負債】 社債、借入金、支拂手形、諸未拂金、預り金等の他便宜上、前受金、假勘定、未決算勘定、繰越勘定をも含む。

【使用總資本】 株主資本と社外負債の合計で、又固定資産、投資勘定及流動資産の合計に一致す。

【固定資産】 土地建物、機械諸設備、什器、建設假勘定、増設假拂金等の他、特許並營業權等の無體資産をも含む。

【投資勘定】 子會社及び關係會社に對する出資金、貸付金或は取引上の貸金、其他營業直接の目的でなく、利殖の爲に所有する不動産、長期に亘つて所持する有價證券を含む。

【流動資産】 使用總資本中より固定資産、投資勘定を除いた殘額は便宜上流動資産と見做す。猶使途不詳の假拂金も流動資産に合算す。從つて此の中には假拂金、未經過保險料、預り有價證券の如き會計學上流動資産と認め難いものも若干包含す。

【收入・支出】 收入中には前期繰越金、積立金準備金等の戻入、財産評價益、他社合併益等を含まず。又各種償却金、賞與金、弔慰金、減資損金は支出中より除く。然し、鑛工業其他の會社の法定退職手當準備積立金、瓦斯會社の報償金は經費と看做す。

【利益金】 利益金は前述の如く償却金、賞與金等控除前のものである。從つて之等を支出にて落せるものに就ては、之をそれぞれ資産負債の當該勘定に還元す。

【利益率】 對平均拂込資本利益率。

【償却年率】 $(\text{償却金額} \times 2) \div (\text{使用總資本} - \text{繰越勘定})$

【株價】 東京及大阪實物相場より適宜採擇す。

日本製鐵

【設立】昭和九年一月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内郵船ビル (電九ノ内二四一七)

【擴充計畫】 昭和十一年擴張五ヶ年計畫なるものを樹て、昨年完了した。が更に全面的擴張を目論み今年から再び擴張五ヶ年計畫を意圖して、實行に着手してゐる。當社の擴張計畫は頗る尅大で、資金需要の面から見ても、十六、十七の二ヶ年間に約八億一千萬圓を必要としてゐるのだから、その規模に就て凡その見當が付くだらう。

【業績】 最近の業績は芳しくない。下表の如く十三年以來、業績は低下してゐる。原因は引續く急激な膨脹に伴ふ未働資産の壓迫と、銑鐵の採算割れである。今後未働資産の負擔は完全に除去出來ぬが、後述の如く銑鐵補償で採算は好轉したから、現行七分配當に懸念はない。最悪の場合でも政府持株を無配にすれば民間株の七分配當はまづ安泰と言つてよい。

【銑鐵補償】 今回の銑鐵補償制で、當社の外賣銑鐵を對しては、その赤字額だけを全額補償されることになつた。大體半期二千二百萬圓程度の補償を受けることになつたが、之で當社の採算は著しく樂になつた。業績にそれだけ餘裕が生れた譯だ。

鐵鋼事業

【事業】 鐵鋼、鋼材、鋼板、其他製鐵副製品	【資本】 公稱 5,000,000 拂込 5,680,000 政(50%) 2,840,000 民(50%) 2,840,000 新(三五) 6,000,000	【重役】 社長 津田次郎 常務 渡邊義介 津田次郎 理事 原田源次郎 永井源次郎 監事 市川生一 福松本村次郎 市川生一 福松本村次郎 波島三郎 梶本井村次郎 波島三郎 梶本井村次郎 波島三郎 梶本井村次郎 波島三郎 梶本井村次郎 波島三郎 梶本井村次郎	【資産負債】 十五年 十六年 株主資本 7,910,000 8,370,000 外債 4,710,000 4,710,000 借入金 2,700,000 2,700,000 短期借入 2,700,000 2,700,000 使用總資本 10,620,000 11,080,000 流動資産 4,500,000 4,500,000 固定資産 6,120,000 6,580,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 手形 1,500,000 1,500,000 現貨 3,000,000 3,000,000	【收入】 十五年 十六年 売上 1,000,000 1,000,000 利息 1,000,000 1,000,000 其他 1,000,000 1,000,000 合計 3,000,000 3,000,000 支出 2,000,000 2,000,000 償却 1,000,000 1,000,000 其他 1,000,000 1,000,000 合計 2,000,000 2,000,000 利益 1,000,000 1,000,000	【配當】 十五年 十六年 配當率 10% 10% 配當額 300,000 300,000	【株價】 十五年 十六年 八月 55.00 55.00 九月 55.00 55.00 十月 55.00 55.00 十一月 55.00 55.00 十二月 55.00 55.00
-----------------------	--	--	--	--	--	--

小倉製鋼

【設立】大正七年十二月
【決算期】四月 十月
（本社）福岡縣小倉市許斐町一番地（電 三三三―七）
（事務所）東京市麩町區丸ノ内海上ビル新館（電 九六六―五）

【減配懸念】 當社は近年減配を続けてきた。之は全く業績の低下によるものだ。十六年上期に利益率一割三分を収め、配當を一分減配の八分とした。然しこの八分配當は業績から見れば餘裕あるものとは言へない。業績低下の原因は、銑鐵の採算悪化と未働資産の業績壓迫にある。銑鐵の採算悪化は補償制で一應緩和されるだらうが、まだ當分苦しい業績が続くものと思はれる。減配懸念は尙ほ去らぬとみられる。

【擴張計畫と増資】 當社の擴張計畫の主なるものは高爐及び壓延設備の新設である。之が擴張資金として總額一千萬圓を必要としてゐる。會社當局者は拂込徴收を行ふ意嚮の様である。當社の株價の現状からすると拂込徴收は難しい。且つ未拂込額四百萬圓を徴收しても擴張資金は到底賸はれない。と言つて再増資も困難ではあるまいか。恐らく借入金で賸ふ外あるまい。

【原料問題】 當社に限らず原鐵石の確保は重大な問題である。例へ當社が相當量の屑鐵を持つてゐるとしても時間的問題だ。銑鋼一貫設備と相俟つて原鐵の確保は今後一段と高まるだらう。

中山製鋼所

【設立】大正十三年
【決算期】三月 九月
（本社）大阪市大正區船町三（電 泉尾三―一七）
（支社）東京市麩町區大手町日清生命ビル（電 丸ノ内二―一）

【減配】 當社は十六年九月份決算で、一割から二分減の八分配當に改めた。九月份の成績を見ると利益率は一割三分六厘で、二分減配は當然の措置であつた。だが今回の銑鐵補償で、當社の業績が假りに低下して七分配當が出来ない場合は、七分配當が出来る範圍で補償されることになつた。當社にとつて福音といふべきだ。當社の外賣銑は應當り百三十萬圓だ。之は商工省の特定認可價額で損はしてゐない。だが、生産費の昂騰で著しく利市は狭められてゐる。かうした採算悪化が業績に響いてゐる譯だ。

【騰て回復】 當社の成績低下も大體九月份が底で十七年三月份には早くも回復が期待される。第二高爐が稼行期に入つたので、未働資本の壓迫が軽減される筋合にあるからだ。騰て第二高爐の増産で、製鋼、壓延部門の採算率はかなり高まるし、更に副産物の収益も増加する。何れにしても明年三月份以降の成績向上は必至の筋合と云つてよい。配當は八分だから餘力は内容充實に廻せる。假りに、業績が低下したとしても前述の補償制で七分配當を補償されてゐる點強味だ。

【事業】	
鐵鋼の製造及加工	三、〇〇〇
株數	一〇〇,〇〇〇
【株主】	新(三七) 〇〇〇〇〇
【役員】	社長 淺野 一郎
	副社長 中野 武夫
	常務 金子 武雄
	監査 野口 三郎
	田喜 八郎
	淺野 八郎

【株主】	
第一及安田銀行	一、〇〇〇,〇〇〇
【大株主】	十六年四月現在
【金種關係】	一六、四〇〇
【大株主】	一、〇〇〇
【主要製品】	鋼塊 鋼片 鋼線 鋼管 其他
【主要原料】	鐵礦石 焦炭 石灰石 其他
【事業】	鐵鋼、鋼板、鋼材、薄板、鋼力、特殊鋼、亞鉛、洋鈞等の製造販賣

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【株主】	
株主總數	一〇〇,〇〇〇
【業續】	平均拂込利益率配當率
十六年	八・〇%
十五年	七・二%
十四年	六・五%
十三年	五・八%
十二年	五・〇%
十一年	四・二%
十年	三・五%
九年	二・八%
八年	二・〇%
七年	一・二%
六年	〇・五%
五年	〇・〇%
四年	〇・〇%
三年	〇・〇%
二年	〇・〇%
一年	〇・〇%

【製鋼事業】

大同製鋼

【設立】大正十年十一月
【決算期】三月 九月

(本社) 名古屋市中區星崎町字編出六六(電話五五一九〇)
(支店) 東京市芝區田村町一ノ三飛行會館(銀座六六六一)

【下期業績】 去る九月末締切の十六年下期業績は償却前の利益六百七十萬圓、利益率三割四分三厘で前期に比し百二十萬圓の増益、利益率にして八厘方の向上に當る。特殊鋼生産の重點會社として、連續的な擴張を續け、未働資産の業績壓迫も頗る大きい譯だが、製品に信用があり、受註が繁忙を極めて常に能力一杯の作業を營んでゐる結果から、成績は向上の一途を辿つてゐる。

【擴張計畫】 目下星崎、築地、熱田、宮古、川崎の各工場並富永の大阪工場擴充が進められてゐる。續いて當社全生産力再擴充計畫が實施される豫定で、一方外地に東拓と共同で原鐵製造の子會社設立を目論んでゐる。これらに要する資金は尨大な額に上るが、不取敢年明早々に社債を發行し賄ふ意向だが、或は特殊な資金獲得の路が開かれることとなるかも知れぬ。

【今後】 當社の製品は大部分特殊鋼の註文に基くもので、材料は優先的に配給される。尙海綿鐵の生産も本格化して原鐵不足を補てゐるから材料關係に不安はない。作業能率の向上で業績も益々好調とならう。

【事業】 製鋼、製鐵、特殊鋼、合金鐵製造、一般金屬工業
【資本】 公債 5,000,000
株 數 新(三〇〇) 600,000
舊(三〇〇) 600,000

【役員】 社長 川崎 下出 義雄
副社長 長瀬 忠 村 秀 三
部長 十郎 川 永 三
部長 坂下 忠 高 貞
部長 坂下 忠 高 貞
部長 坂下 忠 高 貞
部長 坂下 忠 高 貞

【金融關係】 愛知、名古屋銀行
株主數(名) 十六年三月期 6,668
大株主(名) 107、143

【投資會社】 愛知、名古屋銀行
同機製作 其他 三重 瑞 大
同機製作 其他 三重 瑞 大

【資産負債】 十五年 十六年
株主資本 九,000,000 一〇,一七〇,〇〇〇
外部負債 四,〇〇〇,〇〇〇 四,〇〇〇,〇〇〇
内部負債 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇

【收支勘定】 十五年下 十六年上
現金預金 五,〇〇〇,〇〇〇 五,〇〇〇,〇〇〇
流動資産 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇
固定資産 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇

【業續】 平均拂込利益率 當業率
三年上 7.1%
三年下 7.1%
四年上 7.1%
四年下 7.1%

【名義書換】 五錢(新券交付) 三錢
九月 五・五〇〇・二九一・二六〇
十月 五・二二五・三三六・二六八

【製鋼事業】

日本特殊鋼管

【設立】昭和十年十一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市城東區南砂町九ノ二(電本所六〇三三)
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内南有樂館内(丸ノ内六四四一)

【日鐵との提携進捗】 當社と日鐵との提携工作は相當進捗してゐる。この提携は巷間傳へる如き合併や買収ではなく、當社資本への日鐵の参加及び當社の經營及び技術に對する日鐵の援助と云ふ程度のものである。この提携の眼目は、當社戸田工場に於て今年春より行つてゐる或る種の化學工業用パイプの製造、及び大湊工場の砂鐵製鍊事業を、日鐵が資本、資材及び技術を以て支援しようといふのである。この結果は、戸田工場の未働設備がフルに働き、化學用パイプの増産で莫大な利益が期待される。また大湊の砂鐵事業の發展も約束される。

【下期業績低下】 去る十一月末締切の十六年下期は大湊工場のポール・ミル建設が遅れたこと、戸田工場が水害のため二ヶ月操業を中斷したこと、業績に一大低下が齎された。全體の總利益は約二百萬圓に止まる。この限り八分配當は無理だが、戸田の減益は一時的な災害に基くものだし、大湊のポール・ミル設備も完成し、來期より収益が増大するから、無理を忍んでも八分配當を据置くこととならう。

【事業】 鋼管、特殊鋼、砂鐵製鍊並に之に必要なる金屬
【資本】 拂込済 6,000,000
株 數(名) 600,000

【役員】 社長 橋本 三郎
副社長 中島 一
部長 中島 一
部長 中島 一
部長 中島 一

【金融關係】 安田銀行、第百銀行
株主數(名) 十六年五月末現在 4,322
大株主(名) 16

【資産負債】 十五年 十六年
株主資本 二,七〇〇,〇〇〇 二,七〇〇,〇〇〇
外部負債 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇
内部負債 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇

【收支勘定】 十五年下 十六年上
現金預金 七,七〇〇,〇〇〇 七,七〇〇,〇〇〇
流動資産 一,〇〇〇,〇〇〇 一,〇〇〇,〇〇〇
固定資産 三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇

【業續】 平均拂込利益率 當業率
三年上 7.1%
三年下 7.1%
四年上 7.1%
四年下 7.1%

【製鋼事業】

【鐵鋼事業】

日本高周波重工業

【設立】昭和十一年一月

【本社】朝鮮京城府黃金町二ノ九(電本局七八一三)

【支社】東京市麹町區内幸町一ノ二東拓ビル(電銀座二五〇)

【下期業績】十六年上期は、賣上高が増加したにかゝらず、原價高の爲め製品益が減つて元々苦しかつたところへ、有價証券値下り損を落さねばならなかつたので、四十五萬圓の積立金戻入れをして決算のつちつまを合せねばならなかつた。が、下期はこれにくらべると若干楽な様だ。下期の賣上高は概算三千四、五百萬圓に上る見込みであるから、製品差益は七百五、六十萬圓に上るであらう。これに、配當收入の五十萬圓、雑益の八、九十萬圓及び支拂利息の二百萬圓、雑損の八、九十萬圓を加減すると、大約六百萬圓の利益勘定になる。これより固定消却二百萬圓、積立金も前期同額の九十萬圓を差引き、更に九分配當として配當金二百二十五萬圓を差引くと八十五萬圓程残る。これだけの利益があれば、有價証券値下り損を更に落すとしても、前期のやうな戻入等をせずにやれる。

【合理化につとめよ】城津の第二期分の工事は今年いつばいに完成する。併し十七年上期中位は未だそのフル活動化はのぞまれない。第三期計畫へそなへての合理化と能率向上とは當社當面の最大肝要事である。

三菱鋼材

【設立】大正六年四月

【本社】東京市城東區大島町六ノ二二〇(電本所二三三)

【業績】十六年九月締切決算は執筆期間中にはまだ詳でないが、大體一割配當措置は確定的である。たが當社の業績は最近低下してゐる。原因は拂込資本の増高による未働資産の業績壓迫にある。これは過渡的現象であることは勿論だが、今後深川工場の擴張計畫が具體化すれば、資金を賄ふために最終拂込徴収更に増資は必至だ。だから當分未働資産の壓迫から逃れることは出来ない。従つて一割配當も窮屈とならうし、増資の曉には一分程度の減配は覚悟せねばなるまい。

【發展性】

當社は三菱重工、三菱電氣と共に三菱系の會社である。資本金は僅か二千萬圓に過ぎない小會社であるが、バックに三菱を控へてゐるだけに、種々の利便が與へられる譯で、發展性も期待される。

【生産方法】

當社は層鐵から鋼材を造つてゐる。十五年夏米國の日本向層鐵を禁止以來、層鐵依存會社は原鐵一貫生産に切替へたが、當社は依然層鐵依存主義を堅持してゐる。無論、材料は割當だから、今後思ふ様に供給を受けることは至難だ。この點惱みだ。

Table with multiple columns containing financial data for various companies and departments, including sections for '事業', '株主', '資産負債', and '収支勘定'.

【鐵鋼事業】

【鐵鋼事業】

尼崎製鋼所

【設立】昭和七年四月
【決算期】三月 九月

(本社) 兵庫縣武庫郡大庄村中瀬新田五六(電福島三六八)

【一割増置】十六年下期(九月)決算は百九十七萬五千圓の利益金をあげ、前期に比し七萬五千圓の増加を示したが、拂込徴収の壓迫を蒙り、利益率は二割六分三厘となり、前期より更に一分四厘の低下となつた。一、二年前の三、四割臺の利益率に較べると業績の低下は明かだが、右の決算から見ると一割増置の据置きには差支へない。

【業績順調】姉妹會社尼鐵の操業開始によつて、愈々一貫作業も確立され、當社の屑鐵難も著しく緩和されるから、今後は業績も順調を辿るであらう。

【事業】	山形角鋼管特殊鋼
【資本金】	公稱 八、〇〇〇
【株數】	拂込 五、〇〇〇
【重役】	新(三〇〇) 二〇、〇〇〇
【取締役】	淺野義夫 井上長太夫
【監査】	末兼要三郎 久保田權
【常務】	井上好三郎 平岡富治
【取締】	千原金三郎 井上長太夫
【次長】	末兼要三郎 久保田權
【二名】	島田英吉 他
【多田基太郎】	北島安太郎 他

【金融關係】	三井、三和、興銀
【大株主】	十六年下期 一、四〇名
【株數】	井上光治 二、四九名
【業績】	利益金利益率配當率
【十六年下期】	一、〇〇〇 三、五〇
【十五年下期】	一、八六六 二、七〇
【十四年下期】	一、九七五 二、三〇
【株價】	(實物) 安値 高値
【十五年下期】	六三・五五 〇・五〇
【十六年下期】	一五五・〇五 〇・六七

尼崎製鐵

【設立】昭和十二年八月
【決算期】五月、十一月

(本社) 大阪市北區堂島密通一(電北四七五)

【銑鐵補給】當社は銑鐵一本で製鋼部門はなく、出銑は凡て姉妹會社尼鋼と久保田鐵工に供給される。建設中の第一高爐も去る六月上旬に火入れを行ひ、愈々操業を開始した。新設だけに既高爐より原價は一層割高にづくが、今回の補償制によつて算盤は採れるやうになるので、當社は非常な思恵を蒙る譯だ。

【初配當期待】尤も從來無配を續けてゐたのが、來期から直ちに七分配當も出來まい。操業早々で能率も良くないから初配當をするにしても五分程度で、後は業績次第で一分あて増配するのではないかと思ふ。

【資本金】	拂込 五、〇〇〇
【株數】	(三〇〇) 七、〇〇〇
【重役】	社長 久保田權四
【取締役】	川端駿一 井上長太夫
【監査】	島田英吉 他三名
【常務】	津田信吾 他二名
【取締】	久保田權四
【次長】	津田信吾
【二名】	久保田鐵工所
【多田基太郎】	久保田鐵工所

【業績】	利益金利益率配當率
【十四年下期】	一、〇〇〇 三、五〇
【十五年下期】	一、八六六 二、七〇
【十六年下期】	一、九七五 二、三〇
【株價】	(實物) 安値 高値
【十五年下期】	六三・五五 〇・五〇
【十六年下期】	一五五・〇五 〇・六七

【鐵鋼事業】

東洋鋼板

【設立】昭和九年四月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪市北區宗是町一大阪ビル(電上佐堀五七七)
(出張所) 東京市麹町區内幸町幸ビル(電銀座三六五)

【日鐵へ統合】當社の日鐵への統合は近く具體化される模様だ。形式は買収に落着くことになるらしいが、その方法は嘗て大阪市が青バスの買収したと同様に、日鐵は或る期間を定めて、日鐵持株以外の株式を市場から買取ると云ふことになるらしい。株價の算定は當社の資産内容(固定資産)の優劣を基準とされることは當然である。然し日鐵が當社の設備を活用することによつて、將來少なからぬ利益を受けることも考慮される。彼れれ考へ合せれば、買収株價は時價(五十圓弱み)よりも高く決定されることにならう。

【事業】	鋼板及同加工品
【資本金】	公稱 二五、〇〇〇
【株數】	拂込 二〇、〇〇〇
【重役】	新(五〇〇) 一〇〇、〇〇〇
【取締役】	小野耕一 中松眞卿
【監査】	有川一助 常務 中山克己
【常務】	磯田吉 他三名
【取締】	磯田吉 他三名
【次長】	磯田吉 他三名
【二名】	磯田吉 他三名
【多田基太郎】	磯田吉 他三名

【大株主】	十六年上期 五五名
【業績】	利益金利益率配當率
【十六年上期】	一、〇〇〇 三、五〇
【十五年上期】	一、八六六 二、七〇
【十四年上期】	一、九七五 二、三〇
【株價】	(實物) 安値 高値
【十六年上期】	六三・五五 〇・五〇
【十五年上期】	一五五・〇五 〇・六七

吾孀製鋼所

【設立】昭和八年八月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市向島區吾孀町東四ノ六一(電墨田三五九)

【業績】當社の業績は最近甚だ不振である。十六年上期に於いても、利益率は一割六分一厘に過ぎない。これは前期の利益率一割六分とほぼ同様であつた。而もこれで配當は八分をつけてゐるから、相當窮屈を免かれぬ。十六年下期業績も大體前期並の成績を収めることが出来るようだ。従つて當期も會社當事者は八分配當を据置く意向のやうだ。

【事業】	線材、薄鐵板、中板、厚板、各種鋼
【資本金】	公稱 六、〇〇〇
【株數】	拂込 二〇、〇〇〇
【重役】	社長 久保田權四
【取締役】	川端駿一 井上長太夫
【監査】	島田英吉 他三名
【常務】	津田信吾 他二名
【取締】	久保田權四
【次長】	津田信吾
【二名】	久保田鐵工所
【多田基太郎】	久保田鐵工所

【投資會社】	東鋼業、日本鋼業
【業績】	利益金利益率配當率
【十六年下期】	一、〇〇〇 三、五〇
【十五年下期】	一、八六六 二、七〇
【十四年下期】	一、九七五 二、三〇
【株價】	(實物) 安値 高値
【十六年下期】	六三・五五 〇・五〇
【十五年下期】	一五五・〇五 〇・六七

【鐵鋼事業】

宮製鋼所

【設立】昭和十年十月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市城東區南砂町六ノ四一〇(電本所三三二一五)

【業績】 當社の業績は最近幾分低下傾向にあるといふものの、利益率は依然三割を維持してゐる。十六年下期決算も大體前期並の業績を収め、配當は一割を据置いた。

【今後】 十五年夏の米國の對日向屑鐵禁輸で、當社は平爐會社として相當不安視されたが、新設の電氣爐により生産した純鐵から更に製鋼への處理も順調に進んでゐるから心配はない。たゞ今後の問題は原料の屑鐵と銑鐵の確保である。子會社報國砂鐵製鍊も順調に進んでゐるやうだし、この點當社にとつて強味だ。

【事業】 サツシユ、リム及び
 【資本】 拂込済 六、〇〇〇
 【株數】 新(五七・〇) 一〇〇、〇〇〇
 【役員】 社長 高妻俊秀
 専務 多田水昌 常務 濱野長松
 取締役 取締 千田武彦 監査 萩原善太 伊藤専治
 監査 高妻秀時 千葉三郎
 【大株主】 十六年上 七三・三
 高妻俊秀 三三、五〇〇
 大谷米太郎 一〇、〇〇〇

【事業成績】 (千圓)
 十五年下 十六年上
 売上高 二、七九二 三、六八七
 売上原價 二、三九一 三、一七六
 【業績】 利益金利益率配當率
 十五年上 一、〇九八 四・四 一・〇
 十五年下 六八二 三・七 一・〇
 十六年上 六八二 三・五 一・〇
 十六年中 七三三 三・五 一・〇
 【株價】 (實物) 高値 四・五
 安値 三・五
 十六年 四・三
 十月 四・〇

報國砂鐵製鍊

【設立】昭和十四年三月
【決算期】二月 八月

(本社) 東京市京橋區西八丁堀四ノ四(電京橋七六四一五)

【初配期待】 今期の締切は十七年二月だが、業績は今のところ順調で、この調子なら初配六分見當は大體出来るやうだ。勿論前期の業績でも、六分程度の配當なら付けることが出来たが、一期自重した譯。

【今後】 當社は十四年春設立された新進會社である。事業は獨特の工夫で砂鐵から純鐵を造り、日本ニツケル、神戸製鋼等に供給してゐる。原料の砂鐵も所有の鐵山で需要の七割まで自給してゐるが、近く行ふ青森鐵區の開発で百パーセント自給の見込がたつてゐる。當社の今後は期して待つべきものがある。

【事業】 鐵及鐵合金製造、鑄
 【資本】 拂込済 四、〇〇〇
 【株數】 新(五〇・〇) 一〇〇、〇〇〇
 【役員】 社長 高妻俊秀
 専務 山崎吉 常務 大澤直重
 取締役 取締 入來重彦 監査 岡谷順之助 武鶴次郎
 監査 飯島賢作 北川源次郎 柏原孫左衛門 林莊治
 【大株主】 十六年上 三三・三
 高妻俊秀 一八、一〇〇
 山崎吉 一、〇〇〇
 宮製鋼所 五、〇〇〇
 【業績】 利益金利益率配當率
 十六年上 一、一〇五 四・七 無配
 十六年下 一、〇七五 四・一 無配
 十六年中 二、一八〇 四・四 無配
 使用總資産 六、八八八 七、六四〇
 流動資産 一、〇〇五 一、七二五

【工場所在地】 秋田、鶴見
 【資本金】 十五下 十六年上
 株主資本 一、一〇五 一、〇〇〇
 外部負債 一、一〇五 一、〇〇〇
 流動資産 一、〇〇五 一、〇〇〇
 使用總資産 二、二一〇 二、〇〇〇
 固定資産 一、二〇五 一、〇〇〇
 流動資産 一、〇〇五 一、〇〇〇
 十六年上 一、〇〇五 一、〇〇〇

【鐵鋼事業】

特殊製鋼

【設立】昭和四年六月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市蒲田區南六郷二ノ三五(電大森三五五)

【業績】 十六年十月締切決算も、大體前期並の業績を収めることが出来るやうである。従つて會社當事者も現行配當率一割一分を据置く意圖のやうだ。當社の業績は左表の如く頗る優秀だ。十六年上期業績で利益率は七割三分二厘を収めた。當社が一割一分の高率配當をしても、その餘裕綽々たる所以が肯げよう。

【今後】 當社の生産はその九割までが特需向である。従つて、原材料の供給も當面心配ない。尙ほ當社は發展計畫を持つてをり、最終拂込徴收、増資も期待される。

【事業】 特殊鋼、兵器鋼其他
 【資本】 公稱 一五、〇〇〇
 拂込済 一三、三〇〇
 【株數】 新(五七・〇) 一〇〇、〇〇〇
 【役員】 社長 石原米太郎
 取締役 山下英治 清水雪 監査 渡邊政人 松島嘉市郎
 監査 畔柳三男 竹内勝之助
 【大株主】 十六年上 一、五三六
 石原米太郎 一五、〇〇〇
 徳米太郎 一五、〇〇〇

【金融關係】 野村銀行
 【工場】 東京、川崎
 【業績】 利益金利益率配當率
 十五年上 二、三三三 五・〇 一・〇
 十五年下 四、三三三 六・九 一・〇
 十六年上 四、五五五 七・三 一・〇
 十六年中 三、五七〇 九・七 一・〇
 十六年 七〇・六 八・五 一・〇

秋田製鋼

【設立】昭和十三年八月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市日本橋區通國分ビル(電日本橋四九三)

【稼働期】 當社は純鐵、特殊鋼兩部門の生産設備の擴張を行つてゐる。この擴張設備が完成すれば、製造能力は従來に倍加することになる。擴張は資材の關係で遅れたが、十六年末には完成の運びである。従つて十七年早春には擴張設備は本格的に稼働することにならう。

【業績】 最近業績は順調でない。十五年上期以來每期一分づゝ減配してゐる。之は設備が稼働期に入つてゐないためである。併し來春からはフル運轉を開始するから、業績は向上の筋合にある。

【事業】 各種特殊鋼其他
 【資本】 拂込済 二、五〇〇
 【株數】 新(五〇・〇) 一〇〇、〇〇〇
 【役員】 社長 相澤治一郎
 取締役 花岡元吉 常務 橋本七良 監査 大岩伸 式村儀一
 監査 白井兵衛
 【大株主】 十六年上 一、五三六
 秋田製鋼 一五、〇〇〇
 共同證券店 三、〇〇〇

【工場所在地】 秋田、鶴見
 【資本金】 十五下 十六年上
 株主資本 一、一〇五 一、〇〇〇
 外部負債 一、一〇五 一、〇〇〇
 流動資産 一、〇〇五 一、〇〇〇
 使用總資産 二、二一〇 二、〇〇〇
 固定資産 一、二〇五 一、〇〇〇
 流動資産 一、〇〇五 一、〇〇〇
 十六年上 一、〇〇五 一、〇〇〇

東海鋼業

【設立】大正五年十二月
【決算期】五月 十一月

【本社】東京市麹町區丸の内一ノ二（電丸ノ内一八九）
【出張所】大阪市西區江之子島西町

【一割据置】十六年十一月期締切決算も、大體前期並の業績を収めることが出来るやうだ。現行配當率一割も据置けよう。

【特殊な立場】當社は日鐵から鋼塊の供給を受ける特殊契約のもとに設立された會社だ。最近原料供給機關たる日本鋼材から各社一律に配給を受けることになり、従つて日鐵との特殊契約も自然解消の形である。

【今後】原鐵一貫生産をしてゐないだけに、當社の採算は比較的有利だ。然し鋼材の價格は公定され而も前述の特殊契約は解消したし、前途は興味が薄い。

【事業】鋼板、條鋼、軌條
【資本金】公稱 三、〇〇〇
【株數】拂込 二、二五〇
【重役】社長 大橋不二雄
取締役 白石元治郎 岡崎久
次郎 伊藤九萬一 監査
長谷川太郎吉 大西良輔
岡崎博
【大株主】十六年上 三〇四名
大橋不二雄 一〇、三三八
小倉製鋼 六、八四〇

【金融關係】武州銀行
【業績】利益金利率配當率
一三年上 六三・二
一四年上 七九・七
一五年上 五九・六
一六年上 四四・二
一六年下 四二・五
一五年下 三三・五
一六年下 三三・四
【株價】(實物)高値
一五年中 五〇・〇
一六年中 四〇・〇
一六年下 四〇・〇
【安値】
一五年中 四〇・〇
一六年中 四〇・〇
一六年下 四〇・〇

日本電解製鐵所

【設立】昭和元年十二月
【決算期】三月 九月

【本社】横濱市鶴見區寬政町一（電鶴見三三八）

【九月期業績】十六年九月期は前期業績と殆ど變りなく、利當金六十六萬七千圓、利益率二割強を擧げ八分配當を据置いた。賣上高は四百二十五萬圓と前期に比し百萬圓近く増加したのに、利益金は前期と殆ど同額だ。之はコスト高の關係もあるが、相當内面償却を行つてゐると想像される。賣上増加は特需品の繁忙とマスコロイ(ニクロム線代用品)の需要増に基く。

【前途】特殊鋼工場は擴張分が十六年十月から動き出し、特殊鋼能力は倍増した。なほ日電からの借金を株式に振替へて十二月一日に全額拂込となる。

【事業】電解製鐵事業、合金
【資本金】公稱 一〇、〇〇〇
【株數】拂込 一〇、〇〇〇
【重役】社長 高津啓一
取締役 三木高延 取締 廣
専務 三木高延 取締 廣
山信夫 増田正雄 齋藤良
清鹿子 木三郎 東島好
瀧香月 鏡之助 下村健一
丸井亞彦

【大株主】
日電株式 一、二、七五〇
【業績】利益金利率配當率
一四年上 五七・二
一五年上 六三・一
一五年下 六三・〇
一六年上 六三・〇
一六年下 六三・〇
【資本異動】十四年七百萬圓
増資現在に至る

日本砂鐵鋼業

【設立】昭和九年十一月
【決算期】五月 十一月

【本社】大阪市南區後町二ノ五六第二野村ビル（電本町八三）
【出張所】東京市麹町區丸の内丸ビル（電丸ノ内五五七）

【擴充進む】當社の八戸新工場は着々と完成に向つて進行してゐる。即ち砂鐵採集場は完成し、バナジウム抽出工場も完成操業中である。残る海綿鐵、チタン工場を目下建設中であるが、之が完成後は砂鐵の完全處理工場として、當社の収益力を一段と高めることになるだらう。

【前途】當社の内容は餘りよくない。建設過渡期にあるのと高物價期に建設された工場が多いから、固定資産は割高となり、内容の充實を缺く。然し事業は國策的であるから、行き過ぎた懸念は無用であらう。

【事業】砂鐵製鐵、バナジウム抽出、チタン抽出、工具製造
【資本金】公稱 三、〇〇〇
【株數】拂込 二、〇〇〇
【重役】社長 石崎長八郎
取締役 上野建二 若林秀雄
常務 尾野勇 津嶋谷武次
相談 藤本B 藤本B
北電興業

【金融關係】住友、野村、三和
【業績】利益金利率配當率
一五年上 一七・〇
一五年下 一八・八
一六年上 二二・四
一六年下 二二・四
【株價】(實物)高値
一五年中 四〇・〇
一六年中 四〇・〇
一六年下 四〇・〇
【安値】
一五年中 三三・二
一六年中 三三・二
一六年下 三三・二

大阪特殊製鋼

【設立】昭和十三年九月
【決算期】四月 十月

【本社】大阪市東區唐物町四ノ二九（電話場三三〇一）
【營業所】東京市芝區田村町國際觀光館（電銀座五〇）

【新分野開拓】當社は技術至難と云はれる軸承用ボール鋼の製造に成功した。それも日鐵より早かつただけに、當事者の喜びもさこそと想はれる。勿論數量は少ないので、目下増産に努力を拂つてゐる。尙ほ當社は切削鋼の國産化にも成功した。新進小規模ながら次々に新分野を開拓しつつある當社の技術陣は、相當高く評價されてよい。之が當社の強味でもある。

【前途】創立滿三ヶ年を経過したばかりで、内容が充實味を缺くのは當然であるが、適正配當が九分だから、さう悪いとも云はれない。

【事業】高速度鋼其他
【資本金】公稱 三、〇〇〇
【株數】拂込 二、〇〇〇
【重役】社長 生悦住貞太郎
取締役 加藤博義 住貞太郎
常務 後藤一平 西正
大洞三郎 道文 中取
李家新 文 三輪元治
雄中平三郎 宇市之助
田中平三郎 宇市之助
相談 北西三郎 宇市之助
北西三郎 宇市之助
北西三郎 宇市之助

【金融關係】愛國生命、第百銀
【大株主】十六年上 三三名
生悦住貞太郎 八、一〇〇
【業績】利益金利率配當率
一五年上 三三・〇
一五年下 三三・〇
一六年上 三三・〇
一六年下 三三・〇
【株價】(實物)高値
一五年中 七〇・〇
一六年中 七〇・〇
一六年下 七〇・〇
【安値】
一五年中 五九・五
一六年中 五九・五
一六年下 五九・五

【鐵鋼事業】

石産金屬工業

【設立】昭和七年一月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市日本橋區通一ノ四ノ三(電日本橋五七一)

【問題點】過去の經營者に對する不信用によつて株價は低迷してゐる。現在は石原産業海運の手にて整理されつゝあり、石原系の松尾鑄鋼、第一製鋼を合併し資本金八百七十八萬圓(舊小島電氣製鋼は資本金五百萬圓)となつた。經營陣、技術陣等も漸次改まりつつあるが、なほ借金が約一千百萬圓(内四百萬圓は石原から)に及び、その整理が完了しない。

【配當政策】九月末締切の十六年下期決算が未だ確定しない。一舉無配として更生策を樹立するのが本筋だ。平塚工場の有效な運営を圖るべきだ。

【事業】	特殊鋼、鍛鋼品、鑄鋼品、鋼用諸機械其他
【資本金】	拂込済 五、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	(五、〇〇〇)
【役員】	社長 石原新三郎 副社長 石原重三郎 常務 林田七郎 石原重三郎 部長 吉田和夫 石原重三郎 部長 高田儀三郎 石原重三郎 部長 高田儀三郎 石原重三郎 部長 高田儀三郎 石原重三郎 部長 高田儀三郎 石原重三郎
【大株主】	十六年上 五五名
【業績】	利益金利益率配當率
十六年上	六三三〇 六三・〇〇 五・〇〇
十五年上	四九二〇 四九・二〇 四・〇〇
十四年上	三三三〇 三三・三〇 三・〇〇
十一年上	一三三〇 一三・三〇 一・〇〇
十一年中	一三三〇 一三・三〇 一・〇〇
十六年中	一三三〇 一三・三〇 一・〇〇
【株價】	(實物)高値 三三・〇〇 安値 二七・〇〇
【金融關係】	第一銀行

日亞製鋼

【設立】大正七年三月
【決算期】三月 九月

(本社) 兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田(電福島四三)

【下期減配】當社は十六年九月份決算に於て、一分減の一割一分配當に改めた。利益金は百五十一萬九千圓で利益率は四割五厘となり、前期の利益金百五十一萬六千圓、利益率四割四厘と大差ない成績であつた。従つてこの減配は政策的とみるべきだ。

【前途】平爐製鋼部門は依然芳しくないが、加工部門並に時局品部門は伸々良好である。當面急激な變化はあるまいと思はれる。然し、内容充實の立前配當は更に引下げられ、結局一割乃至九分位とならう耐久力の増強を計る手段として當然の措置であらう。

【事業】	亞鉛鍍加工及帶鐵
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	(舊)五〇、〇〇〇
【役員】	社長 田中徳松 副社長 田中徳松 常務 井坂隆治 田中徳松 部長 井坂隆治 田中徳松 部長 井坂隆治 田中徳松 部長 井坂隆治 田中徳松 部長 井坂隆治 田中徳松
【大株主】	十六年下 四五名
【業績】	利益金利益率配當率
十六年下	一七、〇〇〇 一七・〇〇 一・〇〇
十五年下	一三、〇〇〇 一三・〇〇 一・〇〇
十四年下	一〇、〇〇〇 一〇・〇〇 一・〇〇
十一年下	一〇、〇〇〇 一〇・〇〇 一・〇〇
十一年中	一〇、〇〇〇 一〇・〇〇 一・〇〇
十六年中	一〇、〇〇〇 一〇・〇〇 一・〇〇
【株價】	(實物)高値 四四・〇〇 安値 三三・〇〇
【金融關係】	興銀、第一銀行

【鐵鋼事業】

昭和特殊製鋼

【設立】昭和十二年三月
【決算期】五月 十一月

(本店) 横浜市鶴見區生麥町神明前二〇三六(電鶴見三五五)

【増資決定】十六年十月、資本金四百萬圓から六百萬圓に、二百萬圓の半額増資を行つた。増資第一回拂込額八十萬圓(一株二十圓)を十二月二十日徴收した。この資金は鶴見工場の擴張費に充當するものだ。

【増配か】十六年十一月締切業績は頗る順調であり、會社常事者としては現行配當率九分五厘を五厘増の一割にしたい意嚮のやうだ。だが記者は増資した後でもあり、この際自重を望みたい。當社は軍管理工場で純鐵入手も當面心配ない様だが、然し樂觀は禁物であらう。

【事業】	高速皮鋼、炭素鋼、クロム鋼、ニッケルクロム鋼其他
【資本金】	拂込済 六、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	(五、〇〇〇)
【役員】	社長 石原重三郎 副社長 石原重三郎 常務 石原重三郎 部長 石原重三郎 部長 石原重三郎 部長 石原重三郎 部長 石原重三郎
【大株主】	十六年上 三三名
【業績】	利益金利益率配當率
十六年上	七、〇〇〇 七〇・〇〇 七・〇〇
十五年上	六、〇〇〇 六〇・〇〇 六・〇〇
十四年上	五、〇〇〇 五〇・〇〇 五・〇〇
十一年上	四、〇〇〇 四〇・〇〇 四・〇〇
十一年中	四、〇〇〇 四〇・〇〇 四・〇〇
十六年中	四、〇〇〇 四〇・〇〇 四・〇〇
【株價】	(實物)高値 一三〇・〇〇 安値 一〇〇・〇〇
【金融關係】	興銀、第一銀行

山陽製鋼

【設立】昭和九年十二月
【決算期】三月 九月

(本社) 大阪市西區立賣堀北通二ノ三(電新町三三三)

【減配す】當社は十六年九月份に五厘減配して九分配當に改めた。成績をみると利益金七十萬七千圓を計上し、利益率は二割五分七厘となる。前期に比し利益金は六萬六千圓の増益となるが、利益率は六分四厘の低下である。拂込資本の膨脹に利益の増加が伴はなかつたからだ。

【前途】第一期擴充は完了し、ベアリング鋼の生産高は一倍半の増産となる。十七年上期の成績向上は先づ間違ない所だ。内容は充實してをり、ベアリング鋼メーカーとして重點的存在である。

【事業】	特殊鋼、普通鋼製造、鍛延、壓延、熱處理及各種鋼火造品の製造並に賣買
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇、〇〇〇
【株数】	(舊)五〇、〇〇〇
【役員】	社長 山本東作 副社長 山本東作 常務 山本東作 部長 山本東作 部長 山本東作 部長 山本東作 部長 山本東作
【大株主】	十六年下 二八名
【業績】	利益金利益率配當率
十六年下	一八、〇〇〇 一八・〇〇 一・〇〇
十五年下	一六、〇〇〇 一六・〇〇 一・〇〇
十四年下	一四、〇〇〇 一四・〇〇 一・〇〇
十一年下	一三、〇〇〇 一三・〇〇 一・〇〇
十一年中	一三、〇〇〇 一三・〇〇 一・〇〇
十六年中	一三、〇〇〇 一三・〇〇 一・〇〇
【株價】	(實物)高値 四四・〇〇 安値 三三・〇〇
【金融關係】	興銀、第一銀行

【鐵鋼事業】

東京製鐵

【設立】昭和八年三月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内三三二二號館(電丸ノ内三〇〇)

【銑鐵補償問題】 銑鐵補償を受ける會社は六社に決定したが、當社はその選にもれた。従つて當面銑鐵の採算悪化を緩和することは出来ないが、然し銑鐵は外賣をせず、鋼材を造つてゐるだけに、賣銑してゐる會社ほど打撃はない。

【業績】 業績は順調に進んでゐるようだ。十六年十一月締切決算も、前期に引續き九分配當を据置くものと思はれる。建設中の函館製鐵工場の二十五瓩熔鑪もこの程完成し、十一月二十五日(十六年)火入式を行つた。今後出銑率も順調に進むであらう。

【事業】 薄鐵板各種、特殊鋼、鋼材、工作機械、石炭

【資本金】 公稱 六、〇〇〇
拂込済 六、〇〇〇

【株數】 株(五〇〇) 六〇,〇〇〇
新(三〇〇) 六〇,〇〇〇

【重役】 社長 南俊二 取
副社長 大谷益次郎 岩崎清七
取締役 高橋登二 大谷米太郎
監査 金丸喜一 河端政吉
【事業規模】 工場 橋本金山炭
礦、天草炭礦、大沼製鐵所

【大株主】 十六年上 一六名
南 俊二 二五,〇〇〇
築城セメント 三〇,〇〇〇

【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 八六・二 二・〇
一五年下 八八・〇 二・〇
一六年上 八八・〇 二・〇
一六年下 八八・〇 二・〇

【株價】 (實物) 舊新
一五年中 六・八四三〇 六・五二〇
一六年中 六・八四三〇 六・五二〇

【金融關係】 野村、第一銀行

滿洲鑄物

【設立】昭和十二年十月
【決算期】一月 七月

(本社) 奉天市大東區珠林街二段第七號 (電奉天六八一)
(支社) 東京市麹町區有樂町一ノ二東日會館(電丸五五八)

【増資近し】 當社は當局の懇意により、高マンガン鑄鋼、高クロム鑄鋼、其他特殊鑄鋼並に輕金屬鑄物の製造に進出することとなつた。その所要資金調達のため千萬圓増資を申請中であるが、この中に不意と査定されるものが約二百萬圓あるので、結局八百萬圓に削減の上、近々認可される見込みである。

【前途】 擴張過渡期には多少成績が壓迫されることは免れ難い。然しそれも時期の問題で、完成後は再び回復するだらう。配當は一割二分を行つてゐるが結局一割位に訂正され、餘力を内容充實に當てるだらう。

【事業】 鑄鋼、可鍛鑄鐵、工作機械及一般鑄物、其他

【資本金】 拂込済 五、〇〇〇

【株數】 株(一〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】 社長 根本富士男
副社長 根本富士男
取締役 志松崎清一郎 取藤水内
道下静雄 佐野隆一 杉宜
陳監査 佐野隆一 杉宜
田勝美 相談 山本盛正
【金融關係】 野村、第一銀行

【大株主】 十六年上 二、六四名
日 本 生 命 三、〇〇〇
日 本 富 士 男 三、〇〇〇

【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 五九・二 二・五
一五年下 五九・二 二・五
一六年上 五九・二 二・五
一六年下 五九・二 二・五

【株價】 (實物) 高値 安値
一五年中 六・八四三〇 六・五二〇
一六年中 六・八四三〇 六・五二〇

【金融關係】 加州、安田銀行

【鐵鋼事業】

徳山鐵板

【設立】昭和三年二月
【決算期】四月 十月

(本社) 大阪市東區高麗橋四ノ三第一ビル(電北濱二九二)

【減配か】 當社は専ら加工部門に力を注いで來たので、原料部門は貧弱である。時局以來、電氣爐製鋼に染手したが、原料關係で能力の半分位しか操業出來ない。尤も薄鐵板はドラム織用として最近特殊方面の需要が多く、この部門は頗る活況を呈してゐる。然し全般的にみれば操業率は漸次低下を避け得ないようだ。早晩一、二分の減配は免れないだらう。

【前途】 壓延會社の統合問題が今後どう展開されるか判らぬが、當社の如く原料部門が弱少なものは、不利な立場に追ひやられることになるかも知れない。

【事業】 薄鐵板、ドラム織、特殊鋼、中鐵板、帶鐵

【資本金】 拂込済 八、〇〇〇

【株數】 株(五〇〇) 八〇,〇〇〇

【重役】 社長 岩井雄二 取
副社長 友田一太 岩井雄二
取締役 野亮平 友田一太 岩井雄二
監査 下田伊三郎 村上永
井三郎 岩井豐治 村上永

【大株主】 十六年上 一、五〇名
川合 純商店 四、〇〇〇
岩井 一店 四、〇〇〇

【金融關係】 三和銀行

【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 八七・七 二・〇
一四年下 八七・七 二・〇
一五年上 八七・七 二・〇
一五年下 八七・七 二・〇

【株價】 (實物) 高値 安値
一五年中 六・八四三〇 六・五二〇
一六年中 六・八四三〇 六・五二〇

日本電氣冶金

【設立】昭和十一年二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 金澤市鳴和町二一
(出張所) 東京支店丸ノ内丸ビル内(電丸ノ内五三三)

【増資中止】 當社は豫ねてより倍額増資を申請中であつたが、種々の事情で延々ととなり、その内に環境が悪くなり、實際問題として増資が不可能の状態となつた。そこで當社は申請書を取下げ、増資は一應中止することになつた。その代り近々の内に一千萬圓の強制融資が行はれることになつたので、増資中止の爲めに金融が行詰ると云ふことはない。

【前途】 工場整備は着々と進み、能率も漸次向上しつゝある。コバルト・バナジウムも本格的操業期を迎へたからは、成績は盛り返す筋合にある。

【事業】 純鐵、鑄鐵、合金鐵

【資本金】 拂込済 一、〇〇〇

【株數】 株(一〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】 社長 東馬三郎 取
副社長 赤司初太郎 東馬三郎
取締役 常務 赤司初太郎 東馬三郎
監査 宮本信太郎 石黒傳六
五 田 五 郎 監 査 風 間 誠 二

【大株主】 十六年上 一、四七名
東 馬 三 郎 八、〇〇〇
日 本 生 命 三、〇〇〇

【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 七〇・七 二・八
一四年下 七〇・七 二・八
一五年上 七〇・七 二・八
一五年下 七〇・七 二・八

【株價】 (實物) 高値 安値
一五年中 六・八四三〇 六・五二〇
一六年中 六・八四三〇 六・五二〇

【金融關係】 加州、安田銀行

日本輕金屬

【設立】昭和十四年三月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一東電ビル(電銀座三三)

【下期初配か】 十六年十一月期に愈々待望の初配當開始と見られる。四分と云はれ六分と見る向もあるが、下ノ途企業未完成の折柄なれば建設配當の程度でスタートするが當然だらう。當下期は蒲原、新濱兩電解工場も生産量を加へ、清水アルミナ工場も局部的ながら九月末に火入れを行つたし、前途に拂込徴収の要もあるので初配開始を急ぐ事情にある事は確かである。

【一貫作業期】 念願の一貫作業期は愈々明春に迫つてきた。電解、アルミナ、電力共に大體十七年三月に完成の段取りとなつてきたからだ。即ち、清水のアルミナ工場は第一、第二、第三の三段階に區分して建設されつゝあるが、この内第一工場は既述の如くに操業を初め、第二工場も十六年末迄には完成火入の見据へがついた。残る第三工場は國産原鑛轉換のため一部模様更へを餘儀なくされるが、その豫定完成期は十七年三月だ。この第三工場は多少遅れるものとしても、電解部門水力部門とも相次で完成し所期の一貫作業期を迎ふる順序となつたことは確かである。かうした筋合からしても十七年下期以後の興味は深い。

日滿アルミニウム

【設立】昭和八年十月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル新館(電銀座七三三)

【難局持續】 經營上の難局は依然として續いてゐる。望をかけた新製法もコスト高で建直しの役に立たない。而も當社の宿弊たる重役團の紛擾抗争は少しも革まらない。十六年十一月十日開催の臨時株主總會が遂に停止の假處分を受けた如き益々内紛の悪性化を物語るものだ。會社は全く行詰りの状態に陥つてゐる。

【委任經營】 自力更生可能なりや否やを疑はしめる。關係官廳の一致意見として昭和電工への委任經營問題が傳へらる。然し井上社長は其の必要なしと頑張つてゐるが、結局は大河の流れに投ずる外はあまい。

【事業】アルミニウム製造

【資本金】公稱 二〇,〇〇〇
拂込 二〇,〇〇〇

【株數】新(五〇) 二〇〇,〇〇〇
舊(五〇) 二〇〇,〇〇〇

【役員】新(五〇) 八卷彌一
舊(五〇) 井上徳太郎 高橋守
森谷一郎 齋藤茂一郎
岡宮脩治 齋藤茂一郎

【金融關係】住友、安田銀行

【使用原料】ギリシヤ産レツ
下・ボークキサイド滿洲産礬
土質其他並質粘土

【業績】利益金利配當率
一五年上 一〇・一
一五年下 一〇・一
一六年上 一〇・一
一六年中 一〇・一

【株價】(實物) 高値 安値
一五年中 三三・三三 三三・三三
一六年中 三三・三三 三三・三三

日本アルミニウム

【設立】昭和十年六月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館(電丸ノ内五六一)

【上界の一途】 アルミ界の重點主義は當社を第一順位に置くものと想像するが、其の實績は之に答ふるに充分なものがある。技術の優秀性は堅持され而も生産は上昇の一方だ。高雄工場の増設能力は愈々操業の順調で、花運港工場の一部(第一期分)も亦完成して十六年十月から運轉を開始した。此第一期工事は十七年三月頃に完成、同年下期からの生産力は更に増大する。

【原料問題】 國産原料への轉換問題は業界の一大關心事ながら、其の轉換は同業他社の新設備から先づ行はれ、當社は恐らく其の最後の順位とならう。

【事業】アルミニウム製造

【資本金】公稱 六〇,〇〇〇
拂込 六〇,〇〇〇

【株數】新(五〇) 六〇〇,〇〇〇
舊(五〇) 六〇〇,〇〇〇

【役員】新(五〇) 井坂孝
舊(五〇) 井坂孝 原邦
造務 吉田一 井坂孝
林安 中川末吉 井坂孝
他五名 島田昌 勢 河村下村 手捨二

【金融關係】三井、三菱其他

【大株主】十六年上 一〇,〇〇〇名
一五年上 一〇,〇〇〇名
一五年下 一〇,〇〇〇名
一六年上 一〇,〇〇〇名
一六年中 一〇,〇〇〇名

【株價】(實物) 高値 安値
一五年中 六八 六八
一六年中 六八 六八

【金屬工業】

日本ニツケル

【設立】昭和十一年十一月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市日本橋區吳服橋東京建物ビル(電日五四二一)

【八分配當】

豫期した通り十六年下期は、八分配當の据置であつた。この期の計上利益は二百七十七萬七千圓に増加したが、八月の第三回拂込金三百七十五萬圓の徴収に依つて資本負擔は増加し、平均利益率は一割八分と前期同率に止まつた。これで八分の配當だからユトリは少ないまでも無難である。もともと、大擴張途上の事として従来未働資本の壓力は強く當下期は其の最頂點にあつた。にも拘らず引續き増益決算が示されたのは企業そのものが着々と軌道に乗り、經營の宜しきを得た結果である。

【來期後の期待】

未働資本重壓の最悪期は過ぎた。十七年上期からは愈々増産増益時代の第一歩に入る。三波川の選鑛設備は十六年十一月に一部運轉を開始し愈々全操業期は迫まつてきた。ロータリキルンは全基運轉可能となり製鋼部門の擴張も完備して選鑛設備の全的操業にミートすべく待機の状態だ。企業は愈々十七年上期から一貫作業期に入り同下期からはフル操業となつてキルン操作の偉力は發揮される。八分配當にユトリを加へ業績安泰の日は近づいてきた。

【事業】鑛物の採掘及製煉、ニツケル及ニツケル合金及其副産物の製造加工及販賣

【資本】公積金 10,000,000

【株數】拂込済 100,000

【重役】社長 芝辻正晴

常務 高津奈良男

取締役 藤田久吉

浅野八郎

藤井千之

助 相談 藤野八郎

【株主數】十五年下期 十六年上期

【大株主】三三三三

【業】鐵鋼

【事務所】東京市日本橋區江戶橋一ノ一五(電日五四二一)

【減配・整理斷行】十六年九月份は當社が住友へ轉身後、初めての決算であつた。計上利益金は僅々一萬九千圓で、他は全部償却に當て、配當金は繰越金六十八萬六千圓の中より割いた。即ち、配當は一般株には五分をつけ、住友系及重役持株に對しては無配とした。先づ減配を以て整理の手初めとした譯だ。

【前送】當社の整理は、未だ配當金と利益金との範圍内で爲し得るだけの事しか行はれてゐない。今後とも大手術が必要だ。が、整理成つた時は、住友金屬の姉妹會社として活躍が期待される。

【株主負債】十五年 十六年

【流動負債】十五年 十六年

【固定負債】十五年 十六年

【資本負債】十五年 十六年

【名義書換】〇〇〇〇

日本ステンレス

【設立】昭和九年四月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市日本橋區江戶橋一ノ一五(電日五四二一)

【減配・整理斷行】十六年九月份は當社が住友へ轉身後、初めての決算であつた。計上利益金は僅々一萬九千圓で、他は全部償却に當て、配當金は繰越金六十八萬六千圓の中より割いた。即ち、配當は一般株には五分をつけ、住友系及重役持株に對しては無配とした。先づ減配を以て整理の手初めとした譯だ。

【前送】當社の整理は、未だ配當金と利益金との範圍内で爲し得るだけの事しか行はれてゐない。今後とも大手術が必要だ。が、整理成つた時は、住友金屬の姉妹會社として活躍が期待される。

【株主負債】十五年 十六年

【流動負債】十五年 十六年

【固定負債】十五年 十六年

【資本負債】十五年 十六年

【名義書換】〇〇〇〇

【金屬工業】

東邦金屬製鍊

【設立】昭和十三年七月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市日本橋區花菱港米七番ノ六十七

【拂込徴収】當社は十六年十月二十日、一株十五圓宛總額三百萬圓の拂込を徴収した。この資金は原鑛石増獲と花菱港工場整備擴充資金に當てられる。

【業績・前途】

當社は十六年上期に至り、創業以來始めて利益金二十六萬三千圓を計上し、初配六分をつけた。製品はすべて重要資材であるだけに、販賣方面に不安はないが、原鑛石の手當が問題だ。即ち、國際關係の急迫して居る今日では原鑛入手は一段と困難となつて居る。當局者もこの苦境打開に腐心して居るが、樂觀は出来ない。

【事業】

金屬製鍊加工販賣

【資本】公積金 10,000,000

【株數】拂込済 100,000

【重役】社長 赤司初太郎

常務 藤田久吉

取締役 山崎六郎

安部政次郎

【株主數】十五年下期 十六年上期

【大株主】十六年上期 五八名

【業】鐵鋼

【事務所】東京市日本橋區花菱港米七番ノ六十七

【減配・整理斷行】十六年九月份は當社が住友へ轉身後、初めての決算であつた。計上利益金は僅々一萬九千圓で、他は全部償却に當て、配當金は繰越金六十八萬六千圓の中より割いた。即ち、配當は一般株には五分をつけ、住友系及重役持株に對しては無配とした。先づ減配を以て整理の手初めとした譯だ。

【前送】當社の整理は、未だ配當金と利益金との範圍内で爲し得るだけの事しか行はれてゐない。今後とも大手術が必要だ。が、整理成つた時は、住友金屬の姉妹會社として活躍が期待される。

【株主負債】十五年 十六年

【流動負債】十五年 十六年

【固定負債】十五年 十六年

【資本負債】十五年 十六年

【事業】ステンレス鋼、特殊鋼の製造及販賣

【資本】公積金 10,000,000

【株數】拂込済 100,000

【重役】社長 今井五介

常務 藤田久吉

取締役 山崎六郎

高鳥順作

【株主數】十五年下期 十六年上期

【大株主】十六年下期 四二名

【業】鐵鋼

【事務所】東京市日本橋區江戶橋一ノ一五(電日五四二一)

【減配・整理斷行】十六年九月份は當社が住友へ轉身後、初めての決算であつた。計上利益金は僅々一萬九千圓で、他は全部償却に當て、配當金は繰越金六十八萬六千圓の中より割いた。即ち、配當は一般株には五分をつけ、住友系及重役持株に對しては無配とした。先づ減配を以て整理の手初めとした譯だ。

【前送】當社の整理は、未だ配當金と利益金との範圍内で爲し得るだけの事しか行はれてゐない。今後とも大手術が必要だ。が、整理成つた時は、住友金屬の姉妹會社として活躍が期待される。

【株主負債】十五年 十六年

【流動負債】十五年 十六年

【固定負債】十五年 十六年

【資本負債】十五年 十六年

【名義書換】〇〇〇〇

【金剛鑛業】

日本鑛業

【設立】昭和四年四月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市芝區田村町一ノ二日産館(電報六三二一〇)

【九月份業績】十六年九月份決算では、利益金三千百七十五萬圓を擧げ、前期に比し三百六十八萬二千圓を増加した。他方に於て、八月の増資により平均拂込資本は前期の二億三千三百三十三萬三千圓から、二億四千二百七十七萬五千圓に増加したが、對平均拂込資本利益率は前期の二割四分一厘から、この期には二割六分二厘に向上してゐる。利益率は二分を向上してゐるのに、配當は九分を据置いたから、決算は餘裕を加へた。利益金の社内保留率は、前期の六〇%五からこの期には六五%〇に向上してゐる。

【九分配當は安定】右のやうな業績向上の理由の第一は、今までの未働資産が動き出して來たことである。つまり設備の擴張が業績に寄與し始めた。第二に、九月一日からの銅價引上げの好影響があつたことだ。この期には、その影響を受けたのは一ヶ月に過ぎないがそれでも、そのために百萬圓位の増益になつた筈だ。十七年三月份は、増資に伴つて資本負擔が増嵩するが銅價引上げの利益をまるく享受するので、引續いて業績向上が豫想され、九分配當は動かない。

Table with columns for '事' (Business), '株' (Stock), '重' (Heavy), '資' (Capital), '大株主' (Major Shareholders), and '貸付' (Loans). Lists names and amounts for various divisions and shareholders.

Table with columns for '資産負債' (Assets and Liabilities), '株主資本' (Shareholder Capital), '外部負債' (External Liabilities), '流動資産' (Current Assets), '固定資産' (Fixed Assets), '現金' (Cash), '預金' (Deposits), '債権' (Receivables), '負債' (Liabilities), '名義替換' (Nominal Exchange), and '新務交付' (New Business Delivery). Shows financial data for 15th and 16th years.

【金剛鑛業】

帝國産金興業

【設立】昭和九年一月
【決算期】一月 七月

(本社) 東京市京橋區銀座八ノ一(電報座六六六)

【無配繼續】十六年七月份には利益率七分五厘五毛を示したが、無配を續けた。十七年一月份も、なほ無配を續けることにならう。假りに業績は向上するとしても、配當を付けたのでは産金割増金が削減されるから、その關係を考へると、なほ當分は復配するわけに行かない。従來は第一種割増金、第二種割増金とも最高を貰つてゐた。それで漸く右のやうな成績を擧げた。六月一日から増産金買上規則は改正されたが、それでも、當社は産金會社中では高い割増金を貰へる。それを貰ふには、やはり無配を繼續が必要なのだ。

Table with columns for '事' (Business), '株' (Stock), '重' (Heavy), '資' (Capital), '大株主' (Major Shareholders), and '貸付' (Loans). Lists names and amounts for various divisions and shareholders.

日本産金振興

【設立】昭和十三年九月
【決算期】六月 十二月

(本社) 東京市京橋區京橋三ノ二(電報六三二一〇)
(支社) 京城市竹添町一ノ九〇(電報六三二一〇)

【六月份業績】十六年六月份は、前期と全く同じ利益金を計上した。従つて利益率も二分二厘と變りなく、配當は政府保證の四分を續けた。收支計算の主な變化は、収入の部に於ける貸付金利息の増加、他方に於ける支拂利息の増加である。言ふまでもなく、これは産金事業への貸付金の増加に基くもので、六月末に於ける貸付金總額は二億八百八萬圓となり、前期末に比し一千六百四十四萬圓を増加した。

【十二月期】事業は徐々に進展してゐるが、業績は大した變化なく、政府保證の四分配當を繼續せん。

Table with columns for '事' (Business), '株' (Stock), '重' (Heavy), '資' (Capital), '大株主' (Major Shareholders), and '貸付' (Loans). Lists names and amounts for various divisions and shareholders.

【金剛鋼業】

鯛生産業

【設立】大正七年六月
【決算期】三月 九月
【本店】東京市京橋區京橋國際ビル(電報六六一一五)
【支店】大阪市西淀川區高見町一ノ六(電報六六一一〇)

【合併完了】もとのラサ工業は鯛生産業に合併され、十六年十月二十八日を以て合併を完了した。一時は訴訟沙汰とまでなつた兩社の合併問題は、こゝに完全な結末に達したわけである。鯛生産業はラサ工業を合併したことにより、資本金は公稱六千五百萬圓、拂込五千七百七十五萬圓となつた。

【合併要項】記録に止める意味で、兩社の合併條件を記しておくとの如くである。(一)子會社たる鯛生産業が親會社ラサ工業を吸収合併する。(二)合併比率はラサ十株に對し鯛生七株の割合を以てする。その結果ラサ工業は拂込資本金六千二百五十萬圓のうち千八百七十五萬圓(三割)の減資となる。(三)合併に際しラサ所有の鯛生株二十四萬株を吸収消滅せしめる。その結果、鯛生も資本金二千萬圓(全額拂込)のうち千二百萬圓(六割)を減資する。合併期日は九月一日。

【合併後の決算】兩社合併後第一回の決算は、十六年六月一日から九月三十日までの四ヶ月決算であつたが、配當は八分を付けた。今後八分配當維持は問題なからう。

Table with financial data for 1927 (16th year) and 1928 (17th year) for the Tuna Production Industry. Columns include: 資本金 (Capital), 株數 (Number of Shares), 大株主 (Major Shareholders), 事業 (Business), 投資 (Investment), and 名義書換 (Nominal Exchange). It lists various companies like 公稱, 新長, 廣一, etc., and their respective financial figures.

Table with financial data for 1927 (16th year) and 1928 (17th year) for the Tuna Production Industry. Columns include: 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外債 (External Debt), 流動資産 (Current Assets), 固定資産 (Fixed Assets), 現金 (Cash), and 名義書換 (Nominal Exchange). It provides a detailed breakdown of the company's financial position.

【金剛鋼業】

石原産業海運

【設立】大正九年九月
【決算期】三月 九月
【本店】大阪市西區江戶堀上通(電報七三三三三)
【支店】東京市麹町區丸の内中一三號館(電報九ノ内三三)

【九月期成績】當社の十六年九月末締切決算は、利益金三百五十五萬七千圓をあげ、對平均拂込資本金率は一割六分七厘となる。配當は八分を据置いた。前期と比較すると利益金は四十一萬七千圓の減益に當り、利益率は二分の低下となる。利益處分はそれだけ窮屈となつたことは否めない。

【事業概況】紀州鑛山は運搬設備が完成し、能率はかなりよくなつた。輸送設備の不完全から山元に貯鑛を餘儀なくされる様なことはなくなつた。四日市工場も漸次操業率が高まつて來た。残る硫安、過磷酸工場も目下完成を急がれてゐる。海南島の鑛石採掘は漸次増量されつゝあり、十七年春には待望の鑛量を出す見込みである。

【問題を破す】以上の如く内地及海南島の事業は着々軌道に乗りつゝあるが、南方諸島の事業は一時中止の已むなきに至つた。これ迄當社の弗箱に等しかつたのだから、その打撃は想像に難くない。尤もそれに代る海南島の開發があるから、打撃は或る程度喰止められると思ふ。然しそれにしても當面は苦しいだらう。

Table with financial data for 1927 (16th year) and 1928 (17th year) for Ishihara Industry & Shipping. Columns include: 事業 (Business), 投資 (Investment), 名義書換 (Nominal Exchange), and 株主資本 (Shareholder Capital). It lists various companies like 公稱, 新長, 廣一, etc., and their respective financial figures.

Table with financial data for 1927 (16th year) and 1928 (17th year) for Ishihara Industry & Shipping. Columns include: 資産負債 (Assets and Liabilities), 株主資本 (Shareholder Capital), 外債 (External Debt), 流動資産 (Current Assets), 固定資産 (Fixed Assets), 現金 (Cash), and 名義書換 (Nominal Exchange). It provides a detailed breakdown of the company's financial position.

【石炭 礦業】

三菱 鑛業

【設立】大正七年四月
【決算期】三月、九月
(本社) 東京市麹町區丸ノ内二ノ四(電丸ノ内三三一七〇)

【拂込額收】 當社は十六年十一月一日期日で第一新十二圓半、第二新二十五圓、總額二千六百八萬圓の拂込を徴收した。右の一部は借入金(六百二十五萬圓、茂山鐵鑛の最終拂込の際借入)の返済に充當し、他は石炭、金屬及び製鍊部門等の擴充に充てた。之で資本金は二億三百七十萬圓全額拂込済となつた。擴充はなほ要請されるが、十六年三月末の當社の借金は漸く八千七百八十萬圓に過ぎず、拂込資本金に對比して未だ餘力を残してゐる。従つて増資は當分見送られよう。

【業績】 十六年九月期には當社収入の五、六〇%を占める石炭部門は僅かながら減産だつた。他方金屬部門は前期と大差なく、且つ四月から石炭の値上げがあつた關係上、全體の成績は略々前期並に終つたやうだ。今後増産が進捗すれば、石炭、銅の値上げ、或は産金獎勵金等の影響で成績は向上するだらう。

Table with columns for departments (事業) and subsidiaries (株主). Includes names like 石炭採掘、販賣並回、公稱、三井、三菱銀行, etc.

Table with columns for financial metrics (資産負債) and dates (十五年、十六年). Includes items like 株主立金、外部負債、社積立金, etc.

【石炭 礦業】

北海道炭礦汽船

【設立】明治三年三月
【決算期】五月、十一月
(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ二(電丸ノ内西一一〇)

【好轉の機運】 下表に見るやうに當社の最近の業績は不振である。勿論コスト高及び努力、資材の不足がその原因だ。但し、十五年下期の利益率が目立つて高いのは、この期に船舶等の買却による大口の雜益を計上したからである。然し、去る十一月末に締切られた十六年下期の成績は良好であつた。即ち此の期からは去る四月の炭價改正の影響を期一杯に受けるし、またこの期には一割餘りの増産が得られた。以上によつて尠くとも半期七百五十萬圓の増収となる。これが全部利益増になるのではないが、九分配當は前期より遙かに樂になること勿論だ。この期あたりから増産計畫の進展と相俟つて、業績は好轉の一路を辿らう。

【増産計畫】 當社は十五年下期に總額五千萬圓の社債發行に關する許可を受け、その期に第一回二千萬圓を發行して大々的な増産計畫に乗り出した。次いで十六年六月及び八月に各一千萬圓を發行、ひたすら増産に邁進してゐるが、残る一千萬圓を發行すれば、當分拂込徴收の必要はない筈だ。なほ當社は去る十二月一日に昭和礦業を合併、五百二十五萬圓を増資した。

Table with columns for departments (事業) and subsidiaries (株主). Includes names like 石炭採掘、販賣並回、公稱、三井、三菱銀行, etc.

Table with columns for financial metrics (資産負債) and dates (十五年、十六年). Includes items like 株主立金、外部負債、社積立金, etc.

太平洋炭礦

【設立】大正九年四月
【決算期】五月十一月

【業績】十六年五月份的業績は償却前利益金百四十三萬圓、利益率二割八分四厘と云ふ好成绩で七分配當を据置いた。此の好成绩の原因は増産奨励金五十八萬圓を利益金の中に計上したからだ。實際の營業利益金は八十四萬七千圓で、十五年下期に比し八萬圓の減益である。

【前途】當社今後の業績に寄與するものとして、十六年四月の炭價更改がある。この値上げの影響は十一月期から全面的に受ける事になるから營業利益の増加は確實だ。七分配當も當分不安あるまい。

【事業】	石炭の採掘販賣
【資本】	拂込済 1,000,000
【株数】	100,000
【役員】	會長 片山眞五郎 副會長 大東藤吉 監査 清水源作 牧田環
【採掘面積】	八、七五五千坪
【採掘面積】	八、七五五千坪
【事業地】	未採掘 1,300千坪
【業績】	利益金 利益率 配當率
十四年上	1,032 20.6 0.0
十五年上	1,177 21.7 0.0
十六年中	1,475 28.4 0.0
【株價】	高値 安値
十六年中	70.5 45.0
【金融關係】	三井銀行 47.2 46.3

北樺太鑛業

【設立】大正十五年八月
【決算期】三月(年一回)

【業績】當社は現在ノ聯の壓迫によつて、採掘事業を休止し、僅かに礦業所諸設備の現状維持を行つて居る状態だ。配當も政府補助金によつて四分配當を行つて居る。この事業復活が簡單には實現の可能性がないので、南樺太鑛業を設立し、其の經營に當る事となつた。この南樺太鑛業の母體たる増田名好炭礦は優秀なるもので、原料炭を産出する。従來は個人企業であつただけに、經營、採掘技術の點に於て低級であつたが、今後の發展は期待される。これで當社も北樺太の權益擁護を計ると共に、又新たな道が拓けた譯だ。

【事業】	石炭の採掘並販賣
【資本】	公稱 10,000
【株数】	拂込済 7,000
【役員】	會長 三井米松 副會長 西原民平 監査 藤岡清吉 村山徳之助 松本
【採掘面積】	未採掘 1,300千坪
【事業地】	露頭北樺太土炭坑
【業績】	利益金 利益率 配當率
十四年上	366 37.6 0.0
十五年上	377 37.7 0.0
十六年中	435 40.7 0.0
【株價】	高値 安値
十六年中	33.3 26.0
【金融關係】	三井銀行 54.5 56.2

鳳泉無煙炭礦

【設立】昭和九年二月
【決算期】六月十二月

【十二月期如何】當社は西鮮平北無煙炭田で事業を營む會社である。平原線の開通で輸送關係は著しく改善されたが、目下の處貨車不足で貯炭の増大に災され、この部面からの壓迫は輕視出來ない。然し當局も時局下輸送力の増強には懸命な努力を拂つてゐるので、何れは相當の改善を見るものと思ふ。六月期は三割三分の利益率で八分七厘配當を据置いたが、經營當局者は近い將來に九分配當へ引上げたい意向の如くである。十二月期は送炭が不如意だつたと六月二日の拂込で資本負擔が増大したから、配當は据置くかも知れぬ。

【事業】	無煙炭、黒鉛の採掘
【資本】	拂込済 1,000,000
【株数】	100,000
【役員】	社長 福井武次郎 副社長 渡邊實 監査 高木伊藤 片二
【金融關係】	安田銀行 700,000
【事業規模】	未採掘 3,599,500坪
【業績】	利益金 利益率 配當率
十四年上	384 38.8 0.0
十五年上	584 38.8 0.0
十六年中	664 38.8 0.0
【株價】	高値 安値
十六年中	50.5 46.8

三陟開發

【設立】昭和十一年四月
【決算期】三月九月

【九月期決算】九月期決算は、成績の急低下を示した十六年三月期より更に低下し、五分配當は据置いたが、文字通り窮屈決算であつた。本來ならば無配決算が穩當と見られるが、半額増資を斷行せねばならず一方、一年半後には充分成績の立直りが見透される状況にあつたので、五分配當を踏襲したわけだ。

【増資と今後】半額増資(第一回拂込廿五圓)は、一般株主が増資を忌避せるに拘らず、日電の新株一手引受けによつて、十一月一日強行された。こゝ一年間の成績は依然苦しいが、選炭設備の運轉で立直らん。

【事業】	石炭業及化學工業
【資本】	公稱 1,500,000
【株数】	拂込済 1,175,000
【役員】	社長 大石直次郎 副社長 藤井雄之助 監査 藤井雄之助 松谷正 朝野無煙炭礦
【金融關係】	興銀シ、日電 450,000
【事業規模】	日本發送電 3,700,000
【業績】	利益金 利益率 配當率
十四年上	336 33.6 0.0
十五年上	493 49.3 0.0
十六年中	511 51.1 0.0
【株價】	高値 安値
十六年中	33.3 26.0

【石炭礦業】

九州採炭

【設立】昭和十年四月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區丸の内九ビル(電丸ノ内五八)
(營業所) 福岡縣若松市本町三丁目藤井ビル

【十一月期無配決定】 十一月期決算は、八分配當から一舉無配斷行に決定した。これは、十六年六月下旬の水害のため、深坂坑を始め、新坑及び岩崎坑が夫々浸水し、出炭量が急減した上に、坑内の復舊工事に莫大な犠牲を負はされたからだ。

【金融問題】 處で問題は今後だが、經營陣の努力によつて其の後復舊工事は著しく進捗し、十月末現在の出炭量では水害前の約六割を示すやうになつた。一方、當社の緊急問題であつた金融も、今回、興銀の一手引受で安定する。復配は十七年下期と思はれる。

【事業地】	福岡縣、長崎縣
【資本金】	公稱 六〇〇〇
【株數】	拂込済 六〇〇〇
【役員】	社長 藤井伊藏 副社長 藤井伊藏 専務 藤井伊藏 常務 藤井伊藏 監査 藤井伊藏 大株主 藤井伊藏
【業績】	十五年下 十六年上 利益金 利益率 配當率 一、五〇〇 一、五〇〇 二、八〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 二、七〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 二、六〇〇 一、二〇〇 一、二〇〇 二、五〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 二、四〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 一、五〇〇 一、〇〇〇 一、四〇〇 九〇〇 一、三〇〇 八〇〇 一、二〇〇 七〇〇 一、一〇〇 六〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
【金融關係】	安田、野村、三井

日滿鑛業

【設立】大正八年五月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市麹町區丸の内三菱二一號館(電丸ノ内五七一)

【在滿事業】 滿洲の子會社滿洲鑛山と折半出資の滿洲鉛鑛(資本金三千萬圓)では、十一月中旬壺盧島の〇陸浮遊選鑛場の運轉を開始した。同社揚家枝子鑛山産出の鉛、亜鉛、モリブデン等の一貫作業第一期計畫が完成した譯である。續いて第二期を施工中だ。

【收益見透】 新株第二回拂込を當分見合せ、内地炭鑛及右滿洲の擴充に要する資金は、借入金に依る方針である。九州で經營の炭鑛の一部に水害其他の事故あり、十六年下期の成績は伸び難いと思ふが、八分配當維持は可能の見込だ。將來の興味は滿洲に掛かる。

【資本金】	公稱 四三、〇〇〇
【株數】	拂込済 三六、八五五
【役員】	社長 藤井伊藏 副社長 藤井伊藏 専務 藤井伊藏 常務 藤井伊藏 監査 藤井伊藏 大株主 藤井伊藏
【業績】	十六年上 十六年下 利益金 利益率 配當率 一、五〇〇 一、五〇〇 二、八〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 二、七〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 二、六〇〇 一、二〇〇 一、二〇〇 二、五〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 二、四〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 一、五〇〇 一、〇〇〇 一、四〇〇 九〇〇 一、三〇〇 八〇〇 一、二〇〇 七〇〇 一、一〇〇 六〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
【金融關係】	安田、野村、三井

【石炭礦業】

東見初炭鑛

【設立】昭和十年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 山口縣宇部市大字沖宇部五二六

【減産】 十六年十一月期は上期に比し、幾分減産の見込みだ。勤勞報國隊の繰出しも一時的短期間なる爲め、當社の勞力不足をカバーすることが出来なかつた。尙ほ資材の不足は、電車坑道の開通遅延を齎してゐるから、未働資産の壓迫は大きい。一分減配氣配を感ずる所以である。

【今後】 此度の四社合併(宇部鑛業、沖ノ山炭鑛、宇部鑛工所、宇部セメント)には加らなかつたが、當社も矢張り宇部産業の特殊性を有してゐる限り、早晚新會社たる宇部興産に合併されるのではなからうか。

【事業地】	山口縣、長門縣
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇
【株數】	拂込済 一〇、〇〇〇
【役員】	社長 藤井伊藏 副社長 藤井伊藏 専務 藤井伊藏 常務 藤井伊藏 監査 藤井伊藏 大株主 藤井伊藏
【業績】	十六年上 十六年下 利益金 利益率 配當率 一、五〇〇 一、五〇〇 二、八〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 二、七〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 二、六〇〇 一、二〇〇 一、二〇〇 二、五〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 二、四〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 一、五〇〇 一、〇〇〇 一、四〇〇 九〇〇 一、三〇〇 八〇〇 一、二〇〇 七〇〇 一、一〇〇 六〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
【金融關係】	安田、野村、三井

大日本炭鑛

【設立】大正五年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區丸の内三菱仲五號館(電丸ノ内五五)

【成績低下か】 當社十六年上期の業績は良好であつた。總株數十萬二千株中八萬八千餘株が十五年秋日東鑛業汽船に肩代りされ、之により金融的に恵まれて、事業計畫も積極化し、出炭も順調になつた爲だ。利益率も三割九分三厘と高率を示して餘裕裡に八分配當を据置いた。十六年四月に日本石炭の買取補償金が一億一千萬圓に増加されたが、優良炭が少い當社としては之に餘り期待出来ない。十一月期の業績は、七月下旬の水害の影響も考へられるので、若干低下するものと思はれる。行くは日東鑛業汽船に合併か。

【事業地】	日東鑛業汽船
【資本金】	公稱 五、〇〇〇
【株數】	拂込済 五、〇〇〇
【役員】	社長 藤井伊藏 副社長 藤井伊藏 専務 藤井伊藏 常務 藤井伊藏 監査 藤井伊藏 大株主 藤井伊藏
【業績】	十六年上 十六年下 利益金 利益率 配當率 一、五〇〇 一、五〇〇 二、八〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 二、七〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 二、六〇〇 一、二〇〇 一、二〇〇 二、五〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 二、四〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 一、五〇〇 一、〇〇〇 一、四〇〇 九〇〇 一、三〇〇 八〇〇 一、二〇〇 七〇〇 一、一〇〇 六〇〇 一、〇〇〇 五〇〇
【金融關係】	安田、野村、三井

【石炭礦業】

朝鮮無煙炭

【設立】昭和二年二月
【決算期】三月 九月
【本社】京城府本町一ノ五三ノ一(電本局三三五)
【出張所】東京市麹町區丸ノ内丸ビル八階

【貯炭増と今後】三菱及び東拓の兩資本によつて運管されてゐる半島最大の無煙炭會社で、採掘技術は擧げて菱鏡に依存してゐる。従つて經營は概して堅實であるが、最近に於ける輸送機關の逼迫化のため、山元貯炭が著増し、これに悩まされてゐる。當社炭の海への出口は、從來鎮南浦、保山の大同江一本であつたが今後の發展に備へるために、冬季氷結の心配ない永興灣北方に百萬噸積込設備を建設中だ。新倉及び徳川坑の將來に期待はかけられるが、當面貯炭の増大、コスト高による壓迫は免れぬ。然し八分配當は續けん。

Table with financial data for Chosen无烟炭, including capital, assets, and liabilities.

日本炭業

【設立】昭和七年五月
【決算期】三月 九月
【本社】東京市麹町區丸ノ内二ノ二〇(電丸ノ内八〇六)

【業績】十六年九月期の業績は償却前の利益金三十八萬三千圓で、三月期より十九萬圓の減益であつた。配當も三分減配して五分配當に訂正された。この業績低下の原因は、十六年六月下旬の水害による出炭減少並びに復舊費の新規増加による爲だ。
【前途】水害復舊は勞力不足資材難のため、意の如く行かないが、目下全力を擧げて努力して居るから十七年上期は業績向上が期待される。更に、當社は今回、當社經營の南山野炭坑の隣鏡區たる第一山野炭坑を買収し、これが經營に當る事となつた。

Table with financial data for Japan Coal Industry, including capital, assets, and liabilities.

【石油礦業】

日本石油

【設立】明治二十一年五月
【決算期】三月 九月
【本社】東京市麹町區丸ノ内三ノ四(電丸ノ内三三一四)
【支社】大阪市西區江戶堀南通三ノ一八

【整理統合】對日經濟封鎖斷行で、十六年下半期の石油界は整理統合に忙殺されてゐる。精製部門は五乃至六ブロックに、採油部門は帝石に統合して、特需石油の確保に邁進する譯だ。然し、要するに業界は整理期にあるのであつて、今後の石油會社は業績の低下を免れないだらう。但し、傳へられる如く原油、精油の値上げが行はれるとすれば、ストックの喰延ばしと相俟つて、當分は息がつけられることとならう。

【九月期決算】十六年四月の増資と六月の小倉石油合併で、十六年九月期の平均拂込資本は前期に比し三千萬圓強を増加して、一億一千八百七十七萬五千圓となつた。この資本負擔増に對して、利益金は百二十九萬圓増の千九百三十七萬圓に止つたので、結局利益率は三割四分六厘と前期に比し一割六厘の大幅低下を來たした。内容充實の小倉を合併したのだが、外油の手當難で當社の製品販賣高が減少したからだ。併し、配當は八分を据置いた。この外油不足による業績の不調は當社の精製が全國の七割強を占めてゐるので、資産内容は堅實だし、今後も八分配當の持續は可能だらう。

Table with financial data for Japan Petroleum, including capital, assets, and liabilities.

【石油礦業】

帝國燃料興業

【設立】昭和十三年一月
【決算期】三月(年一回)

(本社) 東京市京橋區西銀座六ノ三朝日ビル(電銀座七五)

【事業の進捗】 當社の主要事業たる人造石油會社に對する投融資は、創立第二年度たる十四年度より急激に増大したが、十五年度末迄に關係會社の數は十二社に達し此等に對する出資總引受額は二億二千二百萬圓、出資總額一億四千八百五十二萬五千圓に上つた。併しこの内、操業を開始してゐる會社は四社に止まるので、これ等投融資會社よりの配當乃至利息収入は極めて少く當社は未だ、自力で六分配當を行ひ得る段階に來てゐない。併し、民間株には三ヶ年間四分、三ヶ年以降七ヶ年間は六分の配當を政府によつて保證されてゐるので十五年度より六分配當を行つてゐる。

【増資問題再燃か】 右の如く、十五年度末迄に當社の調達した資金は拂込と社債とで一億五千五百萬圓に達し、十七年度に終る人造石油工業確立第一期計畫に對する調達可能な資金額はあと二億四千五百萬圓に止まる。十六、十七年度の資金需要額三億圓以上に對し不足するので、社債發行限度を拂込の三倍から五倍に引上げるとなつたが、今後人造石油事業に一段の擴張が冀求されるので、やがて増資問題が再燃しよう。

北樺太石油

【設立】大正十五年六月
【決算期】三月(年一回)

(本社) 東京市麹町區丸ノ内ノ有樂館内(電丸ノ内二六〇)

【業績横道ひ】 十六年七月の英、米、蘭印等の對日經濟包圍で我國石油資源の確保は焦眉の急となつた折から、當社の任務は頗る重きを加へて來た。然し、當社の業績如何はソ聯の對日態度に懸つて居り、過般の日ソ中立條約が好感された割にはソ聯の態度が好轉しなかつた爲、今十六年度の業績は、労働者の就業状態、資材關係が不變で、昨年度並と見られ、恒例の四分配當は据置とならう。該配當率は政府補助金の調節によつて事實上保證されてゐるからでもある。然し國際關係が微妙なので、當社の前途は豫斷を許されぬ。

【事業】	原油採掘及輸入
【資本】	100,000,000
【株数】	1,000,000
【役員】	社長 荒城二郎 取締役 松村長次郎 伊藤文吉 佐藤正三郎 小川重太郎 河瀬正三郎 吉田重太郎 藤川才
【事務所】	露領北樺太東海岸 オハ、カクシグリ

【大株主】	十六年度末 五、五〇〇名
【業績】	採油井數 二、四〇〇口
【利益】	利益金 一、六〇〇萬圓
【株價】	高値 一、〇〇〇圓
【安値】	三七〇圓
【十六年中】	四二・七
【十月中】	四〇・〇

【石油礦業】

旭石油

【設立】大正十年二月
【決算期】五月(十一月)

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館(電丸ノ内二〇一)
(支社) 大阪市西區土佐堀通大同ビル(電土佐堀三三)

【業績】 十六年上期の業績は、利益率二割八分、九分五厘配當据置と好調だったが、十一月期には原油及び製品買上收入の減少が豫想される。が、之を上期に買収したグリース專業工場稼働益でカバー出来るので、十一月期も前期並の業績は擧げ得よう。

【合併】 精油會社の整理統合で當社は早山、新津、大脇と合併する筈で、當社の採油部門は合併後帝石に統合される豫定だ。合併比率その他は未詳だが、新會社が當社の鐵區を持つ點はその強味だ。尙、敷地買収済の當社川崎工場は岩手縣山田港に移轉の模様だ。

【事業】	原油の採掘、製精
【資本】	10,000,000
【株数】	1,000,000
【役員】	社長 長崎英造 取締役 幸松中本 長崎英造 小林文太 長崎英造 重宗謙久 伊勢吉津
【事務所】	本館 幸松中本 支館 長崎謙久 伊勢吉津

【大株主】	十六年上 二、〇〇〇名
【業績】	利益金 一、〇〇〇萬圓
【株價】	高値 一、〇〇〇圓
【安値】	二八〇圓
【十六年中】	五七・八
【十月中】	五七・八

【石油礦業】

丸善石油

【設立】昭和八年十一月
【決算期】三月 九月

【本社】神戸市兵庫區北仲町二八(電兵庫二〇三)
【事務所】東京市麹町區丸ノ内三三號(電丸ノ内五九)

【整理統合】石油界の整理統合は着々進展し、此の線に沿つて當社は此の程東洋石油、東邦石油、九州製油、山文石油の四社を吸収合併することになった。東邦石油を除く外は、何れもその事業地が西日本にあり主要製品は機械油だ。被統合會社中、東邦、東洋、山文の設備は比較的良好だが、當社の有する原油を優秀工場に割當て、生産の優秀性を昂揚しようと云ふのが主目的である。

【前途】下津工場の操業状態は極めて良好。第三次擴充も略々順調に進捗。下期も現行配當据置可能。

【資本金】公稱	三〇,〇〇〇
【株數】拂込	一〇〇,〇〇〇
【新(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 松村善藏
【重役】	常務 小林登司 太田善藏
【監査】	高橋雄吉 山田茂 辻村善治 井上秀作

【金融關係】	三和、第一、住友
【大株主】	十六年上 八五五名
【株數】	新(三〇〇) 一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 早山與三郎
【重役】	常務 千葉三郎 取締 三浦
【監査】	久保賢治 興銀、第一銀行

早山石油

【設立】昭和十年五月
【決算期】六月 十二月

【本社】東京市麹町區丸ノ内明治生命ビル(電丸ノ内三一七)
【支社】大阪市北區濱通堂島ビル

【上期業績】六月末に締切つた十六年上期の業績は、償却前利益金で對前期四十五萬三千圓減の百六十六萬二千圓、利益率で七分六厘減の二割七分七厘となり、低調だつたが、九分配當の据置に支障は無かつた。これは製造販賣高の減少、支出の増高によるものだ。

【今後】當社は外油専門の會社だけに外油輸入杜絶の影響は大きい。七月の半額増資による資本負擔の壓迫もある。十二月期の業績は更に幾分の低下を免れぬだらう。が、川崎工場の新設備運轉は好條件で、九分配當に懸念無し。近く旭石油他二社と合併の筈。

【資本金】公稱	三〇,〇〇〇
【株數】拂込	一〇〇,〇〇〇
【新(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 早山與三郎
【重役】	常務 千葉三郎 取締 三浦
【監査】	久保賢治 興銀、第一銀行

【石油礦業】

朝鮮石油

【設立】昭和十年六月
【決算期】四月 十月

【本社】京城府黃金町一ノ八〇(電本局六二)
【事務所】東京市麹町區丸ノ内岸本ビル(電丸ノ内五五)

【當社の特徴】五月一日に半額増資を行つたが、その目的は、航空燃料イソオクタンの製造装置及び航空潤滑油製造装置の建設を行ふにある。現在イソオクタンの製造設備を持つものは、當社の他には日石と三菱石油があるだけだ。當社の技術は、日石の系統をひく優秀なもので、新設備の完成後に期待が持たれる。また當社は朝鮮、滿鐵及び〇〇方面へのガソリン、潤滑油、機械油等の供給を一手に行つてゐる。當社が石油界統合の圈外に立つてゐるのも、かうした事情からだ。十六年十月期の九分配當は問題なし。

【資本金】公稱	七,五〇〇
【株數】拂込	一〇〇,〇〇〇
【新(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 木村義雄
【重役】	常務 野口金季 小倉武
【監査】	山口誠太郎 太島英吉

【金融關係】	三和、三井、三和
【大株主】	十六年上 一、一五〇名
【株數】	新(三〇〇) 一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 屋敷仙之輔
【重役】	常務 岡崎彰男 取締 白
【監査】	久保賢治 興銀、第一銀行

大日本石油礦業

【設立】大正十五年十二月
【決算期】五月 十一月

【本社】東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内三七六)

【原油價引上に期待】當社社長であつた中野友禮氏は今回退職し、屋敷専務が新に社長に昇格就任した。前報報道の通り當社は從來の日曹支配から離れ、新津石油及び中野興業と地方プロック結成を目指し、それが現在或る程度達成されてゐるが、一方帝國石油による國産原油會社の統合運管が問題化して來てゐるので今後の情勢如何では、帝石との何等かの聯繫が考へられぬとは限らぬ。最近の當社成績は七分配當に餘裕は乏しいが、近く原油價の引上げが實現しさうなので、さうなれば多少成績は樂にならう。

【資本金】公稱	七,五〇〇
【株數】拂込	一〇〇,〇〇〇
【新(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【舊(三〇〇)】	一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 屋敷仙之輔
【重役】	常務 岡崎彰男 取締 白
【監査】	久保賢治 興銀、第一銀行

【造船船渠業】

浦賀船渠

【設立】明治三十年六月
【決算期】六月 十二月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内一八六一)

【増資問題】 當社は愈々増資を行ふことに決定し手續中であるが、十一月(十六年)には決定の模様である。増資額は倍額乃至倍額半ではないかと思はれる。假りに倍額増資が實現すれば、現在の資本金千五百萬圓は三千萬圓に増加する。

【擴張】 擴張計畫は緊急を要するものばかりで、浦賀、青島兩工場の擴張は最も急を要するものだ。之に大體二千萬圓を必要としてゐる。この外四日市工場建設、子會社の名古屋造船並に大日本兵器の拂込資金等を合せると總額三千萬圓を必要とする。増資目的は之等の資金を賄ふためだが、假りに倍額半増資が決定したとしても、擴充資金は足りない譯だ。當面受託前受金で賄ふとしても、やがては増資の筋合にある。

【今後】 下表の如く、業績は優秀だ。この調子で行けば今後再増資も順調に進まう。資産内容も充實してゐるし、一割配當は安泰だが、造船會社は特需に應ぜねばならないし、新造船に對しては今後獎勵金の交附手段が講ぜられると思はれる。従つて高利潤を期待することは出来ない。當社の場合どうなるか疑問だ。

【事業】	船舶及修理、汽機、橋梁用鋼材、油タンク、鐵塔及鐵構其他
【資本】	株式 3,000,000
【株主】	重役 社長 堀井 常務 山本 重光 監査 川口 田代 小野 三郎 相談 山下 三郎 堀井 三郎
【金融關係】	第一銀行
【株主】	十五名下 十六年上
【大株主】	十六年六月期 二,四三三
【事業成績】	十五年下 十六年上
【投資】	大日本兵器 日本
【關係會社】	青島船渠
【資本】	十二年十一月第二回 十四年十一月第三回 十五年七月二回 十五年十月第一回 十五年七月一

【資産負債】	十五年 十六年
株主資本	八,二七三 八,二七三
外部負債	三,六八四 三,六八四
流動資産	七,三三七 七,三三七
固定資産	四,四三三 四,四三三
現金預金	一,九六六 一,九六六
【收支勘定】	十五年下 十六年上
収入	二,四三〇 二,四三〇
支出	二,一四〇 二,一四〇
【社債】	平均拂込利率
十五年上	二,〇〇〇
十五年下	二,〇〇〇
十六年上	二,〇〇〇
十六年下	二,〇〇〇
【株價】	高値 安値
十五年	八・八
十六年	八・五
【名義書換】	十銭(新券交附) 五銭

【造船船渠業】

東京石川島造船所

【設立】明治二十二年一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市京橋區佃島五四(電京橋三六一)
(出張所) 大阪市北區中之島三井ビル内(電土佐堀五九)

【資本の急膨脹】 當社は周知の通り、昭和九年に減資整理した會社である。當時資本金三百萬圓を三分の一減じて二百萬圓とした。そして九年下期八分配當を復活し、造船景氣に恵まれつゝ急膨脹を遂げたのである。十六年五月、當時資本金三千二百萬圓、内拂込二千四百萬圓であつたが、生産設備の擴張資金を充實する爲、半額増資(變態)を斷行した。臨時資金調整法の認可を得たこと言ふまでもなく、現在資本金は公稱四千八百萬圓、拂込二千八百萬圓である。未拂込は第一新株で八百萬圓、第二新株で千二百萬圓、合計二千萬圓を残すが、必要に応じてこれを徴収し設備擴張を續ける。

【石川島造船工業の興味】 當社がこのやうに資本の急膨脹を必要とし、而も九年下期の八分配當復活以來良好な業績で現配當を維持したことは、當社の事業が時局に恵まれたからだ。主として造船部門に力を入れ當社は寧ろ精密な重機械製作會社と稱することが妥當のやうだ。航空機用發動機の製作部門を分離し、過般は子會社石川島航空工業を設立した。

【事業】	タービン、船舶用主補機、發動機、起重機各種機器其他
【資本】	株式 4,800,000
【株主】	重役 社長 荒木 常務 村松 茂 監査 吉野 隆 山田 泰作 山田 泰作
【金融關係】	第一銀行
【株主】	十五年下 十六年上
【大株主】	十五年十一月末現在
【投資】	石川島造船所
【資本】	十五年六月倍額増資 十六年五月第一回 十六年五月第一回

【資産負債】	十五年 十六年
株主資本	三,〇〇〇 三,〇〇〇
外部負債	一,八八八 一,八八八
流動資産	三,〇〇〇 三,〇〇〇
固定資産	三,〇〇〇 三,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇 一,〇〇〇
【收支勘定】	十六年上 十五年下
収入	一,〇〇〇 一,〇〇〇
支出	一,〇〇〇 一,〇〇〇
【社債】	平均拂込利率
十五年上	一,〇〇〇
十五年下	一,〇〇〇
十六年上	一,〇〇〇
十六年下	一,〇〇〇
【株價】	高値 安値
十五年	一・〇
十六年	一・〇
【名義書換】	五銭(新券交附) 五銭

【機械製作業】

新潟鐵工所

【設立】明治四十三年六月
【決算期】五月十一月

【本所】東京市麹町區丸の内有樂館内(電九ノ内三〇一五)
【出張所】大阪市北區中之島朝日ビル(電北港三〇一七)

【擴充續く】當社事業の擴充は浦和工場その他で進められてをり、右に要する擴張資金は大約七、八百萬圓に上る。擴張期にある當社は、十五年末資本金二千萬圓から三千五百萬圓への増資を決定して、十六年六月一日に一株二十圓、總額六百萬圓の第一回拂込を徴收し、支拂手形の返済に充てた。が、更に次の拂込徴收に進むものと思はれる。その時期、金額は明十七年に入つて決定をみる運びとならう。未拂込は九百萬圓だから、前記の擴張所要資金と照合すれば、これを一度に徴收することも考へられるが、金融的に支障のない當社としてみれば分割徴收の方法もある。

【事業概況】當社の社外負債三千五百萬圓には、社債は勿論借入金もなく二千五百萬圓は假受金だ。之は當社の手持品勘定の七割にも達してをり、かくも莫大な假受金を利用できることは當社の強みだ。加ふるに當社の製品は、工作機械、ディーゼル・エンジン、鐵道車輛、石油機械、小型船舶の何れも時局緊急品であり、資材方面からの制約も尠い。擴張中にも拘らず未働資産の壓迫が表面化しない當社の底力は大きい。

Table with financial data for Niigata Iron Works, including columns for '事業' (Business), '資本' (Capital), '株主' (Shareholders), and '負債' (Liabilities).

Table with financial data for Niigata Iron Works, including columns for '資産負債' (Assets and Liabilities), '支支' (Income and Expenses), and '名義書換' (Nominal Exchange).

【機械製作業】

池貝鐵工所

【設立】大正二年四月
【決算期】五月十一月

【本社】東京市麹町區有樂町東日會館電九ノ内三六一〇

【最終拂込】十六年十二月一日に新株の第三回拂込一株二十五圓總額五百萬圓を徴收した。去る四月一日に一株十二圓半、總額二百五十萬圓の第二回拂込を徴收し、引續いて今回の最終拂込徴收に進むのだが、その目的は支拂手形の返済にある。残る支拂手形は社債一千萬圓を募集して、これに振替へられる筈であるが時期は大體來春と思はれる。かくて支拂手形は六、七百萬圓を残すのみとなり、短期負債の部面には餘裕が出来る譯である。

【事業概況】當社の事業は自動車部、鑄造部を分離せしめた現在では、工作機械部と發動機部の二大部門に區別できる。發動機部の分離獨立も時期の問題と見られてゐるが、工作機械部を一括して社債の擔保となつてゐるため、これが分離は延期となつた。他方、溝ノ口の工作機械工場が略々完成を見た際として、之に要した資金を前記の如く自己資本に振替へたが、當社は工作機械五大メーカーの一で資材關係からの壓迫も尠いし、拂込徴收後の業績に不安はない。なほ十七年上期以降は溝ノ口工場の稼働で収益は漸次高まらう。

Table with financial data for Ikai Iron Works, including columns for '事業' (Business), '資本' (Capital), '株主' (Shareholders), and '負債' (Liabilities).

Table with financial data for Ikai Iron Works, including columns for '資産負債' (Assets and Liabilities), '支支' (Income and Expenses), and '名義書換' (Nominal Exchange).

【機械製作業】

日本車輛製造

【設立】明治二十九年八月
【決算期】五月十一日
【本社】名古屋市中熱田區熱田三本松町(瑞穂三ノ一)
【支社】東京市麹町區丸の内丸ビル内(電丸ノ内六ノ一)

【業績】業績は相變らず好調を續け、資産内容は何時も乍ら優秀である。即ち、手厚い償却と外部借金の回避政策に依る堅實なる経営方針の賜である。今年上期を見ても利益率は七割臺を収め、一割配當は盤石の如く不動だ。

【擴張】時局以來急激な需要増加に呼應して、全面的に工場擴張を行ひ、内地三工場のは既に完了したが、將來生産力擴充の推進力となる仁川工場の設備擴充はまだ充分でない。之が完成には、建設資材の關係から云つて相當の時日と努力を要する。必要資金は差當り借入金に依つて賄つてをり、環境と睨み合せて拂込に振替へる段取りだ。

【前途】原材料の入手難は當社として埒外に立つ譯に行かないが、これは政府當局の庇護で充分とは行かない迄も受託品に對しては何らにか配給される。それに手持材料も可成り持つてゐるので、今後少々の環境不味にも耐へ得る。加へて子會社滿洲車輛が準備期を終へて稼働期に入つた外、其他の子會社各社の好調は當社に強味を添へる好材料だ。

Table with financial data for Japanese Vehicle Manufacturing, including columns for assets, liabilities, and income.

Table with financial data for Japanese Vehicle Manufacturing, including columns for assets, liabilities, and income.

トヨタ自動車工業

【設立】昭和十二年八月
【決算期】三月九日
【本社】愛知縣西加茂郡津島町大字下市場字前山八
【出張所】東京市麹町區有樂町東日會館(電丸ノ内六ノ一)

【業績向上】去る九月份決算では利益金五百六十二萬圓を擧げこの利益率三割七分となる。前期に比べ百八十八萬圓、率に於て一割二分の増益だ。これは去る三月末のシャシー公價引上げと特需向價格改訂による増收並にこの期の棚卸減價が僅少に止まつた爲である。配當も一分増の七分とした。

【免稅滿期】當社は十六年末をもつて自動車製造事業法による免稅期間が満了する。従つて今期は期央から全的に課稅されるわけだ。然し十六年度の製作割當臺數の過半が今期に残されてをり、部品賣上高も前期に比し多額に上るはづであるから、稅の増課分位の増益は期待出来る。従つて七分配當に支障はない。

【見透し】免稅の特典はなくなるし、ガソリン不足から十七年度製作割當臺數は若干の減少とならうから、前途樂觀出來ぬ。だが一方一月から發生爐付新車の販賣が許されたので、相當程度減産を喰止め得る筈だ。又將來は代燃向自動車の製作を開始することも豫想されるので無下に悲觀の要はない。尙當社上海工場は獨立して豊田系二社との共同出資で新會社となる。

【電燈電力業】

Table with financial data for Toyota Motor Industry, including columns for assets, liabilities, and income.

Table with financial data for Toyota Motor Industry, including columns for assets, liabilities, and income.

理研工業

【設立】昭和九年三月
【決算期】二月 八月
【本社】東京市小石川區春日町一ノ一（電小石川三三〇）
【出張所】大阪市北區宗室町一（大阪ビル内）

【配当三分に引下げ】理研コンツェルンの主力會社七つから成る理研工業最初の決算が決定した。そして問題の配当は三分に引下げられた。十六年春の臨時株主總會では、新會社の配当は八分を繼續する旨が表明されたのであるが、その後、ストック生産經營の行詰りから受託生産經營に移行したこと、並に特需品の單位當りの利潤が低下したこと等を理由に、當局者は今回の減配を公表してゐる如くだ。

【今後の配當観測】處で、一應問題となることは、配當を三分に決めた基準が奈邊にあるかだ。聞く處に依れば、舊重役連は八分乃至五、六分配當を主張し、他方、新重役側は無配を力説したのであるが、これが歩み寄つた結果が、三分配當となつたらしい。新重役側が漸次當社の中心的存在となりつゝある現状から見て、當社今後の配當観測は自から首肯ける筈だ。

【再編問題】尙、理研コンツェルン傘下の中小會社再編は、最近漸く目立つ様になつた。即ち、戸越精器、飯田機械、科學主義社、科學映畫等がその例證となるのだが、兎に角、この方面の整理はこれからだ。

【事業】ピストンリング、ピストン、ドリル、カッター、ゲージ、その他工作機械

【資本】公積金 5,000,000
株主出資 2,000,000
計 7,000,000

【役員】社長 吉田一、副社長 吉田一、理事 吉田一、監事 吉田一

【株主】新株主 1,000名、旧株主 1,000名

【大株主】十六年二月期 1,000,000

【投資会社】富田工業、理研電線、理研輕合金、富田工業、其他

【名義書換】廿錢（新券交附）五錢

【資産負債】十六年 八十五年

株主立資本 5,000,000 5,000,000

外部負債 2,000,000 2,000,000

借入金 3,000,000 3,000,000

流動資産 2,000,000 2,000,000

現金預金 1,000,000 1,000,000

流動負債 1,000,000 1,000,000

現金預金 1,000,000 1,000,000

【名義書換】十錢（新券交附）五錢

不二越鋼材工業

【設立】昭和三年十二月
【決算期】五月 十一月
【本社】富山縣富山市石金二〇（電三三二一）
【事務所】東京市京橋區錦座西三ノ一菊正ビル（電京橋三三〇）

【九州特殊鋼合併】當社は十六年五月に五千萬圓の全額拂込済みとなつた。この資本膨脹は一度も他會社の合併によるものでなく、當社自體の生産力擴充に基礎を置いてゐる。ところが、去る九月に九州特殊鋼（資本金二百萬圓）を合併した。合併比率は九州特殊鋼十株に對し不二越八株の割合であつたから、當社の資本金は五千六百十萬圓となつた。この九州特殊鋼の工場は今後當社の小倉工場として、鋼材の製造に當り、岩瀬工場と相俟つて當社の資材の自給率を高めることとなり、一貫作業の強味を發揮する譯だ。

【九分配當持續】當社は十五年下期から一分減の九分配當としたが、之は經理統制令の適用によるもので業績自體は依然向上を辿つてゐる。そこで本年下期當りから可能配當率も一割になる見込みだから、再び一分の増配を期待されてゐる。併し恐らく、依然九分の据置きとして内容の充實に重きを置くものと思ふ。

【擴張計畫】擴充計畫も一段落の形だが、併しベアリングの第二期擴張と造機工場の擴充も目論まれてゐるので資金は必要だ。多分借入金によるであらう。

【機械製作業】

【事業】金切鋼及切削工具、精密機械器具、工具、鋼球、軸承、内燃機、特殊鋼

【資本】公積金 3,000,000
株主出資 2,000,000
計 5,000,000

【役員】社長 井村喜三郎、副社長 井村喜三郎、理事 井村喜三郎、監事 井村喜三郎

【株主】新株主 1,000名、旧株主 1,000名

【大株主】十六年五月期 5,000,000

【投資会社】藤井製作所、石川製作所、協和工業、不二越鋼材工業

【名義書換】十錢（新券交附）五錢

【資産負債】十五年 十六年

株主立資本 5,000,000 5,000,000

外部負債 2,000,000 2,000,000

借入金 3,000,000 3,000,000

流動資産 2,000,000 2,000,000

現金預金 1,000,000 1,000,000

流動負債 1,000,000 1,000,000

現金預金 1,000,000 1,000,000

【名義書換】十錢（新券交附）五錢

【機械製作業】

大隈鐵工所

【設立】大正七年七月
【決算期】三月 九月
【本社】名古屋市中區日進二丁目(電東八三三)
【出張所】東京市麴町區丸の内海上ビル(電丸ノ内四七七)

【決算】十六年九月初の決算では、利益率四割二分を収め、一割配當を据置いた。右利益率は平均拂込の増加の爲め、三ヶ月に比し四分三厘方低下した。

【今後】當社にとつては工作機械法に基いて、中型研磨盤、フライス盤を中心とする約五十種に製品を限定された事が一つの問題である。即ち當社はこれに對應して今後高級精密機械の生産に専念する事を要請され、目下工場の再編成を急いでゐる。十七年春早々には面目を一新する筈である。資材の點は可及的優先配給の地位にあり、當面不安は無い。

【事業】	金屬工作用諸機械
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	拂込済 10,000
【役員】	社長 大隈 繁一 副社長 大隈 啓一 常務 大隈 啓一 取締役 大隈 啓一 監査 大隈 啓一
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【大株主】	十六年上 三、二八三名
【業續】	利益率 四割二分
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

壽重工業

【設立】昭和五年三月
【決算期】四月 十月
【本社】大阪府北區根崎上共同ビル(電北三三〇一)

【基礎安定】當社の中心事業は、製鐵、鐵鑛石採掘、鑄物、機械製造の四部門となつてゐる。鐵鑛石は鐵鑛石を自給し、而もその品位は相當よいのと、能率の向上によつて原價はかなり低下して來た。當社の鐵鑛は鑄物鉄であり、従つて多くを自家消費に當てゐる。鑄物は良好な採算を續けてゐるので、現在當社の弗箱に等しい。海綿鐵も、骸炭爐によるものは着々増産されつゝあるし、ロータリーキルンも亦完成が急がれてゐるから、完成の曉には収益に寄與すること云ふ迄もない。かくて當社の基礎は一路安定に向つてゐる。

【事業】	鐵鑛鑄造、鑄造、機械
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	拂込済 10,000
【役員】	社長 壽重 工業 副社長 壽重 工業 常務 壽重 工業 取締役 壽重 工業 監査 壽重 工業
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【大株主】	十六年上 三、二八三名
【業續】	利益率 四割二分
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【機械製作業】

發動機製造

【設立】明治四十年三月
【決算期】五月 十一月
【本社】大阪府西區川大仁東二丁目(電福島三五一)
【出張所】東京市日本橋區本町二ノ七(電日本橋五九七)

【内容轉換】當社は車輛用部品と自動三輪車の製造に中心を置いてゐたが、時局以來は内燃機關と特需品を加へた。車輛用部品並に自動三輪車の前途は漸次妙味を失ひつゝあるが、それに代つて内燃機關と特需品は益々活躍しつゝある。新設池田工場も近く第二段の擴充に着手されるであらう。

【前途】轉換を終つた當社の事業は愈々時局的色彩を加へつゝある。内容は引締つてをり、収益力も悪くはない。重點會社として認められてゐるから、當面悲觀の要はあるまい。

【事業】	内燃機關、自動三輪
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	拂込済 10,000
【役員】	社長 柴田 貞一 副社長 柴田 貞一 常務 柴田 貞一 取締役 柴田 貞一 監査 柴田 貞一
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【大株主】	十六年上 三、二八三名
【業續】	利益率 四割二分
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

大阪製鎖造機

【設立】明治三十七年八月
【決算期】六月 十二月
【本社】大阪府此花區四寶島原町(電此花五二一五)
【出張所】東京市麴町區丸の内二ノ九ビル(電丸ノ内六六三)

【擴充續行】當社は工作機械、特需品部門の擴充を進めてゐるが、工作機械の方は大體十七年末頃に完成の豫定である。特需品部門は新規に工場を建設するものであるが、設備機械は大體舊工場より移轉するので、建物が出来れば内部の整備は比較的早い。擴充整備資金は拂込によらず借入金で賄ふ方針である。

【前途】擴充完成までは未働資本の壓迫は免れなないが、既設工場はそれ〴〵全面的に活動してゐるから八分配當に動搖を招くようなことはなからう。内容も最近引締つて來たことは前途を安心させるものだ。

【事業】	鐵鎖鑄造、鑄造、機械
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	拂込済 10,000
【役員】	社長 壽重 工業 副社長 壽重 工業 常務 壽重 工業 取締役 壽重 工業 監査 壽重 工業
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【大株主】	十六年上 三、二八三名
【業續】	利益率 四割二分
【株價】	高値 100.00 安値 80.00

【機械製作業】

東洋製罐

【設立】大正六年六月
【決算期】四月 十月

(本社) 大阪市此花區草場町三〇(電島島一七)
(東京工場) 東京市品川區北品川三ノノ(電大崎三二七)

【今期減配か】 當社は去る七月に製罐七社を吸収合併し、合併後の資本金は三千二百五十八萬圓(内拂込二千六百八十八萬圓)となつて新にスタートした。十六年十月份は合併第一期決算に當るが、恐らく一割配當は困難で一、二分の減配は免れ難いとみられる。

【前途】 當社は全國供給量の九割を占め、殆んど獨占してゐる譯だ。然し空罐の需要は輸出の不振で急減してゐる。従つて當面の業況は面白くない。輸出が展開されるまでは現況に甘じなければならぬ。配當も結局八分位が妥當となつて来るかも知れない。

【資本金】 公稱 三、五〇〇
拂込 二、八八〇

【株数】 (單位千株)
(五〇〇) 二、四〇〇 (一七五) 二、〇〇〇
(五〇〇) 一、五〇〇 (三五〇) 一、〇〇〇

【重役】 社長 小野計一
副社長 高野謙一
常務 藤下高 小野計一
藤下高 小野計一
藤下高 小野計一

【株價】 (實物) 舊 三〇〇
新 二〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 八、三三〇〇〇 七、三〇〇〇〇
一六年中 八、三三〇〇〇 七、三〇〇〇〇

【金融關係】 安田、三井其他
大株主 十六年上 一、三三〇名
小林 生命 八、二二五

【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 一、四六六 二〇〇
一五年下 一、二九二 二〇〇
一六年上 一、〇八六 三三〇
一六年下 一、〇八六 三三〇

【株價】 (實物) 舊 三〇〇
新 二〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 八、三三〇〇〇 七、三〇〇〇〇
一六年中 八、三三〇〇〇 七、三〇〇〇〇

東京製網

【設立】明治二十年二月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市日本橋區吳服橋町ビル内(電日本橋二五二五)

【依然不安なし】 當社の十六年四月決算に表れた利益率は七割二分強で、新計算法の採用にも拘らず相變らず素晴らしい。諸積立金は資本金の二十一割餘、經理令配當率は一割九分餘で、餘裕ある一割配當であつた。十月締切の下期成績も、假りに利益率に幾分の低下を見たとしても、ビクともしない。

【問題は原料】 操業は、勞力を始めとして依然窮屈を免れないが、元より深刻と云ふ程ではない。問題は原料關係で、マニラ麻、網共に一應は心配される。が、重點的配給を受け得る點は強味である。

【事業】 網索、麻繩其他網類
製造販賣

【資本金】 公稱 一〇、五〇〇
拂込 一〇、五〇〇

【株数】 (單位千株)
(五〇〇) 二、〇〇〇 (一〇〇) 一、〇〇〇

【重役】 社長 赤松龍一
副社長 高柳謙太郎 原悦生
常務 藤下高 小野計一
藤下高 小野計一
藤下高 小野計一

【株價】 (實物) 舊 一〇〇
新 一〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
一六年中 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇

【大株主】 十六年上 一、四一〇名
日本 銀行 八、八六〇
日 本 銀行 九、六四〇

【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 一、三三三 八三三
一四年下 一、三三三 八三三
一五年上 一、三三三 八三三
一五年下 一、三三三 八三三

【株價】 (東長) 高値 一〇〇
安値 八二・二

【機械製作業】

栗本鐵工所

【設立】昭和九年五月
【決算期】三月 九月

(本社) 大阪市大正區新築屋町七七(電泉尾二〇三二)
(營業所) 東京市麹町區有樂町東日會館(電丸ノ内六)

【下期成績】 當社の十六年九月份成績は相變らず良好であつた。計上利益金は百九十九萬一千圓で、利益率は五割二分二厘を示した。三月份に比し利益金は十二萬五千圓の増加となり、利益率は三分三厘の向上となる。かくて一割配當は愈々餘裕を加へて來た。

【前途】 當社の經營は頗る堅實だ。内容の充實に意を注いでゐるので固定資産は相當に割安となつてゐる。固定資産の回轉率が五、六回となつてゐるのは、この種會社として寧ろ異例であると云つてよい。不況に際會しても業礎の安泰は容易に崩れまい。

【事業】 鑄造、鑄物並洋灰
鐵山及化學工業用諸機械

【資本金】 公稱 一、〇〇〇
拂込 九七五

【株数】 (單位千株)
(五〇〇) 一、〇〇〇 (一〇〇) 一、〇〇〇

【重役】 社長 栗本勇之助
副社長 栗本勇之助
常務 栗本勇之助
栗本勇之助

【株價】 (實物) 舊 一〇〇
新 一〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇
一六年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【金融關係】 住友、三和、野村
大株主 十六年上 三、三三〇名
栗本 勇之助 五、八六五

【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 一、四一六 四三六
一五年下 一、四一六 四三六
一六年上 一、四一六 四三六
一六年下 一、四一六 四三六

【株價】 (實物) 舊 一〇〇
新 一〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇
一六年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇

東亞金屬工業

【設立】大正十四年五月
【決算期】六月 十二月

(本社) 神戸市葺合區脇濱町三ノ二〇三五(電葺合五七〇)
(營業所) 神戸市神戶區京町三クレセントビル(電三宮見八一)

【刷新進む】 資産内容を思ひ切つて整理し、配當を半減の五分とする一方、作業方法や製品にも相當の刷新が行はれてゐる様だ。當社の生命線であつた輕合金部門では規格を改めて、特需としてその要求に合するものとし、工作機械も機種を整理して集中的に萬能工作機、ラジアル盤、中型旋盤に力を注ぐことになつた。

【前途】 十六年下期の五分据置は可能と見てよい。然し當社が本格的な向上期に入るのには一寸間がかかるだらう。刷新が進んでも本當に軌道に乗るには至らぬからだ。當分雌伏期を經過せねばならぬ。

【事業】 輕合金、特殊鋼並
金屬加工、工作機械其他

【資本金】 公稱 八、〇〇〇
拂込 六、五〇〇

【株数】 (單位千株)
(五〇〇) 一、〇〇〇 (一〇〇) 一、〇〇〇

【重役】 社長 松尾忠二
副社長 松尾忠二
常務 松尾忠二
松尾忠二

【株價】 (實物) 舊 一〇〇
新 一〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇
一六年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【大株主】 十六年上 一、九七五名
中 根 一、二二二
松尾 忠二 六、八七〇

【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 一、八八八 一〇〇
一五年下 一、八八八 一〇〇
一六年上 一、八八八 一〇〇
一六年下 一、八八八 一〇〇

【株價】 (實物) 舊 一〇〇
新 一〇〇
高値安値 高値安値
一五年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇
一六年中 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【機械製作業】

立川飛行機

【設立】大正十三年十一月
【決算期】四月 十月

【本社】東京市麴町區海上ビル新館（電九ノ内二五三六）

【融資擴張】 當社は十六年八月一日の新株三百萬圓拂込で、資本金全額拂込済となつた。之は借金の返済に充てられたが、此の程興銀から二千萬圓の融資を仰ぐことに成功し、砂川工場の擴張に支障なき事となつた。やゝ借金偏重だが、暫く増資を見送る他ないとするれば、止むを得ないところである。

【七分持続】 作業収入は十四年上期の八百萬圓から十六年上期の二千一百萬圓へと云ふ風に、飛躍的だ。事業の繁忙が充分窺へる譯だ。表面の利益率を三割臺とし、今後も七分配當を維持しよう。

【資本金】	公稱	三〇〇,〇〇〇
【株數】	新(五〇〇)	一〇,〇〇〇
【役員】	社長 野重九郎	
	専務 山崎三郎	
	副社長 横山三郎	
	取締役 谷口英二	
	後藤幸三	
	戸川政治	
	藤澤武之助	
【資本異動】	十六年八月一二	
	四五最終拂込徴収	

【大株主】	十六年上	一、四九名
【業績】	利益金利益率配當率	
十五年上	一、八〇	二、六〇
十五年下	二、八〇	三、三〇
十六年中	七、〇〇	五、七〇
十六年上	七、〇〇	五、七〇
十六年下	七、〇〇	五、七〇
十六年中	七、〇〇	五、七〇
十六年上	七、〇〇	五、七〇
十六年下	七、〇〇	五、七〇

昭和飛行機工業

【設立】昭和十二年六月
【決算期】三月 九月

【本社】東京市京橋區銀座西朝日ビル（電銀座七七一）

【配當接近】 當社は十六年下期決算で始めて七千圓の純益を計上した。當期の總収入は千七百七十五千圓と非常の躍進を見た。飛行機の修理、組立、特需部品製作等が漸く繁忙となつた事が窺へる。たゞ工場の整備に専念してゐる關係上、尙無配を持続したが、十七年上期下期には愈々初配開始とならう。

【拂込徴収】 初配開始と相前後して第二回拂込徴収の氣運にある。十八年春を以て一應完成する現行設備擴充のために〇〇融資を仰ぐ手筈であり、前受金千三百餘萬圓と相俟つて、資金の方もまづ安定の貌だ。

【資本金】	公稱	三〇〇,〇〇〇
【株數】	新(三五〇)	七,〇〇〇
【役員】	社長 杉山俊彦	
	副社長 藤田四郎	
	専務 藤田四郎	
	取締役 藤田四郎	
	藤田四郎	
	藤田四郎	
	藤田四郎	
【資本異動】	十六年下	
	四五最終拂込徴収	

【機械製作業】

日本國際航空工業

【設立】昭和十四年十一月
【決算期】六月 十二月

【本社】東京市品川區大井權現町三六九九（電大森三〇〇）
【事務所】東京市麴町區内幸町大坂ビル（電銀座五八八）

【合併後】 舊日本航空工業と舊國際工業合併後の當社は、業容としては體裁を整へたが、之に中味を盛るのは今後の問題である。前者の平塚工場の生産力には見るべきものがあるが、後者の京都府下の工場をどうするか最後決定を見ないからだ。

【情勢待ち】 假に平塚工場の収益が高まつても、それだけで一千三百五十萬圓の拂込金に對し低率配當をなす事も容易でない。舊國際側には可成り多數の株主があるが、何等かの對策が採られぬ限り近き將來其等の株主の需される期待は持ち得ない。

【資本金】	公稱	三〇〇,〇〇〇
【株數】	新(三五〇)	一〇,〇〇〇
【役員】	社長 津田信吾	
	副社長 坂東一吉	
	専務 坂東一吉	
	取締役 坂東一吉	
	坂東一吉	
	坂東一吉	
	坂東一吉	
【資本異動】	十六年上	
	四五最終拂込徴収	

滿洲工廠

【設立】昭和九年五月
【決算期】四月 十月

【本社】滿洲國奉天大東區珠林街二段（電奉天三〇六）
【支社】大阪市東區備後町第二野村ビル（電本町三九）

【業況】 當社は、集約經營に乗り出してから早くも一ヶ年を経過した。その効果は着々と現れつつある。中心部門は製鐵、車輛、鑛山機械、特需品の四部門であるが、車輛、鑛山機械は今後に多くを期待されてゐる部門だ。勿論特需品部門も活況を呈してゐること云ふ迄もない。

【前途】 當社は在滿重點會社の一つである。内容は餘り充實してゐないが、之は今後に期待されるものだ。即ち一割配當は漸次餘裕を加へつつあるもので、その餘力を内容充實に當てられるからだ。

【資本金】	公稱	三〇〇,〇〇〇
【株數】	新(三五〇)	七,〇〇〇
【役員】	社長 根本富士雄	
	副社長 根本富士雄	
	専務 根本富士雄	
	取締役 根本富士雄	
	根本富士雄	
	根本富士雄	
	根本富士雄	
【資本異動】	十六年上	
	四五最終拂込徴収	

【機械製作業】

石産精工

【設立】大正六年五月
【決算期】五月十一月
【本社】大阪市北區堂島通一ノ三三(電北二四〇)
【支社】東京市芝區新橋二ノ一(電銀座二四三)

【合理化に努力】 當社は去る四月に舊稱神戸電機が同じ石原産業海運傘下の四社を吸収合併し、同時に社名を現稱の如くしたものだ。合併の目的は結局經營の合理化を徹底し、業礎の安泰を計ることにある。目下當局者は鋭意その進行に努めてゐるから、遠からずその効果が現れて来るだらう。金融もシンデケート團の成立によつて當面安定してゐる。

【前途】 五社共に内容は充實してゐなかつたとは當社の前途に一抹の不安を抱かせる。然し事業は時局的であるから當分繁忙を續けるだらう。

【事業】	蓄電池、カウペライ
【資本】	七、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 石原新三郎 副社長 石原新三郎 専務 石原新三郎 常務 石原新三郎 監査 石原新三郎 田村三郎 木村三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 一、三九名 十六年中 一、三九名 十六年下 一、三九名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 二、三〇〇 十六年中 二、三〇〇 十六年下 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 七、〇〇〇 十六年中 七、〇〇〇 十六年下 七、〇〇〇

大阪若山鐵工所

【設立】明治三十一年四月
【決算期】五月十一月
【本社】大阪市西區長橋通二ノ一二(電戎六〇一)
【支社】東京市麹町區丸ノ内丸ビル(電丸ノ内五〇〇)

【増資延期】 當社は去る五月に七百萬圓増資を認可されたが、その後の情勢悪化の爲め増資は今日に至るも實現されなない。株價が五十圓揚みでは實際増資は不可能だ。當分延期することになったのは當然である。増資延期の代りに借入することになった。擴充工事は依然續けられてゐるので、その資金を賄はねばならないからだ。借金が出来れば當面の金融の道は開かれるから擴充は豫想通り押し進められるだらう。

【前途】 工場整備で漸次充實しつゝある。新機種生産も軌道に乗つて来た。八分配當は繼續可能だ。

【事業】	工作機械、精密工具
【資本】	七、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 谷田俊三郎 副社長 谷田俊三郎 専務 谷田俊三郎 常務 谷田俊三郎 監査 谷田俊三郎 木村三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 六、六名 十六年中 六、六名 十六年下 六、六名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 七、〇〇〇 十六年中 七、〇〇〇 十六年下 七、〇〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 七、〇〇〇 十六年中 七、〇〇〇 十六年下 七、〇〇〇

明電舎

【設立】大正六年六月
【決算期】三月九月
【本社】東京市品川區東大崎二ノ二七六(電大崎三五一)

【擴張一段落】 當社の擴張工事もこの所一息入れた形である。戸塚工場の新設、引續いての既設諸工場擴充計畫も一應は見送りのまゝになつてゐる。懸案の拂込徴収が行間へのまゝになつてゐるからだ。そこでこれを機会に、下請工場の整理統合を圖るべく、當社への買収、下請工場間の合併工作に乗出してゐる。而しこれにも相當の資金を要する。金繰りが當面の問題だ。

【業績】 十六年九月初の業績は大體前期並の模様だ。今後の業績は一概に樂觀のみを許さぬが、何分堅實内容の當社だ。地道な耐久力に期待してよい。

【事業】	各種電氣機器及通
【資本】	一七、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 藤田三郎 副社長 藤田三郎 専務 藤田三郎 常務 藤田三郎 監査 藤田三郎 山田三郎 大野三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 九、九名 十六年中 九、九名 十六年下 九、九名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 二、三〇〇 十六年中 二、三〇〇 十六年下 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 一七、〇〇〇 十六年中 一七、〇〇〇 十六年下 一七、〇〇〇

沖電氣

【設立】大正元年八月
【決算期】四月十月
【本社】東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内三一一)

【重點會社】 當社は淺野財閥系の會社で、日本電氣(住友)、東京電氣(三井)と並んで、我國電氣界の三大メーカーである。資産内容も堅實で、借金の如きも殆どない。配當は餘裕裡に一割を持續して来たが、今後現行配當の持續に些の懸念もない。唯だ、左欄の統計に依ると十五年下期から利益金が著減してゐるがこれは、この期から償却金を支出で落すことに計算方法が變更した爲である。

【増資待機】 十六年四月十五日の拂込徴収で、現在二千萬圓の拂込済だが、増資待機にあるわけだ。

【事業】	各種電話交換機、電
【資本】	一〇、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 淺野三郎 副社長 淺野三郎 専務 淺野三郎 常務 淺野三郎 監査 淺野三郎 田村三郎 木村三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 一、一〇名 十六年中 一、一〇名 十六年下 一、一〇名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 一、〇〇〇 十六年中 一、〇〇〇 十六年下 一、〇〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 一〇、〇〇〇 十六年中 一〇、〇〇〇 十六年下 一〇、〇〇〇

【機械製作業】

【事業】	各種電氣機器及通
【資本】	一七、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 藤田三郎 副社長 藤田三郎 専務 藤田三郎 常務 藤田三郎 監査 藤田三郎 山田三郎 大野三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 九、九名 十六年中 九、九名 十六年下 九、九名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 二、三〇〇 十六年中 二、三〇〇 十六年下 二、三〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 一七、〇〇〇 十六年中 一七、〇〇〇 十六年下 一七、〇〇〇

【事業】	各種電話交換機、電
【資本】	一〇、〇〇〇
【株主】	安田各銀行
【役員】	社長 淺野三郎 副社長 淺野三郎 専務 淺野三郎 常務 淺野三郎 監査 淺野三郎 田村三郎 木村三郎 石井三郎 大垣三郎 豊之助三郎 林房之助三郎
【大株主】	十六年上 一、一〇名 十六年中 一、一〇名 十六年下 一、一〇名
【業績】	利益金利益率配當率 十六年上 一、〇〇〇 十六年中 一、〇〇〇 十六年下 一、〇〇〇
【株價】	高値 安値 十六年上 一〇、〇〇〇 十六年中 一〇、〇〇〇 十六年下 一〇、〇〇〇

【機械製作業】

大阪電気

【設立】大正十五年二月
【決算期】五月十一月
【本社】大阪市住吉區北加賀屋四(電話川三三〇一)
【營業所】大阪市西區下ノ一三(電土佐堀三三〇)

【當面好調】當社の事業は付双バイト、電気熔接機並同熔接棒の三本立となつてゐる。最近熔接機、熔接棒の賣行きが増加して來たことは當社にとつて心強い。殊にバイトは生産過剰となり、最近減産しつつある際だけに、其の感を深くする。バイト減産による成績低下は熔接機と熔接棒の増産でカバーされてゐる。華々しい向上は望めぬが、當面好調を續けるだらう。

【前途】操業率の低下は、バイトの過剰生産抑制と原料入手不圓滑の両面から招來される譯だが、それに依る業績の急低下はさして懸念するともあるまい。

【營業項目】	電気熔接機及熔接棒
【資本金】	公稱 六〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇 舊(三〇〇) 三〇〇〇〇
【役員】	社長 後藤幸三 副社長 後藤幸三 取締役 立花新三、三井英一、守谷正毅、木原菊太郎、早崎又雄、牛尾十郎、藤道文雄、今井榮量、佛治、藤田謙治郎、他二名
【大株主】	十六年上 七四名
【業績】	利益金 利益率 配當率 一五年上 一、九三三・七三 一五年下 一、一六五・四三 一六年上 一、〇三三・四八 一六年中 八六〇・五三・五四〇 一六年十月 五、四四三・五四一〇・三・五
【株價】	高値 安値 高値 安値 一五年中 七九・三三・四五 一六年十月 四三・〇三・三〇・三・七

日本電波機械

【設立】昭和六年十二月
【決算期】四月十月
【本社】東京市澁谷區伊達町三八(電高輪六五)

【連續減配】當社は十五年前の一期二分配當から、同下期には一割配當へ、更に十六年前には八分五厘配當へ連續減配を餘儀なくされた。理由は、一つには經理統制令の制約に依る爲だが、根本的には業績低下に基くものだ。

【今後】例へば、十六年前の成績を見るに、利益金十八萬六千圓、同利益率一割二分六厘に過ぎない。尤も、この利益金は償却金控除後のものだが、それにしても決算は窮屈だ。この下期も、八分五厘配當を持續する如くだが、經營は榮ではあるまい。

【營業項目】	各種精密機器、一般工作機械、各種無線機器
【資本金】	公稱 六〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇 舊(三〇〇) 三〇〇〇〇
【役員】	社長 坂英則 副社長 坂英則 取締役 白倉政太郎、取締 藤本芳太郎、佐藤慶、井場直人、瀧島常秋、林英雄、監査 鈴木備治
【大株主】	十六年上 〇〇名 株主名(發表せず)
【業績】	利益金 利益率 配當率 一五年上 一、九三三・七三 一五年下 一、一六五・四三 一六年上 一、〇三三・四八 一六年中 八六〇・五三・五四〇 一六年十月 五、四四三・五四一〇・三・五
【株價】	高値 安値 高値 安値 一五年中 七九・三三・四五 一六年十月 四三・〇三・三〇・三・七

【機械製作業】

大日本機械工業

【設立】大正五年十二月
【決算期】五月十一月
【本社】東京市京橋區木挽町同崎ビル(電話田五二七)

【子會社の問題】當社の子會社大日本工作機は永い間當社のお荷物になつてゐたが、最近東京芝浦電氣への買収談が盛頭し、それは大體纏る方針にある。たゞ未だに發表するには至つてない様だが、何れにしても當社としては悪い材料ではない。

【青砥工場】然し乍ら、當社のいま一つの悩みは工場の新設を抱へ、目下それが建設過渡期にあると云ふことだ。尤も、この青砥工場も漸く活動する段階にまで來た様だが、兎に角、新興膨脹會社としての弱味が現れてゐるわけだ。

【營業項目】	金屬製品、耐酸性化學機械其他
【資本金】	公稱 九〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇 舊(三〇〇) 三〇〇〇〇
【役員】	社長 岡崎久次郎 副社長 岡崎久次郎 取締役 尾崎三郎、吉田常務、佐々木健太郎、堀内明三郎、荒川長太郎、監査 佐々木重藏、他四名
【大株主】	十六年上 七三名
【業績】	利益金 利益率 配當率 一五年上 一、九三三・七三 一五年下 一、一六五・四三 一六年上 一、〇三三・四八 一六年中 八六〇・五三・五四〇 一六年十月 五、四四三・五四一〇・三・五
【株價】	高値 安値 高値 安値 一五年中 七九・三三・四五 一六年十月 四三・〇三・三〇・三・七

東洋工業

【設立】大正九年一月
【決算期】五月十一月
【本社】廣島縣安藝郡府中町字新地(電話島五五〇一三)
【出張所】東京市日本橋區江戶橋三ノ六(電日本橋四九七四一七)

【新工場操業好調】新鋭特需工場の操業状況は頗る良好だ。五百萬圓から一舉三倍の千五百萬圓に増資した主目的も茲にあつたわけだが、それが動き出したことは何と云つても強味である。この外に、鑿岩機、自動三輪車、ゲーデプロック、工具類及びコルク等を生産して居るが、何れも漸増傾向にある。

【擴充と拂込】現在、着工中のものは工作機械の工場だ。當社の優秀な技術が認められ、擴張を許可されたものだ。最終拂込二百五十萬圓の徴収に次ぐ、増資も時期の問題と押へてよからう。業績に不安無し。

【營業項目】	自動三輪車、一般機械器具、コルク、鑿岩機
【資本金】	公稱 一、〇〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇 舊(三〇〇) 三〇〇〇〇
【役員】	社長 松田重次郎 副社長 松田重次郎 取締役 山本義雄、常務 田恒次、監査 杉本政平、野村銀行
【大株主】	十六年上 二、三三名
【業績】	利益金 利益率 配當率 一五年上 一、九三三・七三 一五年下 一、一六五・四三 一六年上 一、〇三三・四八 一六年中 八六〇・五三・五四〇 一六年十月 五、四四三・五四一〇・三・五
【株價】	高値 安値 高値 安値 一五年中 七九・三三・四五 一六年十月 四三・〇三・三〇・三・七

【機械製作業】

小糸製作所

【設立】昭和十一年四月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市品川区東品川四ノ二(電高輪三九一二)

【九月期決算】 當社の十六年九月末締切決算を一瞥すると、利益金七十六萬五千圓、同利益率三割二分二厘だ。これを前期に較べると利益金に於て十九萬三千圓、利益率では八分一厘の各向上となる。即ち、九分配當は前期よりは餘裕を以つて据置けたわけだ。

【増益理由】 處で右増益の理由であるが、これは新設中であつた芝浦工場が期を通じて全面的に稼働したからである。尙、北支に在る子會社小糸鐵工廠は先づ現状維持と云つた處で、當社は此處しばらく積極的な擴張を急がぬ模様である。

【事業】各種照明機器、其他
 【資本金】公稱 五〇〇〇〇
 拂込済 四七五〇〇
 【株数】新(五〇〇) 五〇〇〇〇
 舊(五〇〇) 五〇〇〇〇
 【重役】社長 小糸源六郎
 専務 山本信吾 常務 小糸
 一太郎 加藤真一 柴田衛
 政 池田貞助 森野吉星
 取 岩下和雄 小柴廣
 人 監査 岩下和雄 小柴廣
 単人 監査 岩下和雄 小柴廣
 【投資會社】真空鑄工 大陸交
 通器材

【大株主】十六年下 四八三名
 小糸源六郎 一九一
 山一證券 一三六
 【業績】利益金利益率配當率
 一五年上 一五二 二七五 〇・〇
 一五年下 一五三 二七五 〇・〇
 一六年上 一五三 二七五 〇・〇
 一六年下 一五三 二七五 〇・〇
 【株價】(實物) 高値 安値
 一五年中 六〇・〇〇 五〇・〇〇
 一六年中 五五・〇〇 四八・〇〇

日本光機工業

【設立】大正八年七月
【決算期】三月 九月

(本社) 横浜市鶴見區榮町通四ノ一八一(電鶴見三六一)

【立直りは順調】 當社は安田財閥の乗出しとなつてから、立直り状態は順調である。一體當社の資産内容の最も大きい缺點は工場勘定の三百七十六萬九千圓に在る。即ち、このうち約四割見當までは明に見積過高と見られる。次の穴は、子會社東洋内燃機で、工場は少しも動いてないにも拘らず、從來増配當を續けて來たのである。

【配當】 そこで新經營者は、斯様な虚偽的決算から眞面目な經營に立直らんとすべく、十六年上期に無配を斷行したのだが、あと三、四期は復配は望めぬ。

【事業】港灣及航空燈 燈用
 レンズ並に照明機械
 【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇
 拂込済 一〇〇,〇〇〇
 【株数】新(五〇〇) 一〇〇,〇〇〇
 舊(五〇〇) 一〇〇,〇〇〇
 【重役】社長 安田彦四郎
 専務 河路實三 常務 石
 橋光治 取 藤山繁 下 桃
 島太郎 監査 柳下助七
 【大株主】十六年下 二八三名
 安田彦四郎 一三〇
 安田保善社 九三
 安田銀行 六〇
 【金融關係】安田銀行

【事業】工場二箇所
 【事業成績】十六年上 十六年下
 売上(千圓) 三、三三三 四、六三三
 【業績】利益金利益率配當率
 一五年上 一三三 一〇・〇 〇・〇
 一五年下 一三三 一〇・〇 〇・〇
 一六年上 一三三 一〇・〇 〇・〇
 一六年下 一三三 一〇・〇 〇・〇
 【株價】(實物) 高値 安値
 一五年中 八七〇 五〇〇
 一六年中 五二〇 三二八

【機械製作業】

日新電機

【設立】大正六年四月
【決算期】四月 十月

(本社) 京都市右京區海津高畝町二〇(電壬生五二二一)
(支社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内五〇二)

【業績恢復】 當社の成績は十六年上期は思はざることから急低下を招來したが、下期は早くも成績の恢復が期待されてゐる。周知の如く、當社は住友電工の子會社として同社から何かと援助を受けてゐる。所が十六年上期に成績低下をみたので、假令それが不可抗力のものであつても、同社としては大いに責任を感じた。そこで上期は同社の持株に對し配當辭退となつたが、これを契機に一層積極的に當社を助けることとなつた。この爲め成績は早くも恢復に轉じ、來期邊りには八分配當に復歸することになるだらう。

【事業】電氣計器、配電盤並
 に附屬器具製造
 【資本金】公稱 三、〇〇〇
 拂込済 三、〇〇〇
 【株数】新(五〇〇) 三、〇〇〇
 舊(五〇〇) 三、〇〇〇
 【重役】社長 阿崎貞伍
 専務 清田岩夫 常務 前
 川與三郎 四方誠太郎 取
 締 高倉俊吉 別當 西郷
 久米勇大和田 監査 太田
 茂雄 清水吉三 三宅三郎
 【金融關係】住友銀行及信託

【大株主】十六年上 一七二名
 住友電氣工業 一八七
 住友生命 三、〇〇〇
 【業績】利益金利益率配當率
 一五年上 二二二 二二五 〇・〇
 一五年下 二二二 二二五 〇・〇
 一六年上 二二二 二二五 〇・〇
 一六年下 二二二 二二五 〇・〇
 【株價】(實物) 高値 安値
 一五年中 八七五 七〇〇
 一六年中 四〇〇 三六〇

宮田製作所

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市蒲田區東六郷二ノ一九(電大森五九)

【業績豫想】 去る十一月締切の十六年下期決算は本輯執筆中はまだ詳細が判らないが、計上利益金は六十數萬圓に達するとみられる。試みに十六年上期末の材料仕掛品についてみても五百八十萬圓とその前期に比べて六十萬圓方の急増を示してをり、この一部が製品となつて當期の販賣増となること豫想されるからだ。なほ上期に利益率が小幅ながら低下したのは期中に資本負擔が増加したことによるもので、下期は右の如く増益が豫想されるから一割配當維持に無論問題ない。因みに子會社滿洲宮田も好調に推移してゐる。

【事業】自轉車、オートバイ
 の製作販賣其他
 【資本金】公稱 七、五〇〇
 拂込済 七、五〇〇
 【株数】新(五〇〇) 七、五〇〇
 舊(五〇〇) 七、五〇〇
 【重役】社長 宮田榮太郎
 取締 宮田盛之助 大場惣
 太郎 森本美吉 宮田敏夫
 岡本英 監査 宮田藤治郎
 【工場】東京 大多喜 福岡

【大株主】十六年上 一、〇七九名
 宮田榮太郎 八、六六四
 富田謙治郎 三、九八二
 【業績】利益金利益率配當率
 一五年上 八二二 三三・五 一・〇
 一五年下 八二二 三三・五 一・〇
 一六年上 八二二 三三・五 一・〇
 一六年下 八二二 三三・五 一・〇
 【株價】(實物) 高値 安値
 一五年中 五九〇 三二八
 一六年中 五九〇 三二八

【機械製作業】

石井鐵工所

【設立】大正八年十一月
【決算期】四月 十月

（本社）東京市麹町區有樂町東日會館二階（電丸ノ内三三二）
（營業所）東京市麹町區丸ノ内九ビル（電丸ノ内三三）

【註文手持莫大】

時局緊迫下の當社は益々繁忙だ。十六年上期既に、註文残高四千數百萬圓に達してゐたが、現在はやがて五千萬圓到達の勢ひを示し、未製品勘定も一千三百七十萬圓程度に膨脹してゐる模様である。輸入杜絶以來、立遅れた化學工業用機械の自給化は愈々重大性を増しつゝあるわけだ。

【利益向上か】十六年に入り當社は特需中心の受註を餘儀なくされつゝあるが、原料も此のため重點的配給を受けることが出来、下期の業績は寧ろ向上するであらう。此の點から配當繼續に問題はなからう。

【事業】化學工業用機械工
作機、其他
【資本金】公稱 10,000
株數 拂込 5,000
新(三〇〇) 5,000
【重役】社長 石井太吉
常務 富永丈吉 石井太吉
副社長 野永丈吉 石井太吉
吉保 野永丈吉 石井太吉
中仁 石井太吉 石井太吉
森谷 石井太吉 石井太吉
孫治 石井太吉 石井太吉
我孫子 石井太吉 石井太吉
榮吉 石井太吉 石井太吉

【大株主】十六年上 一、五七名
石井太吉 二、九三五
石井太吉 二、六三五
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 一、一〇〇 四、七 五、〇
一五年下 一、一〇〇 四、七 五、〇
一六年上 一、一〇〇 四、七 五、〇
一六年下 一、一〇〇 四、七 五、〇
【株價】(實物)舊 三、八〇〇 新 二、〇〇〇
一五年中 八、八八〇・〇〇〇 高値 八、八八〇
一六年中 六、五三〇・〇〇〇 高値 六、八八〇

荏原製作所

【設立】大正九年五月
【決算期】五月 十一月

（本社）東京市蒲田區羽田三ノ一三四一（電大森六）
（營業所）東京市蒲田區丸ノ内九ビル（電丸ノ内三三）

【業績】當社製品たるポンプ類及送風機または堅旋盤にしても、これからは從來の如き高利潤を収められぬ情勢にあることは、當社の前途を觀察する場合に見落してはならない。即ち、製品の單位當り利潤が漸減傾向にあるからだ。

【配當】然し乍ら、このことを考慮しても、當社の現行一割配當は餘裕あるものと云つてよく、更に、來期からは川崎に新設中の工作機工場が全面的に働き初めるから、さうなれば、一割配當には一層の餘裕が生じて來る筋合にある。

【事業】ポンプ、送風機、旋盤
機、冷凍機、水車、其他
【資本金】公稱 10,000
株數 拂込 5,000
新(三〇〇) 5,000
【重役】社長 山崎清
常務 山崎清 山崎清
副社長 山崎清 山崎清
井波 山崎清 山崎清
島倉 山崎清 山崎清
宮川 山崎清 山崎清
川次 山崎清 山崎清
邦基 山崎清 山崎清

【大株主】十六年上 八、六名
第一電機 五、〇〇〇
第一電機 五、〇〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 一、〇〇〇 四、七 五、〇
一五年下 一、〇〇〇 四、七 五、〇
一六年上 一、〇〇〇 四、七 五、〇
一六年下 一、〇〇〇 四、七 五、〇
【株價】(實物)舊 三、八〇〇 新 二、〇〇〇
一五年中 八、八八〇・〇〇〇 高値 八、八八〇
一六年中 六、五三〇・〇〇〇 高値 六、八八〇

【機械製作業】

櫻田機械製造所

【設立】明治二十六年
【決算期】四月 十月

（本社）東京市城東區北砂町六ノ五七（電本所三三二）
（營業所）東京市京橋區銀座櫻田ビル（電京橋六三三）

【決算期變更】十月末締切の十六年下期業績は、決算期變更のため五ヶ月決算ながら、期初以來の経過に照らせば一割配當維持に問題ない模様である。前期末の受注残高は九百萬圓に上つてゐる程で、また資材關係は窮屈だが材料付注文が多いことが與つて業績は順調を辿つた。なほ今後の問題としては製作品種を整理し、輸送諸機械を當社の特技にすべきである。

【滿洲櫻田賣却】滿洲國政府の斡旋でこの程滿洲櫻田を滿洲電業に賣却することに決定した。資材難の折から滿洲櫻田の賣却は當社の負擔を軽減する譯だ。

【事業】鐵工、鑄造並鐵骨、
洋灰機、起重機等
【資本金】公稱 10,000
株數 拂込 5,000
新(三〇〇) 5,000
【重役】社長 櫻田壬午郎
専務 小島亮平 取締 池田重五郎 馬渡 監査
田重五郎 兒玉 監査
宮城與三郎 兒玉 監査
【金融關係】第百、十五銀行

【大株主】十六年上 七〇名
櫻田壬午郎 二、〇〇〇
櫻田工業 九、〇〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 七、八〇〇 三、〇 三、〇
一五年下 七、八〇〇 三、〇 三、〇
一六年上 七、八〇〇 三、〇 三、〇
一六年下 七、八〇〇 三、〇 三、〇
【株價】(實物)高値 八、〇〇〇 安値 八、〇〇〇
一五年中 八、〇〇〇・〇〇〇 高値 八、〇〇〇
一六年中 八、〇〇〇・〇〇〇 高値 八、〇〇〇
十一月より四月十月に變更

月島機械

【設立】大正六年五月
【決算期】四月 十月

（本社）東京市京橋區月島通五ノ九（電京橋六三三）

【事業内容】當社の製品は化學機械で、製糖、人絹、製鹽、曹達、硫酸等の製造装置をはじめとし、現在では生産擴充に密接な關係をもつ無水酒精、人造石油、輕金屬製造装置の製作が繁忙を極めてゐる。

【業績】去る十月末締切の十六年下期決算は未發表だが、一割二分配當據置に問題ない模様である。十六年上期決算では、總收入が増加したに拘らず諸経費の膨脹から利益金は微減を示したが、償却金控除後の利益率は依然四割三分臺で餘裕を示してゐた程だ。なほ鶴見工場の擴充は今のところ時期待ちの形である。

【事業】化學用蒸餾機、鐵骨
橋梁、起重機、無水酒精裝置
【資本金】公稱 10,000
株數 拂込 5,000
新(三〇〇) 5,000
【重役】社長 大倉發身
専務 宮崎好文 大倉發身
板崎策 取締 大倉發身 監査
木村正 小川 監査
大田 小川 監査
井管八郎 岡田金之助

【大株主】十六年上 三、四名
鈴木三榮株式 八、二〇〇
大倉發身 八、一〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 二、二〇〇 四、七 五、〇
一五年下 二、二〇〇 四、七 五、〇
一六年上 二、二〇〇 四、七 五、〇
一六年下 二、二〇〇 四、七 五、〇
【株價】(實物)舊 三、八〇〇 新 二、〇〇〇
一五年中 八、八八〇・〇〇〇 高値 八、八八〇
一六年中 六、五三〇・〇〇〇 高値 六、八八〇

【機械製作業】

國産電機

【設立】昭和六年七月
【決算期】五月十一月

(本社) 東京市豊島區高田南町三ノ七(電牛込七草一)

【拂込接近】 當社は近く新株第二回拂込を徴収する模様である。十二圓半宛か廿五圓となるか認可次第だが、出来れば後者をとりたらしい。この拂込は目下急ぎ建設中の静岡縣大岡村工場に投下される。特需用マグネトの受註旺盛で、既設工場何れも多忙だ。

【九分持續】 作業の繁忙を移して製品引渡し高も可成りの増加を見てゐる。十六年下期もさる事乍ら、十七年上期は特殊關係もあり、これ迄の新記録となるのではないかと思ふ。拂込増加の負擔も輕微で、配當は今後も勿論九分が持續せられる。

【事業】	發電機、車輛用電氣
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	拂込 6,750
【役員】	新(三・五) 10,000
【大株主】	十六年上 七三名
【業務】	住友金屬工業 10,000
【業績】	利益金利益率配當率
【株價】	(實物)高値 安値
【設立】	昭和十四年一月
【決算期】	四月 十月

横山工業

【設立】昭和十一年五月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市麹町區内幸町二ノ八(電銀座三二七)

【金繰り如何】 當社のやうな中流の鑛山機械メーカーは一般に、金融難に見舞はれてゐるやうだ。原料の獲得難、労働力不足等々を突破せねばならぬが、生産力擴充の途上に於ける金融は相當窮屈のやうである。特需品製作へ轉換しつつ、業績は維持してをるけれども、配當は八分に引下げて、金繰りを容易にしてゐるのである。

【前途】 當社は帝國鑛業とも提携あり、特需品の製作も順調だから、俄かに業績が低下するやうなことはあるまい。金融難も打開されるであらう。

【事業】	鑛山、化學、土木、輪
【資本金】	公稱 8,000
【株數】	拂込 6,750
【役員】	新(三・五) 10,000
【大株主】	十六年上 七三名
【業務】	帝國鑛業開發 10,000
【業績】	利益金利益率配當率
【株價】	(實物)高値 安値
【設立】	昭和十一年五月
【決算期】	四月 十月

【機械製作業】

東洋機械

【設立】昭和十四年一月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ二

【擴充近く完了】 當社は目下第二次擴充を進めてゐる。外國機械が二、三十臺ばかり未着となつてをり、之を自家補給してゐる爲めに豫定より遅れたが、大體十六年中に完成する見透しがついてゐる。而して當社は過日三菱の傘下に入ったので、何かと援助を受けてゐる。擴張完成後の當社の業態は漸次面目を改めるものと期待される。

【前途】 當社の設備は非常に優秀である。之を百パーセント活用出来るやうになれば、當社自體の成績向上は無論のこと、國家に貢獻する所は少なくない。

【事業】	機械器具製造
【資本金】	公稱 15,000
【株數】	拂込 11,250
【役員】	新(三・五) 10,000
【大株主】	十六年上 八四名
【業務】	三菱電機 10,000
【業績】	利益金利益率配當率
【株價】	(實物)高値 安値
【設立】	昭和十四年一月
【決算期】	四月 十月

金城鑿岩機製造

【設立】昭和十三年十月
【決算期】三月 九月

(本社) 名古屋市南區江戶町三ノ三五(電南一三五)

【下期増益】 當社の十六年九月份は利益金五十一萬七千圓、利益率三割一分八厘で、前期よりも七萬圓、利益率四分四厘の増益となつた。配當は一割据置の外ないが、内容は堅實化す一方である。増資後の擴張部門も全く稼働期を迎へて、經營は安泰な軌道に乗つた。

【事業】	鑛山及土木用機械
【資本金】	公稱 15,000
【株數】	拂込 11,250
【役員】	新(三・五) 10,000
【大株主】	十六年上 八四名
【業務】	金城關係 十六銀行
【業績】	利益金利益率配當率
【株價】	(實物)高値 安値
【設立】	昭和十三年十月
【決算期】	三月 九月

【機械製作業】

小松製作所

【設立】大正六年一月
【決算期】六月、十二月
【本社】石川県能登郡小松町字八日市
【事務所】東京市麹町区丸の内丸ビル（電丸ノ内三・八七〇）

【増資と擴張】 當社は十六年八月に從來の資本金一千萬圓から二千萬圓へ倍額増資を斷行し、第一回拂込一株十二圓半、總額二百五十萬圓は十月一日に徴收された。而して、右増資々金は主として小松工場の擴張費に、一部は粟津工場の擴張資金に振向けられる。

【業績と配當】 當社業績は極めて良好で、例へば十六年六月末決算の如き、利益金三百萬二千圓、同利益率六割二分六厘と云ふ優秀な成績を以て一割配當を持續した。従つて、今後増資に依る資本負擔はあるが現行配當には何等不安を持つ必要はない。

【事業】	鑄造、特殊鋼、工作機
【資本金】	公稱 三〇〇〇〇〇
【株數】	新(三〇〇) 二〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 中村辰取、副社長 右衛門、監査 矢野政、本島八十郎、島野官一、野田幸、各務良、白石多士、吉田三和、加能合同、加州銀行
【大株主】	十六年上 一、二〇〇名
【住友】	一、二〇〇名
【日本生命】	一、二〇〇名
【日精】	一、二〇〇名
【業績】	利益金 三〇〇,〇〇〇
【株價】	十六年上 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年下 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年上 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年下 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇

東洋重工業

【設立】昭和九年三月
【決算期】五月、十一月
【本社】大阪市北區堂島濱通二ノ六（電福島六一九）
【出張所】東京市日本橋區吳服橋一三和ビル（電日本橋三〇〇九）

【大體順調】 十六年五月決算で二分減の六分配當に改め、再出發して以來別段變化なく順調に進んでゐる模様だ。何分小型の六社が集まつただけに製品の變化は相當多く、重複した部分を整理して本格的にやり出すのは恐らく來期以降のことだらう。今期の六分配當据置は先づ不安なしと見てよい。

【前途】 部門を整理再編すれば、結局特需、工作機械、化學機械の三つとなる。染色用機械とか醸造用機械とかは當面問題にならぬだらうし、此の際思ひ切つて切り捨てた方がよい。

【事業】	鑄造機、酒精製造機
【資本金】	公稱 五〇〇〇〇
【株數】	新(三〇〇) 七〇,〇〇〇
【役員】	社長 西村利義、副社長 三輪勝治、監査 佐次郎、秋吉平一、大野弘男、三輪勝治
【大株主】	十六年上 三〇〇名
【東洋紡績】	一、二〇〇名
【出向井次郎】	一、二〇〇名
【業績】	利益金 一〇〇,〇〇〇
【株價】	十六年上 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年下 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年上 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年下 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇

【機械製作業】

加藤製作所

【設立】昭和十年一月
【決算期】五月、十一月
【本社】東京市品川區大井鰐洲町二二三（電高輪五二一）

【技術重點會社】 當社は資本金四百萬圓、うち拂込三百萬圓の小型會社ではあるが、云はゞ技術重點會社に屬するものだ。

【増資と配當】 従つて、その製品の緊急性から、當社の主力千葉工場は好むと否とに拘らず、大擴張を強行せねばならぬ情勢にあり、當局者も亦その意嚮の如くだ。これが爲め少くとも倍額増資は必至と見られるが、差當つては未拂込百萬圓の徴收が先きた。拂込増資が斷行されても、當社の一割配當は、業績からは勿論のこと、經理令からも心配はない。

【事業】	各種機關車、トラク
【資本金】	公稱 四〇〇,〇〇〇
【株數】	新(三〇〇) 三〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 加藤秀三郎、副社長 加藤次郎、監査 石益太、浦田一、石益太、浦田一、石益太、浦田一
【大株主】	十六年上 四〇〇名
【加藤秀三郎】	一、二〇〇名
【加藤次郎】	一、二〇〇名
【業績】	利益金 一〇〇,〇〇〇
【株價】	十六年上 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年下 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年上 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇
【株價】	十六年下 三六・〇〇
【株價】	十六年中 三六・〇〇

芝浦マツダ工業

【設立】昭和十一年四月
【決算期】四月、十月
【本社】東京市品川區大井關ヶ原一三〇三

【前途興味】 當社は技術、經營、製品の優秀等に於て親會社東芝を小型にした觀がある。將來の興味はその親會社に合併さるゝ情勢にあることだが、對等條件なら現行八分五厘を一割迄引上げる必要がある。これを目安に株式の長期投資するの狙ひだ。

【成績伸張】 十七年央頃完成豫想のもとに現在大井及川崎工場の擴張が行はれてゐる。前者の電氣冷凍機、後者の合金工具の生産力は、原材料其他の手當に遺漏ない限り、向上の一途を辿らう。従つて積立金を殖やしつゝ若干の増配を行ふ事は可能な筈だ。

【事業】	各種電氣機械器具
【資本金】	公稱 一五〇,〇〇〇
【株數】	新(三〇〇) 一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 國安卯一、副社長 津守治、監査 保正吉、津守治、國安卯一、保正吉、津守治、國安卯一
【大株主】	十六年上 三〇〇名
【業績】	利益金 一〇〇,〇〇〇
【株價】	十六年上 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年下 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年上 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇
【株價】	十六年下 二一・〇〇
【株價】	十六年中 二一・〇〇

【機械製作業】

高砂鐵工

【設立】大正十二年十一月
【決算期】五月 十一月

【本 社】東京市京橋區銀座四ノ三 (電京橋六三七一)

【配當安定】 當社は一割二分配當を行つて居たが十五年下期二分を減じ、十六年上期經理令の關係上更に八分配當に訂正された。經理令配當率は八分八厘であり、社内保留も六割程度を行つて居り、業績から言つても、十六年下期の配當に減配の懸念はない。

【亞鉛板への轉換】 志村工場は當社の主要工場だが最近ラジエーター用亞鉛引帶鐵の増産に馬力をかけてゐる。賦力板から製品轉換に成功したのである。全工場に互り銳意合理化に努めて居り、仔會社の狀況から言つても、十六年下期の配當維持は可能であらう。

【事業】	暖房 冷房 乾燥 用諸機械、磨調帶、其他	【大株主】	十六年上 三六名
【資本金】	公稱 拂込済 六、五〇〇	【業 績】	愛高砂 生命 業 一、七、四〇〇
【株 數】	新(五〇〇) 六〇,〇〇〇	【業 績】	利益金 利益率 配當率
【重 役】	社長 伊藤 隆 監査 喜多村 貞	一五年上	六六 二二 一〇〇
【監 査】	監査 喜多村 貞 監査 駒井 久	一五年下	六六 二二 一〇〇
【工 場】	五箇所 第百銀行	一六年上	六八 二二 一〇〇
【金融關係】	五箇所 第百銀行	一六年中	六八 二二 一〇〇
		十六年下	六八 二二 一〇〇
		十六年中	六八 二二 一〇〇
		十六年下	六八 二二 一〇〇

品川精機

【設立】昭和十一年十二月
【決算期】五月 十一月

【本 社】東京市品川區東品川四ノ一〇 (電高輪一七〇)

【擴張進捗】 當社は十六年九月一日、百廿萬圓増資の半額拂込を徴收し、蒲田工場に於ける大型工作機工場、福利施設其他の建設を進めてゐる。來春には新工場も稼働するから、蒲田及品川の既設工場の繁忙と相俟つて、新しい發展段階を迎へる譯だ。尙次の計畫として新規に土地を物色中である。

【成績順調】 小型會社乍ら製品の優秀性を以て聞へ、受註先も一流會社が多い。配當は經理令關係で一割に迄引下げたが、成績の順調さから押しても、最早當分一割を訂正する必要はない。

【事業】	工作機械 作販賣	【大株主】	十六年上 二八名
【資本金】	公稱 拂込済 二、七〇〇	【業 績】	利益金 利益率 配當率
【株 數】	新(五〇〇) 二七,〇〇〇	一五年上	三三 三三 一〇〇
【重 役】	社長 池田 杉二 監査 芝周平	一五年下	三三 三三 一〇〇
【監 査】	監査 芝周平 監査 池田 杉二	一六年上	三三 三三 一〇〇
【工 場】	一箇所 池田 杉二	一六年中	三三 三三 一〇〇
【金融關係】	池田 杉二	一六年下	三三 三三 一〇〇
		一六年中	三三 三三 一〇〇
		一六年下	三三 三三 一〇〇

鋼 鉄 工 業

【設立】大正十五年三月
【決算期】五月 十一月

【本 社】神奈川縣川崎市丸中九子一三五(電田園調布三六〇)

【十六年上期】 十六年上期の利益金は三十萬九千圓で、利益率は一割一分五厘である。この成績で、配當は六分だから、先づ樂な決算とは云ひ難い。

【十六年下期】 當社のプレス部門が充分に活躍すると、業績は様變りに好轉すること明かだが、いまの處、その期待はあまり掛けられぬとしても、工作機械部の活躍から業績は漸次乍ら向上するものと考へて大過なからう。差當つて下期業績は利益金として四十一、二萬圓は充分擧げ得る筈だ。利益率にして一割三、四分となるから、六分配當は引續き据置かれる。

【事業】	工作機械器具其他	【大株主】	十六年上 四六名
【資本金】	公稱 拂込済 六〇,〇〇〇	【業 績】	逸ノ内 興業 二、八、八〇〇
【株 數】	新(五〇〇) 六〇,〇〇〇	【業 績】	利益金 利益率 配當率
【重 役】	社長 山口 武彦 監査 黒川 常	一五年上	三三 三三 一〇〇
【監 査】	監査 黒川 常 監査 八幡熊 三	一五年下	三三 三三 一〇〇
【工 場】	五箇所 安田銀行	一六年上	三三 三三 一〇〇
【金融關係】	五箇所 安田銀行	一六年中	三三 三三 一〇〇
		一六年下	三三 三三 一〇〇
		一六年中	三三 三三 一〇〇
		十六年下	三三 三三 一〇〇

【機械製作業】

國光製鎖鋼業

【設立】昭和九年五月
【決算期】五月 十一月

【本 社】大阪市住吉區濱口町四四五(電櫻川二二五一)

【出張所】東京市麹町區丸ノ内三三二一(電話館)

【強味増進】 當社の主力事業は、特許「國光鎖鋼」の製造である。當社の鎖鋼製造は、早くより機械化されてをり、製品は既に定評がある。最近、遞信省の規格試験に在來品より平均一割の原料節約を許可された。これは原料逼迫の際大きな強味だ。更に當社の鎖鋼製造設備は、直に他の製品に轉換出来る。即ち航空機、自動車部分、特需品等の製造は、當社のプレス機で非常に優秀品が出来るのである。

【前途】 目下擴張中で、十七年三月頃に完成する。そらすると製鎖能力は倍増し、強味は更に増大する。

【事業】	特許チェーン、鋼鋼	【大株主】	十六年上 三三名
【資本金】	公稱 拂込済 六、五〇〇	【業 績】	木村 敬一 商店 一、四、八〇〇
【株 數】	新(五〇〇) 六〇,〇〇〇	【業 績】	利益金 利益率 配當率
【重 役】	社長 長谷川 爲藏 監査 藤原 隆	一五年上	三三 三三 一〇〇
【監 査】	監査 藤原 隆 監査 藤原 隆	一五年下	三三 三三 一〇〇
【工 場】	一箇所 長谷川 爲藏	一六年上	三三 三三 一〇〇
【金融關係】	長谷川 爲藏	一六年中	三三 三三 一〇〇
		一六年下	三三 三三 一〇〇
		一六年中	三三 三三 一〇〇
		十六年下	三三 三三 一〇〇

【機械製作業】

日本デイズル工業

【設立】昭和十年十二月
【決算期】五月十一月
(本社) 埼玉縣川口市彌平町二五三 (電川口三三)

【復配説撻頭】 當社の事業はクルツプ、ユニケル
ス特許のデイズル機關の製作である。その設備機械は
凡て獨逸製で、有望視されるが、創業以來適當な經營
者を得なかつたので、所謂問題會社として扱はれてを
ることは前輯にも報じた通りだ。鏡實の經營となり、
事業も漸く軌道に乗つて來たやうで、一部には當社の
配當復活説が擡頭してゐる。

【前途觀】 併し記者は當社の復配は未だ時期尚早
のやうに思ふ。社容の整備が何よりも必要で、復配を
急がず、事業の發展策を一日も早く樹立すべきだ。

【事業】	機關器具其他
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	(株) 10,000
【役員】	社長 城戸秀吉 副社長 佐久間成一 取締役 橋本三吾、木相澤覺、 水吉、小佐竹、津田信吾、 相説、津田信吾、入徳義

【大株主】	十六年上 三、八五三名
【業績】	利益率 二、〇〇〇
【金庫關係】	三井銀行
【流動資産】	二、〇〇〇
【固定資産】	一、〇〇〇
【負債】	一、〇〇〇

遠州機械

【設立】大正九年二月
【決算期】五月十一月
(本社) 靜岡縣濱名郡可美村高塚四八八 (電濱松二〇一)

【擴張計畫實現】 先に資材難で見送りとなつた高塚
工場新設計畫は、特需品増産の必要から再び具體化し
近く倍額増資申請の模様だ。内容は堅實だから、増資
後も業績に懸念はない。

【業績】 當社は毎期五割以上の利益率を續け、一
割四分配當を實施してゐる。十六年下期も利益率五割
以上を收めた。だが配當は同業各社に比べ高率すぎる
觀がある。増資が實現すれば尙更、漸次修正を加へて
一割程度迄引下げることにならう。然し乍ら、當社の
業績は確固たるものがあるから、その點不安はない。

【事業】	フライス盤、緊機、 1. 自動、普通機械、 2. 自動改造装置
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	(株) 10,000
【役員】	社長 阪本久五郎 取締役 南郷三郎、角田正壽、 監査 宮島清次郎、増井治

【大株主】	十六年上 三、八五三名
【業績】	利益率 二、〇〇〇
【金庫關係】	遠州銀行
【流動資産】	二、〇〇〇
【固定資産】	一、〇〇〇
【負債】	一、〇〇〇

【機械製作業】

豊田自動織機製作所

【設立】大正十五年十一月
【決算期】三月 九月
(本社) 愛知縣碧海郡刈谷町大字熊字油木 (電刈谷三二)

【下期業績】 當社の十六年九月份決算は利益金八
十萬三千圓、利益率一割七分八厘で、前期に比し十萬
三千圓の増益、利益率にして二分二厘の向上となつた。
この限り稍々業勢見直しと思はれるが、未だ八分配當
据置は窮屈たるを免れない。

【前途】 資金凍結の結果、紡績機は一層不振の外
ない。然し當社事業の中心がトヨタ自動車の部分品製
作に置き替へられたので、その生産も増大の一途にあ
り將來性は約束されてゐる。従つて當面不振の域を脱
するには苦心も要るが、先行き光明が認められる。

【事業】	一般機械、原動機、 動力織機
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	(株) 10,000
【役員】	社長 豊田利三郎 副社長 豊田喜一郎 取締役 豊田喜一郎、 監査 豊田喜一郎、 野次郎、三井銀行

【大株主】	十六年上 三、八五三名
【業績】	利益率 一、八〇〇
【金庫關係】	三井銀行
【流動資産】	二、〇〇〇
【固定資産】	一、〇〇〇
【負債】	一、〇〇〇

鈴木式織機

【設立】大正九年三月
【決算期】五月十一月
(本社) 靜岡市相生町四三三 (電濱松二〇一)

【業績】 十六年下期決算は目下精算中だが、大體
上期並の成績に落着いた模様。高塚工場の新設で未働
資産壓迫が強く利益率の急落を來してゐるが、漸次回
復期に向ふものと思はれる。然し配當は更に自肅減配
を行つて一割程度とし、今後に備へる方針のようだ。

【擴張】 主體事業が特需品製作で、仕事は益々繁
忙を極め、目下の能力では到底消化困難となつた。そ
こで高塚工場の第二次擴充を行はねばならぬ事となり
近く着工の豫定だ。之が資金百七十萬圓は當分借入金
で賄ひ、適當な時期に増資することゝならう。

【事業】	織機製造 一般織工 業其他
【資本金】	公稱 10,000
【株數】	(株) 10,000
【役員】	社長 鈴木道雄 副社長 鈴木道雄 取締役 鈴木道雄、 監査 鈴木道雄、 鈴木道雄、鈴木道雄

【大株主】	十六年上 三、八五三名
【業績】	利益率 一、八〇〇
【金庫關係】	遠州銀行
【流動資産】	二、〇〇〇
【固定資産】	一、〇〇〇
【負債】	一、〇〇〇

【機械製作業】

帝國精密工業

【設立】昭和九年三月
【決算期】五月 十一月
（本社）神戸市林田區大池町四ノ二（電話三三三）
（出張所）東京市麩町區丸ノ内南榮館四階

【下期も無配】 當社は十五年下期に、固定資産の再評價を断行し、以來無配を續けてゐるが、十六年下期も無配となる模様だ。成績は大體順調を示してゐるが、まだ固定資産の中には充分に切下げられざるものがあり、そこでもう一期無配として、利益の大部分を償却に當てることになるだらう。

【前途】 當社の事業は工作機械と航空機用精密器具類の製造であり、時局柄活況を呈してゐる。内容も無配繼續で引締る筋合だから、十七年上期邊りに六分程度の復配が可能となるだらう。

【事業】 工作機械、各種精密
【株主】 堀込清 二、五〇〇
【役員】 社長 山田多計治
常務 堀込清 堀込新次 堀込三郎
所長 堀込新次 堀込三郎
監査 堀込新次 堀込三郎
大株主 十六年上 三三六名
大阪機械製作所 三三、〇〇〇
村上合資 三、〇〇〇

【金融關係】 第一銀行
【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 二二七・〇〇
一五年上 二二八・〇〇
一五年下 二二八・〇〇
一六年上 二二八・〇〇
一六年下 二二八・〇〇
一六年中 二二八・〇〇
流動資産 二、三六〇
固定資産 二、三六〇
使用資金 二、三六〇
外部負債 二、三六〇
株主資本 二、三六〇

理研アルマイト工業

【設立】昭和九年三月
【決算期】三月 九月
（本社）東京市京橋區銀座西三木ビル（電話三三三）
（支店）大阪府豊能郡庄内町大字庄本（電話三三三）

【下期減配】 九月末締切の十六年下期決算は、左掲表に見る如く、四分減配の四分配當であつた。儲實との提携により舊經營者たる佐久間、鹽入兩氏が退陣したのであるが、その過渡期に於て収益が擧らなかつたからだ。繰越金に手をつけて配當を附したのだ。

【前途】 問題は神崎主力工場の収益力と持株日本デイズル工業の前途にかゝる。新たな經營の責任者一平沼、池田兩氏が何處までこれを持つて行くであらうか。儲實の支援を如何に活用するか。今後は内容の充實、合理化が肝要だ。

【事業】 アルミニウム製品
【株主】 堀込清 七、〇〇〇
【役員】 社長 堀込清
常務 堀込清 堀込新次 堀込三郎
所長 堀込新次 堀込三郎
監査 堀込新次 堀込三郎
大株主 十六年上 三三六名
大阪機械製作所 三三、〇〇〇
村上合資 三、〇〇〇

【大株主】 十六年下 一、五三三名
住友金剛工業 五、〇〇〇
平沼覺治 四、〇〇〇
堀込清 三、〇〇〇
堀込新次 二、〇〇〇
堀込三郎 二、〇〇〇
一五年上 九四九・〇〇
一五年下 九四九・〇〇
一六年上 九四九・〇〇
一六年下 九四九・〇〇
一六年中 九四九・〇〇
流動資産 二、三六〇
固定資産 二、三六〇
使用資金 二、三六〇
外部負債 二、三六〇
株主資本 二、三六〇

【機械製作業】

日本鍛工

【設立】昭和十二年八月
【決算期】五月 十一月
（本社）東京市日本橋區通一丁目二ノ一（電日本橋一五五）

【業況】 尼崎、川崎兩工場の建設、擴張工事はとも資材難から、豫定より遅延してゐたが、最近尼崎工場は一部操業を開始するに至り、川崎工場も近く一部運轉に至る見込である。かくて製作高の向上と未働設備の壓迫軽減に伴ひ収益は頓に増大を來す筋合にある。十六年下期の利益金は前期より更に十萬圓前後を増加するだらう。従つて若干の増配も可能であるが、未拂込徴収を控へてゐる關係から、九分配當は據置くものと思はれる。今後も前記二工場の工事進捗に伴ひ成績は一段と向上を辿らう。

【資本金】 公稱 一〇、〇〇〇
【株主】 堀込清 一、〇〇〇
【役員】 社長 堀込清
常務 堀込清 堀込新次 堀込三郎
所長 堀込新次 堀込三郎
監査 堀込新次 堀込三郎
大株主 十六年上 三三六名
大阪機械製作所 三三、〇〇〇
村上合資 三、〇〇〇

【金融關係】 安田、三和銀行
【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 二二七・〇〇
一五年上 二二八・〇〇
一五年下 二二八・〇〇
一六年上 二二八・〇〇
一六年下 二二八・〇〇
一六年中 二二八・〇〇
流動資産 二、三六〇
固定資産 二、三六〇
使用資金 二、三六〇
外部負債 二、三六〇
株主資本 二、三六〇

東京鍛工所

【設立】大正七年四月
【決算期】五月 十一月
（本社）東京市品川區東大崎一ノ五四六（電大崎三八七一）

【半額増資】 當社は十六年三月の最終拂込後、増資が問題とされてゐたが、此の程申請中の半額増資が認可となつた。近くその第一回拂込（一株二十五圓、總額二百五十萬圓）を徴収する豫定だ。かくて増資後は資本金一千五百萬圓、拂込一千二百五十萬圓となる。【九分配安定】 右の増資資金は専ら川崎工場の擴張費に充當されるが、なほ現在に於ける受註高は約一千萬圓、二ヶ年分に相當する額に上つてゐるので擴充は續行されよう。しかも製品は大部分が特需向だから業績に懸念はなく、九分配當は安定してゐる。

【資本金】 公稱 二五、〇〇〇
【株主】 堀込清 一、〇〇〇
【役員】 社長 堀込清
常務 堀込清 堀込新次 堀込三郎
所長 堀込新次 堀込三郎
監査 堀込新次 堀込三郎
大株主 十六年上 三三六名
大阪機械製作所 三三、〇〇〇
村上合資 三、〇〇〇

【金融關係】 住友、野村、興
【業績】 利益金利益率配當率
一四年上 二二七・〇〇
一五年上 二二八・〇〇
一五年下 二二八・〇〇
一六年上 二二八・〇〇
一六年下 二二八・〇〇
一六年中 二二八・〇〇
流動資産 二、三六〇
固定資産 二、三六〇
使用資金 二、三六〇
外部負債 二、三六〇
株主資本 二、三六〇

【機械製作業】

大日本兵器

【設立】昭和十三年七月
【決算期】六月 十二月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内昭和ビル (電丸ノ内五三―一)

【業績】業績は最近順調に進んでゐる。この調子で行けば、十六年十二月締切決算も前期並の業績を収めることが出来る様だから、現行の八分配當も大體据置くことが出来る。

【今後】十六年九月第三回拂込七百五十萬圓を徴収したが、この資金は精密機械工場の擴張に充當するものだ。更に當社は近く特需部門の擴張に着手するから資金も必要になる。従つて十七年春には最終拂込を徴収するものと思はれる。今後拂込徴収による業績壓迫で、幾分成績は低下するも、前途は楽しみだ。

【事業】	一般諸機械、金屬製工作機其他
【資本金】	公稱 10,000,000
【株数】	拂込 1,000,000
【役員】	社長 寺島健常 取締役 中村藤藏 中谷達次郎 山田太郎 石原次郎 山下太郎 下谷三郎 相談 山
【金融關係】	第一銀行
【大株主】	十六年上 三,三〇〇名
【業績】	浦賀 船渠 一五,七五二 東邦電力 一〇,〇〇〇
【業績】	利益金利益率配當率
【業績】	十五年上 一,七二〇
【業績】	十五年下 二,二〇〇
【業績】	十六年上 三,三〇〇
【業績】	十六年下 三,三〇〇
【業績】	十六年中 三,三〇〇
【業績】	十六年 三,三〇〇
【業績】	十六年 三,三〇〇

滿洲機械製造

【設立】昭和十五年六月
【決算期】三月 九月

(本社) 新京特別市大同大街四〇六號
(支社) 大阪市西淀川區堀島町一五六四 (電堀島七七一)

【初配當】當社は十六年九月份に八分の初配當を斷行することになった。成績の詳細は近く發表されるが、先づ良好であつたようだ。當社は十五年十二月に創立されたが、十六年五月倍額増資を斷行して現在は千萬圓となつてゐる。事業は滿洲に於いて滿洲重工業傘下の各社の所要機械を製造することになつてゐる。

【前途】當社は舊帝國鑄鋼を基本體としてゐるだけに、創立早々より八分配當が可能であつたし、又前途も大して不安はない。當面八分配當を續けて行くだらう。

【營業種目】	鑄鋼、鑄山用機械
【資本金】	公稱 10,000,000
【株数】	拂込 1,000,000
【役員】	社長 岸本治左衛門 取締役 中込一郎 岸本治左衛門 中込一郎 岸本治左衛門 廣徳 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江 相談 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江 相談 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江
【大株主】	十六年上 五名
【業績】	滿洲機械製造 三,九〇〇
【業績】	津田 三,九〇〇
【業績】	十五年上 一,〇〇〇
【業績】	十五年下 一,〇〇〇
【業績】	十六年上 一,〇〇〇
【業績】	十六年下 一,〇〇〇
【業績】	十六年中 一,〇〇〇
【業績】	十六年 一,〇〇〇

【機械製作業】

芳澤化機工業

【設立】大正六年十月
【決算期】六月 十二月

(本社) 東京市江戸川區逆井一ノ五 (電城東二二一―五)
(支社) 大阪市旭區今福町三八二 (電堀川五七六―九)

【轉換長びく】鉛管、鉛板の製作が資材關係から不可能となり、化學機械に主業を轉換せんとしたが、その過程で種々の制約を蒙り、利益率は十四年下期の七割八分九厘から十六年上期には九分八厘へ、配當も同期間に一割五分から一割に六分まで急落した。

【前途】斯く業績が急悪化したには、主業轉換が長びいたこともさりながら、經營自體に就ても經營者の猛省があつて欲しい。現状からすれば寧ろ無配を斷行しても、化機部門の確立を急ぐべきである。株主もまた長い目で當社の更生を待つべきであらう。

【事業】	各種鉛管、鉛板、硬鉛製品、其他化學用諸機械
【資本金】	公稱 10,000,000
【株数】	拂込 1,000,000
【役員】	社長 芳澤 喜太郎 取締役 柳長三郎 芳澤 喜太郎 取 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江 監査 三木武市 御原
【大株主】	十六年上 二〇八名
【業績】	芳澤 喜太郎 三,八〇〇
【業績】	芳澤 喜太郎 三,八〇〇
【業績】	十六年中 三,八〇〇
【業績】	十六年 三,八〇〇

日本光學工業

【設立】大正六年七月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市品川區大井森前町五四六 (電大森八三一―六)

【擴充邁進】十六年七月、一千五百萬圓増資の半額拂込を徴収し、新鋭川崎工場の擴充に専念してゐる。獨り戰勃發以來、例へばプロック等も獨逸に仰げなくなり、光學硝子と唇齒輔車の關係にある精密機械も亦我國獨自の資材と技術に依存せねばならなくなつた。業界の第一人者たる當社の使命は頗る重い。

【収益見透】作業繁忙を映じて収益も着實に向上してゐるし、從來の決算にも含みが多いから、八分配當持續に懸念はない。市場に於て注目されてゐるのも尤もで、拂込なども却つて歡迎される株式の一だ。

【事業】	測距儀、顯微鏡、其他光學的諸機械
【資本金】	公稱 10,000,000
【株数】	拂込 1,000,000
【役員】	社長 波多野 義男 取締役 波多野 義男 斯波 孝四郎 取 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江 監査 近藤 滋 藤原 北浦 勇馬 取 藤原 白川 江
【大株主】	十六年上 五五名
【業績】	三 菱 重 工 業 七,八〇〇
【業績】	旭 三 井 硝 子 一〇,〇〇〇
【業績】	藤 井 硝 子 六,〇〇〇
【業績】	十五年上 一,〇〇〇
【業績】	十五年下 一,〇〇〇
【業績】	十六年上 一,〇〇〇
【業績】	十六年下 一,〇〇〇
【業績】	十六年中 一,〇〇〇
【業績】	十六年 一,〇〇〇

【機械製作業】

日本精器

【設立】昭和二年十二月
【決算期】四月 十月
(本社) 東京市蒲田區仲六郎三ノ二(電話田三三三)
(支社) 大阪市西區京橋上通二ノ一四

【事業内容】 當社事業は精密機械部と電機部とに大別できる。設備、収益から見ても前者が過半を占め近來は某方面の斡旋で日立、芝浦との連繫を強化してゐる。また電機部は局型受信機を製作してゐるが、これも北支方面から材料付注文があり、繁忙を呈してゐる。これに對應して、従來分散してゐた工場をすべて蒲田の本社工場附近に集め、工場を整備して受注消化に資せんとしてゐる。

【業績豫想】 前期に引續き十六年下期も好調を持續してゐる。九分配當は据置きだらう。

【事業】	電氣機械器具、ラヂオ受信機、其他諸機械
【資本金】	株式 10,000,000
【株数】	新(三三〇) 100,000 舊(五〇〇) 500,000
【役員】	社長 青柳欣一 取締役 野田三郎 青柳欣一 野田三郎 青柳欣一 野田三郎
【大株主】	十六年上期 三三〇名
【業績】	利益金 利益率 配當率
【株價】	高値 安値
【金融關係】	住友銀行

弘中商工

【設立】昭和五年十月
【決算期】五月 十一月
(本社) 朝鮮京城府漢江通三(電話龍山三三〇)

【業績行き問へ】 十六年上期には、増資によつて拂込資本が増した上に賣上高が増えず、一方支出は増加する傾向を示したので、利益は減り、利益率も低下した。富平工場が綜合工場として全完成を見たにかゝらず、資材の入手難によりフル操業が出来なかつた結果である。下期の業績は若干見直してゐる模様だから、九分配當は据置くものと思はれるが、業績の行きつかへ状況は依然たりと見ねばならぬ。

【新株第二回拂込徴収】 新株第二回拂込一株十二圓半總額七十五萬圓を十六年十一月廿二日に徴収した。

【事業】	鐵道車輛並諸機械類の製造販賣
【資本金】	株式 6,000,000
【株数】	新(三三〇) 300,000 舊(三〇〇) 300,000
【役員】	社長 弘中良一 取締役 天方爲平 弘中良一 天方爲平 弘中良一 天方爲平
【大株主】	十六年上期 四二一名
【業績】	利益金 利益率 配當率
【株價】	高値 安値
【金融關係】	東洋拓殖

滿洲車輛

【設立】昭和十三年五月
【決算期】五月 十一月
(本社) 滿洲國奉天市皇姑區大寶街
(出張所) 大阪市東區南久太郎町二ノ一三(電話三二二)

【稼働期に入る】 擴張を完了した奉天工場は當社の主力工場として、大陸の活潑なる車輛需要に應じて運轉を開始、稼働期を迎へた。一方大連工場の擴張工事も順調に進捗中で近く完成する豫定である。これで當社の整備時代は済んで、本格的に操業を開始する運びとなり、業績も當然向上の筋合にある。

【拂込接近】 工事資金を借入金で賄つて來た關係上當社には多額の借入金がある。目下之を自己資本に振替へる事が考慮されてをり、何れ環境事情を見合せて拂込徴収が行はれよう。

【事業】	汽關車及客貨車
【資本金】	株式 110,000,000
【株数】	新(三三〇) 100,000 舊(五〇〇) 500,000
【役員】	社長 秋山正八 取締役 野中秀次 秋山正八 野中秀次 秋山正八 野中秀次
【大株主】	十六年上期 八〇二名
【業績】	利益金 利益率 配當率
【株價】	高値 安値
【金融關係】	日本興業銀行

【機械製作業】

龍山工作

【設立】大正八年八月
【決算期】五月 十一月
(本社) 朝鮮京城府永登浦町二〇二(電話永三六)
(支社) 朝鮮仁川府港町七ノ一二

【業績低下】 最近數期の業績は目立つて低下してゐる。賣上引渡高の増加をみると、十五年上期は五十四萬圓だったものが、同下期に二十四萬九千圓となり十六年上期には十七萬六千圓となつた。而もこの間工場設備は擴張されてゐるので、收支比率は悪化し、一方拂込資本の増加により利益率は低下してゐる。配當も擴張前の一割が九分三厘弱となつてゐる。

【下期も不變】 十六年下期も資材供給の不圓滑は依然たりだから、大體これまでの傾向と變りあるまい。但し配當は据置くであらう。

【事業】	鐵道車輛、客車其他運輸機械、一般機械器具
【資本金】	株式 10,000,000
【株数】	新(三三〇) 300,000 舊(三〇〇) 300,000
【役員】	社長 田川常治郎 取締役 石原久三郎 田川常治郎 石原久三郎 田川常治郎 石原久三郎
【大株主】	十六年上期 七〇二名
【業績】	利益金 利益率 配當率
【株價】	高値 安値
【金融關係】	朝鮮銀行

【機械製作業】

日本特殊鋼材工業

【設立】昭和十四年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市京橋區銀座一ノ三(電報掛四〇〇)
(出張所) 大阪市西區立賣堀南角通(電報掛四三三)

【業況】 當社は昭和十四年に設立された新進会社である。それにも拘らず業績は頗る好調である。例へば十六年上期業績を見ても利益率は三割四厘を収めてゐる。之を前期の利益率二割六分に比べると九分弱の増率だ。配當率も十五年上期以來一分づつを増配してきてゐる。十六年十一月締切業績も順調に推移してゐるから、無論現行八分配當は問題なく据置ける。

【前途】 現在、砂鐵の採掘販賣並國鐵の製造販賣を行つてゐるが、之は順調に進んでゐるし、前途は期待される筋合にある。

【事業】	鋼物鐵物各種製品
【資本金】	拂込済 七五〇、〇〇〇
【株數】	(五〇〇) 一五〇、〇〇〇
【役員】	社長 舟崎由之 専務 今里廣記 舟崎由之 副社長 藤隆太 小寺三郎 船橋次郎 常務 藤隆太 小寺三郎 船橋次郎 船橋次郎 常務 藤隆太 小寺三郎 船橋次郎 船橋次郎 常務 藤隆太 小寺三郎 船橋次郎 船橋次郎 常務 藤隆太 小寺三郎 船橋次郎
【業務】	今里廣記 舟崎由之
【大株主】	十六年上期 六四〇名 今里廣記 五〇、八〇〇 廣記 四、七〇〇
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上期 七三六 二・五 〇・〇 一五年下期 九六六 二・〇 〇・〇 一六年上期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇 一六年下期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇
【資産負債】	一五年上期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇 一五年下期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇 一六年上期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇 一六年下期 一、四〇〇 三・〇 〇・〇
【流動資産】	六、六六〇 八、五七五

特殊輕合金

【設立】昭和九年一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區有樂町有二ビル(電丸ノ内五三二六)

【下期業績】 當社の十六年十一月締切決算は、賣上高二、三割方増加の見込で、前期に比べ若干の成績向上とならう。然し未だ基礎の安定化を計ることが先決であるから配當復活は當分自重するものと思はれる。

【古河と提携か】 當社の悩みである稻澤工場建設工事は目下八割完成と言ふ處で、一向に進捗しない。操業も五割程度で、依然固定資産總額の六割近くが未働の儘である。この矢先古河電工との提携が噂され、この交渉が甘く行けば當社にとり好材料たるは言ふを俟たない。

【資本金】	公稱 一〇〇、〇〇〇
【株數】	(五〇〇) 二五〇、〇〇〇
【役員】	社長 宮崎政治 副社長 久留島政治 専務 宮崎政治 久留島政治 副専務 宮崎政治 久留島政治 常務 宮崎政治 久留島政治 船橋次郎 常務 宮崎政治 久留島政治 船橋次郎 常務 宮崎政治 久留島政治 船橋次郎 常務 宮崎政治 久留島政治
【業務】	宮崎政治 久留島政治
【大株主】	十六年上期 一、三六名 一五年上期 一、三六名 一五年下期 一、三六名 一六年上期 一、三六名 一六年下期 一、三六名
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上期 一、三六 二・〇 〇・〇 一五年下期 一、三六 二・〇 〇・〇 一六年上期 一、三六 二・〇 〇・〇 一六年下期 一、三六 二・〇 〇・〇
【資産負債】	一五年上期 一、三六 二・〇 〇・〇 一五年下期 一、三六 二・〇 〇・〇 一六年上期 一、三六 二・〇 〇・〇 一六年下期 一、三六 二・〇 〇・〇
【流動資産】	一、三六 一、三六

岡本工業

【設立】大正八年三月
【決算期】五月 十一月

(本社) 名古屋市中區東區東通七ノ一(電報掛三三二一三)
(出張所) 東京市神田區末廣町一(電下谷三三九)

【辨】 十六年七月新株(舊航空機株)未拂込百六十二萬五千圓を徴收、笠寺工場新設擴充費に當てた。然し笠寺工場の工事資金には五百萬圓を要する見込だから、今後も引き続き未拂込の徴收を行ふものと思はれる。尙此外に當社には更に大規模な擴張計畫が具體化しつつある。之が實現の時期は來夏頃と思はれるが、この資金獲得の爲には再増資が氣構へられてゐる。

【業績】 當社の十六年下期業績は前期並と豫想される。連續的擴充の途次で、尠くとも笠寺工場が全面的に稼働する迄は成績の向上は望まれぬ。

【事業】	自轉車、發動機部品及機械器具
【資本金】	公稱 一三〇、〇〇〇
【株數】	拂込済 九、五〇〇
【役員】	社長 新三三〇 専務 新三三〇 副専務 新三三〇 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇
【業務】	新三三〇
【大株主】	十六年上期 九〇名 古河電氣工業 三、八〇〇 岡本 三、二〇〇 一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【資産負債】	一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【流動資産】	一、一七二 一、一七二

光洋精工

【設立】昭和十年一月
【決算期】三月 九月

(本社) 大阪市東區中川町四ノ六〇(電天王子三四三)
(出張所) 東京市京橋區銀座七ノ三(電銀座三〇〇)

【子會社合併】 當社は、嘗て軸承原料及軸承用機械の自給を行ふ目的から資本金五百萬圓(内百二十五萬圓拂込)現在配當一割の光洋鋼機を設立した。その後同社は原料鋼の自給は或る事情で中止し、現在は検査器具並に軸承用専門機の製造を行つてゐる。之を吸收合併することとなり、十六年内に實現の見込みだ。條件は一對一である。

【朝鮮進出】 光洋鋼機は過般朝鮮進出を認可され目下富平に工場建設中だ。高周波重工と提携し、同社より原料の供給を受け、聽ては軸承製造に染手する。

【事業】	各種ボール、ローラ
【資本金】	公稱 一〇〇、〇〇〇
【株數】	拂込済 一〇〇、〇〇〇
【役員】	社長 池田善一郎 専務 池田善一郎 副専務 池田善一郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎
【業務】	池田善一郎
【大株主】	十六年下期 二八〇名 北田興業 一、〇〇〇 一五年下期 一、〇〇〇 一五年上期 一、〇〇〇 一六年上期 一、〇〇〇 一六年下期 一、〇〇〇
【業績】	利益金利益率配當率 一五年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一五年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇
【資産負債】	一五年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一五年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇
【流動資産】	一、〇〇〇 一、〇〇〇

【機械製作業】

【事業】	自轉車、發動機部品及機械器具
【資本金】	公稱 一三〇、〇〇〇
【株數】	拂込済 九、五〇〇
【役員】	社長 新三三〇 専務 新三三〇 副専務 新三三〇 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇 船橋次郎 常務 新三三〇
【業務】	新三三〇
【大株主】	十六年上期 九〇名 古河電氣工業 三、八〇〇 岡本 三、二〇〇 一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【資産負債】	一五年上期 一、一七二 七、九〇九 一五年下期 一、一七二 七、九〇九 一六年上期 一、一七二 七、九〇九 一六年下期 一、一七二 七、九〇九
【流動資産】	一、一七二 一、一七二

【事業】	各種ボール、ローラ
【資本金】	公稱 一〇〇、〇〇〇
【株數】	拂込済 一〇〇、〇〇〇
【役員】	社長 池田善一郎 専務 池田善一郎 副専務 池田善一郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎 船橋次郎 常務 池田善一郎
【業務】	池田善一郎
【大株主】	十六年下期 二八〇名 北田興業 一、〇〇〇 一五年下期 一、〇〇〇 一五年上期 一、〇〇〇 一六年上期 一、〇〇〇 一六年下期 一、〇〇〇
【業績】	利益金利益率配當率 一五年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一五年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇
【資産負債】	一五年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一五年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年上期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇 一六年下期 一、〇〇〇 一・〇 〇・〇
【流動資産】	一、〇〇〇 一、〇〇〇

【機械製作業】

日本タイプライター

【設立】大正六年五月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ二(電京橋四三六一番)

【業績】十六年十月期の収入合計は一千七萬圓で四月期に比し九十六萬圓増となつたが、支出も九十三萬圓方増高したので、結局利益金は對前期二萬八千圓の微増に過ぎぬ。而も拂込金の増大から、利益率は逆に四分方低下した。配當は經理令に依り一割となる。

【前途】當社の主要製品たるタイプライターは、特、官需に六割八分、殘餘の民需も殆ど國策會社に向けられ、資材的に惠まれてゐる。子會社も日本航空兵機を始め、すべて時局産業として繁忙を呈してゐるから業績もこれ以上低下の懸念はない。

【事業】タイプライター、印刷機械、鑄造機、工
【資本】拂込済 一五、〇〇〇
【株數】(五〇〇) 櫻井兵五郎
【役員】社長 櫻井兵五郎
副社長 櫻井兵五郎
取締役 櫻井兵五郎
監査 櫻井兵五郎
深江 櫻井兵五郎

【大株主】十六年上、三名
【業】北村 生命業 五〇、〇〇〇
野村 生命業 三〇、〇〇〇
【業】北村 生命業 三〇、〇〇〇
野村 生命業 三〇、〇〇〇
【業】北村 生命業 三〇、〇〇〇
野村 生命業 三〇、〇〇〇
【業】北村 生命業 三〇、〇〇〇
野村 生命業 三〇、〇〇〇

ワシノ製機

【設立】昭和十二年三月
【決算期】五月 十一月

(本社) 名古屋市中區岩井通三ノ一九(電南三三二七番)
(支社) 東京市京橋區銀座八ノ三(電銀座三三三三番)

【増資問題】十六年八月に未拂込金の徴収を完了して資本金全額拂込となつた。然し第二次計畫たる今村、名古屋兩工場の擴張を遂行する爲には、今後相當多額の資金を必要とする。再増資が問題とされる。

【業績】十六年下期の成績は未發表だが、第一次擴張分の本格的稼働に依つて、上期に比し二、三割方の増収が見込まれる。従つて資本負擔の加重はあつても前期程度の収益率は間違ひあるまい。今後新製品の製作に重點を置くことは經營上相當危険を伴ふが、手堅い經營を行つてゐる當社のこと故不安はなからう。

【事業】工作機、ゲージ、精密工具、電鍍機、特殊鋼
【資本】拂込済 三〇、〇〇〇
【株數】(五〇〇) 野野井八介
【役員】社長 野野井八介
副社長 野野井八介
取締役 野野井八介
監査 野野井八介
木英作 野野井八介

【大株主】十六年上、四名
【業】野野井八介 二、〇〇〇
野野井八介 二、〇〇〇
野野井八介 二、〇〇〇
野野井八介 二、〇〇〇
【業】野野井八介 二、〇〇〇
野野井八介 二、〇〇〇
【業】野野井八介 二、〇〇〇
野野井八介 二、〇〇〇

【機械製作業】

豊國機械工業

【設立】昭和十三年三月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪市西區北堀江御池通四ノ二(電新町四三三)

【當面難況】十六年上期、七分配當から一舉無配に轉落して以來、當社は經營機構の大改造を行ひ、専ら内容の充實に注力してゐる。然し何分にも事業は下請仕事が多く、急膨脹の割に作業能率が擧らず、と云つて高性能度の工作機生産に技術水準を引上げることが急速には出來ぬ。こゝに汎用工作機メーカーとして育つた當社の悩みは大きい。十六年十一月期の成績は未だ明らかでないが、大した期待は持てぬ。當分は苦難時代を迎へるものと見なければならず、復配は急激に望み得ない。

【資本】公稱 三〇、〇〇〇
【株數】(五〇〇) 櫻井兵五郎
【役員】社長 櫻井兵五郎
副社長 櫻井兵五郎
取締役 櫻井兵五郎
監査 櫻井兵五郎
三郎 櫻井兵五郎

【大株主】十六年上、四名
【業】岸本 兵衛 二、〇〇〇
三益 工業 二、〇〇〇
【業】岸本 兵衛 二、〇〇〇
三益 工業 二、〇〇〇
【業】岸本 兵衛 二、〇〇〇
三益 工業 二、〇〇〇

津田駒工業

【設立】昭和十四年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 金澤市野町驛前(電番三三三三番)
(出張所) 東京市神田區淡路町一ノ二(電神田三三三三番)

【意味】當社は創立以來、日未だ淺いが、高度精密機械の製作に優れた特殊技術を有することゝ、資産内容の堅實である點が強味だ。十六年十一月決算の詳細は判明しないが、前期の利益金二十一萬圓、利益率二割一分に優る成績が期待される。現行七分配當に對し一分程度の増配は無難可能だが、此の際自重して据置策を執るものと思はれる。

【擴張】目下實施中の精密機工場第二期擴張は大半完了し、續いて第三期の擴張工事が計畫されてゐる。資金は借入金で賄ひ、未拂込徴収はまだ先にならう。

【事業】精密機械及鐵機
【資本】公稱 三〇、〇〇〇
【株數】(五〇〇) 津田駒次郎
【役員】社長 津田駒次郎
副社長 津田駒次郎
取締役 津田駒次郎
監査 津田駒次郎
久保田可全 津田駒次郎

【工場所在地】本社工場
【大株主】十六年上、四名
【業】津田駒次郎 二、〇〇〇
津田駒次郎 二、〇〇〇
津田駒次郎 二、〇〇〇
津田駒次郎 二、〇〇〇
【業】津田駒次郎 二、〇〇〇
津田駒次郎 二、〇〇〇

【肥料事業】

日本窒素肥料

【設立】明治三十九年一月

【本社】大阪市北區京橋一丁目一ノ二日産館(電話三三〇一)

【事務所】東京市麹町區内幸町一丁目日産館(電話七五六一)

【株價低迷】株價不冴えは一般的な現象だが、それにしては、業績、内容等凡ゆる點から見ても一流株としての實力を有つ當社株は比較的割安だ。理由としては、第一に拂込を好まぬ氣分と減配を懸念して居る點が考へられるが、實際問題としては株數の増加、就中當社株に浮動性が多いと云ふ點は輕視し難いであらう。野口社長は、朝鮮總督府獎學資金五百萬圓、野口研究所へ二千萬圓、主として同氏名儀の日窒株式で寄附した。このため、同氏名儀の日窒株式(寄附した分とは別に)を處分して借入金返済し、其の残りを寄附すると云ふ形をとるわけだが、處分すると云つても有力保險會社筋へ納めて居るから、市場に現はれるものは大したことで無い。

【實力の再確認】斯様なわけで、當面、株價は不冴えだが、當社の業績内容共に優秀であることに變りはない。臨戦下に於て超重點會社として今尙ほ擴充を續けて居るが、そこには凡そ危な氣が感ぜられない。十六年十一月期の一割配當は不動と斷じてよく、優良資産株として推奨するに躊躇しない。

Table with financial data for Japanese Nitrogen Fertilizer, including columns for assets, liabilities, and income.

【肥料事業】

日産化學工業

【設立】昭和九年七月

【本社】東京市芝區田村町一ノ二日産館(電話三三〇一)

【支社】大阪市東區高麗橋四第一銀行ビル(電話三三〇一)

【農業部門】當社の事業は炭業と化學の二部門に分れるが、目下の擴充主力は炭業に置かれてゐる。その中心高松炭礦は第三礦の開坑も済み、第一、第二、第三並に三島斜坑を通して大規模な施設が進められてゐるのである。十八年迄に尙六千萬圓以上を要するが、完了の曉には日産〇噸の出炭が可能となり、採炭から船積迄の合理化經營に資する所亦頗る多い。

【化學部門】炭業に比べると化學部門は、過磷酸に於ける燐礦石、曹達に於ける原料鹽、酸類に於ける硫化鐵等々と、原料に制約されて業態は伸張難を見る。北支方面への進出も尙準備時代に屬し、計畫中の有機合成工業の創設も時日を要する。たゞ富山工場の新設は、特別に資材配給を受けて、その完成を急ぐ模様である。

【収益配當】十六年下期は、借入金返済の爲九月に千五百六十萬圓の拂込を徴収した關係で、利益率不冴を懸念される、當局者は上期並みの成績には漕ぎつけ得ると云ふも、記者は、拂込の關係もあらうが、大局上の考慮から減配を斷行した方がよいと思ふ。

Table with financial data for Nippon Chemical Industry, including columns for assets, liabilities, and income.

肥料事業

滿洲化學工業

【設立】昭和八年五月
【決算期】三月 九月

(本社) 大連市郊外甘井子(電大連九二)
(営業所) 東京市麹町區丸の内(電丸ノ内三三三)

【配當維持】 當社は水不足から十五年上期無配に
顛落し、その後も石炭入手難から漸く五分配當を行つ
て居る居る有様だ。而も滿鐵株には無配とし、専ら
償却に勉めてゐる云はゞ隱忍期だ。問題は全く原料炭
の如何に懸つてゐるが、その點前期より好事情にある。
又、硝安、硝酸その他副産も増加したので、十六年九
月期の利益増加は見込める。配當は繼續されよう。
【徐々に好轉か】 滿洲の石炭事情も統制整備に依り
最悪期を脱し、十七年秋には硝安の生産は倍近くなる。
徐々に好轉に向つてゐるものと見い支障り無からう。

【事業】 硝安其他各種肥料
及化學工業品の製造賣買
【資本金】 拂込済 二五、〇〇〇
【株數】 (五〇) 五〇、〇〇〇
【役員】 社長 貝瀬謙吾
常務 堀義雄 黒川秀孝
取締役 奥村政雄 田村幸三
千石興太郎 相生三郎
監査 中村孝次郎 他二名
【大株主】 十五年下 一、五〇〇名
全南滿洲鐵道 二七、〇〇〇
購 五〇、〇〇〇

【金融關係】 興銀、朝鮮銀行
【事業成績】 (千圓)
【業】 原價並諸掛入 八、〇八一 六、二二五
【業】 利益金利益率配當率
【業】 一五年上 一、〇〇〇 〇・六六 無配
【業】 一五年下 一、〇〇〇 〇・六六 無配
【業】 一五年中 一、〇〇〇 〇・六六 無配
【業】 一六年上 一、〇〇〇 〇・六六 無配
【業】 一六年下 一、〇〇〇 〇・六六 無配
【業】 一六年中 一、〇〇〇 〇・六六 無配

朝日化學肥料

【設立】昭和十年八月
【決算期】四月 十月

(本社) 兵庫県尼崎市東初島町二七(電尼崎三三二)
(出張所) 東京市芝區田村町二番(電銀座七七一)

【回復困難】 當社の業態は、その後漸く改まるか
にみられたが、依然として展開が困難の様である。肥
料部門にあつては、原料たる硫安、磷礦石、石炭等の
入手が思ふやうに行かないのと、鑛山部門にあつては
努力資材の不足に悩んでゐるからだ。當面現状の打開
は望み薄とみなければならぬだらう。
【前途】 肥料界の統合も近く具體化されるだらう
その場合に當社が獨立單位として残るか、どうかは疑
問である。生産規模は比較的大きい方だから、或は残
るかも知れない。

【事業】 過磷酸、配合肥料、
化成肥料、硫酸、磷礦石
【資本金】 拂込済 八、〇〇〇
【株數】 (五〇) 二〇、〇〇〇
【役員】 社長 奥村政太郎
常務 佐古田政太郎 波多
野林一 佐古田義一 波多
孫四郎 監査 森岡善照 波多
三浦調六 森岡善照 波多
【金融關係】 三井、安田、住友、
三和の諸銀行
【工場】 兵庫縣尼崎市

【大株主】 十六年上 一、〇五名
佐古田政太郎 三、〇〇〇
【業】 利益金利益率配當率
【業】 一五年上 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一五年下 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一五年中 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年上 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年下 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年中 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇

日東化學工業

【設立】昭和十二年八月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内昭和ビル(電丸ノ内五七)

【硫酸部】 當社の事業は、硫安、硫酸、アル
ミナ、化成肥料の四部門に分れる。うちアルミナ、化
成肥料は未だ本格的操業段階にない。が硫安と硫酸は
大體順調な操業を續け、フルに近い生産を示した。之
に今春合併した大成肥料(東京工場)が貢献したので、
十六年下期も上期と大同小異の業績を挙げ得た様だ。
即ち利益率一割前後で、配當五分は据置だ。
【前途】 當社の今後を決定するものは、アルミナ
と化成肥料の成功如何にある。後つて當分低率配當に
甘んじ、右部門の育成に努めることにならう。

【事業】 アルミナ、硫安、各
種肥料、各種化學工業品
【資本金】 公稱 一〇、〇〇〇
【株數】 (五〇) 一〇、〇〇〇
【役員】 社長 藤山愛一郎
常務 永井清次 中上川勇
五郎 取締役 金澤多三郎
山孝之輔 鹿地佑吉 赤司
初太郎 山下太郎 渡邊基
吉 監査 名取和作 藤山九
一 中村房次郎 西原雄次郎

【金融關係】 大日本製糖
【大株主】 十六年上 七、七二名
大日本製糖 一三、〇〇〇
藤山愛一郎 一三、〇〇〇
【業】 利益金利益率配當率
【業】 一五年上 一、〇〇〇 〇・三〇 未配
【業】 一五年下 一、〇〇〇 〇・三〇 未配
【業】 一五年中 一、〇〇〇 〇・三〇 未配
【業】 一六年上 一、〇〇〇 〇・三〇 未配
【業】 一六年下 一、〇〇〇 〇・三〇 未配
【業】 一六年中 一、〇〇〇 〇・三〇 未配

肥料事業

帝國人造肥料

【設立】大正八年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪市大正區船町一〇(電泉尾四四)

【拂込額】 當社は十六年十二月一日、新株一株
に付十二圓半總額百二十五萬五千圓の拂込をとつた。こ
の拂込金は岡山工場の建設費の一部に充當せられる。
同工場は人造水晶石の製造を行ふもので、工場の一部
は既に操業を始めてゐる。
【前途】 當社は時局以來化學藥品部門に重點を切
替へて、専ら前記の岡山工場の完成に努力して來た。
岡山工場が全運轉となれば、水晶石は我が國の六割近
くを供給する事になり、その重要性はかなり高まる。
八分配當は續けられる見込みだ。

【事業】 硫酸過磷酸各種肥料
【資本金】 公稱 八、〇〇〇
【株數】 (五〇) 七、〇〇〇
【役員】 社長 白石元治郎
常務 中野野夫 牧野
川一郎 取締役 井上幸一郎
鐵二郎 監査 野村、安田、第百、
白石、三和銀行

【大株主】 十六年上 一、七九名
中山 岩 五、〇〇〇
【業】 利益金利益率配當率
【業】 一五年上 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一五年下 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一五年中 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年上 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年下 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇
【業】 一六年中 一、〇〇〇 〇・二〇 〇・三〇

曹達工業

東洋曹達工業 設立昭和十年二月 決算期六月 十二月

【弱體化す】 當社はア法曹達會社としては最も新進で前途を期待されたが、その後の情勢は急變し、累年深まる原料鹽入手難の爲めに成績は低下した。此の間、當社は無理な配當を續けて來たので、最近の内容はかなり悪くなつてゐる。原料關係で設備の大半は遊んでをり、企業體は一時に比べると可なり弱體化してゐる。再減配は不可避である。

【前途】 曹達事業にも再編成が問題となつてゐる即ち再編成が具體化の場合、當社は内容、設備の點から見て、相當不利な立場に立つ様に思はれる。

徳山曹達 設立大正七年二月 決算期四月 十月

【業況不味】 當社はア法曹達會社としての歴史は古くその設備は相當に大きい。然し時局以來の原料鹽不足は愈々深刻であり、爲めに操業率は低下の一路を辿つてゐる。副産物の處理を擴大して、本業不振をカバーしつゝあるけれども、全面的不振は免れない。かかる環境では、再減配となるかも知れない。

【前途】 斯業の整理統合はどの道不可能と思はれる。當社は重點會社とみてよいかから、その場合は獨立單位となるだらう。統合後に於いても、原料關係が緩和されざる限り經營は樂にならぬだらう。

保土谷化學工業

設立大正五年三月 決算期四月 十月

【十月期業績】 特需品製造に轉換成つて、原鹽難の影響は同業他社に比して尠い。と云つて無論、輸送關係、勞力その他の資材難に依る制約を當社として免れ得ようもなかつたが、大體に於て十六年十月期業績は上期並と見越して差支へない。且つ資産内容も良いから、配當九分も恐らく据置かれよう。

【増資延びる】 擴張中の郡山工場は、十六年内第一期工事を終る。引續き第二期工事に入る筈だが、之が爲め、豫て倍額増資が企まれてゐた。然し證券界の不勢に鑑み當分延期、十七年の懸案となつた。

【事業】 苛性曹達、晒粉、合成鹽、染料、鹽化物其他

曹達工業

旭電化工業 設立大正六年一月 決算期五月 十一月

【經營轉換】 尾久工場や子會社關東電化を通じて當社は従前よりマグネシウム製造に注力してゐたが、更に既報の如く臺灣高雄工場の完成に依つて、經營重點の斯業轉換を鮮明にした。一項マグネは供給過剩を憂へられたが、時局進展に伴ひ最近は逆に需要に迫られてゐる。當社だけの現象としても、兎も角右の經營轉換は、一應成功だつたと云へよう。

【業況】 マグネ事業の好轉で、曹達、油脂部門の不調を補ひ、十六年下期の業績は上期並を見越せる。たゞ配當が問題だが、經營者は据置く意欲の様だ。

【事業】 曹達、油脂、石鹼、人造バク、華ヘルブ

【曹達工業】

九州曹達

【設立】昭和十年五月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區大手町二ノ八(電丸ノ内三三―五)

【無配繼續】 既報の様に當社の中心事業曹達部門は旭硝子に委任經營されることとなり、十六年八月から實施された。従つて十六年下期に於いて旭硝子から支拂はれる原鹽使用料は、八月から十一月迄で大約十五萬圓程度と思はれる。従前當社の曹達部門は操業即ち赤字だつたのだから、それが兎も角黒字に還つただけでも、委任經營は一應成功だつたと云へよう。だがさうとしても、十六年上期決算は約四十萬圓からの赤字で無配に顛落した程だ。下期は結局この赤字をどの程度迄埋め得るかに懸り、無論、無配は繼續される。

【事業】曹達灰、苛性曹達、
【資本金】公稱 三、〇〇〇
株數 新(五〇〇) 三、〇〇〇
舊(五〇〇) 三、〇〇〇
【役員】社長 出弟二郎
常務 上田一誠 出弟二郎
監査 中山悦治 田中東馬
中野義雄 明部誠造

【大株主】十六年上 三、五九名
日木曹達 一六、二〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 三、〇〇〇 〇・〇〇
一五年下 三、〇〇〇 〇・〇〇
一六年上 三、〇〇〇 〇・〇〇
一六年下 三、〇〇〇 〇・〇〇
【株價】(實物)舊 新
一五年中 六、五〇 一三、八二
一六年中 六、五〇 一三、八二
【金融關係】第一銀行

北海曹達

【設立】大正七年四月
【決算期】三月 九月

(本社) 東京市日本橋區室町三丁目三井ビル(電日本橋三三一―七)

【業績微落】 十六年九月份業績は、執筆中未だ詳かでないが、償却控除後の純益金で約三十萬圓と押へられる。この純益率は一割三分三厘に當り、夫々上期に較べ微落となる。内容の良い當社のことだから、九分配當措置に支障はないが、決算は稍や裕り薄となつた。成績低下の主因は、原鹽難で特需用に對してすらその割當が少々しからず、生産高が伸びなかつた爲めである。

【前途横這ひ】 原鹽の割當量如何で一伸一退しよすが、業績は當分横這ひを免れない。

【資本金】公稱 六、〇〇〇
株數 新(五〇〇) 六、〇〇〇
舊(五〇〇) 六、〇〇〇
【役員】社長 在取和作
常務 坂本敏彦 在取和作
監査 岸本敏彦 吉岡美雄
安三郎 岸本敏彦 吉岡美雄
大株主 十六年上 五、八〇
三井 十六年上 五、八〇
東洋 十六年上 五、八〇

【事業】苛性曹達、晒粉、合
成鹽酸、硝化アムモニア
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 三、〇〇〇 〇・〇〇
一五年下 三、〇〇〇 〇・〇〇
一六年上 三、〇〇〇 〇・〇〇
一六年下 三、〇〇〇 〇・〇〇
【株價】(實物)舊 新
一五年中 六、六八 一三、五三
一六年中 六、六八 一三、五三
【金融關係】三井銀行

【曹達工業】

大阪曹達

【設立】大正四年十月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪市西區南通一ノ二九(電新町二二七)

【業況】 當社は電解法の會社だが、此の方法だと時局下に不可欠の副産物を産出するので、原料鹽の割當はア法會社より幾分有利となつてゐる。殊に當社は古い歴史を持ち、実績があるから操業率は大して悪くない。けれども時局前に比べれば無論低下してゐる。

【内容】 當社は嘗ての不況期に思切つた資産の評價切下げを斷行した。その後は専ら内容充實に努めて來たので最近の内容は非常な充實振りとなつてゐる。一割八分(特配一割)と云ふ高配當が續けられてゐるのも、結局内容の優秀に基くものと思はれる。

【資本金】公稱 二、〇〇〇
株數 新(五〇〇) 二、〇〇〇
舊(五〇〇) 二、〇〇〇
【役員】社長 尼崎伊三郎
常務 矢野寛 取締 伊三郎
監査 三木 尼崎康定
大株主 十六年上 二、〇〇〇
田村花子 二、〇〇〇
尼崎汽船部 二、〇〇〇
尼崎伊三郎 二、〇〇〇

【事業】苛性曹達、晒粉、鹽
酸、液體鹽素、漂白液
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 七、八五 〇・〇七
一五年下 七、八五 〇・〇七
一六年上 七、八五 〇・〇七
一六年下 七、八五 〇・〇七
【株價】(實物)舊 新
一五年中 一、一五 二、一五
一六年中 一、一五 二、一五
【金融關係】三井銀行

昭和曹達

【設立】昭和三年十二月
【決算期】四月 十月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ六

【原鹽難】 當社は電解法による爲、ア法會社程原鹽入手に困難を感じてゐないが、無影響ではない。當社の十六年十月期決算は未だ判明しないが、恐らく前期に比し若干の業績低下を免れまい。但し一割程度の配當に不安はない。

【合併問題】 原鹽難に加へて鹽素製品公價が低位に決定される模様で、電解會社の企業整備が問題化して來たが、當社も國策二社と合併に決定したやうだ。即ち同じ電解法による鶴見、四國曹達を當社が吸収合併する。比率は一對一。時期は十七年二、三月頃か。

【事業】苛性曹達、晒粉、合
成鹽酸、硝化アムモニア
【資本金】公稱 三、〇〇〇
株數 新(五〇〇) 三、〇〇〇
舊(五〇〇) 三、〇〇〇
【役員】社長 藤田吉正
常務 久留島通彦 藤田吉正
監査 中野 荒川實之丞
大株主 十六年上 三、〇〇〇名

【業績】利益金利益率配當率
一五年上 四、〇〇〇 〇・〇〇
一五年下 四、〇〇〇 〇・〇〇
一六年上 四、〇〇〇 〇・〇〇
一六年下 四、〇〇〇 〇・〇〇
【株價】(實物)舊 新
一五年中 一、〇〇 二、〇〇
一六年中 一、〇〇 二、〇〇
【金融關係】三井銀行

日本油脂

【設立】大正十四年四月
【決算期】五月十一月

(本社) 東京市芝區田村町一ノ二日産館内(電報掛七二一七)

【資本膨脹急】 當社の積極經營は夙に定評ある處だが、一面それが爲めの資本膨脹も急激だ。十六年下期に入つてからも六月一日の新株拂込に續いて七月一日には新潟人絹、日本石鹼を合併した。依つて現在資本金は六千七百萬圓、拂込資本金は五千二百三十五萬圓に上つてゐる。他方借入金も上期末に於いて約五千萬圓の巨額に達し、明かに借入金過多の傾向にある。無論、經營當局者も之が是正を意圖し、去る九月十六日の第二回い號社債の公募もそれが現れである。だが擴張途上の郡山工場を抱へてゐる際でもあり、今後も一層この金融方面への配慮を必要としよう。

【下期減配せず】 業績は、斯様な擴張過渡期の資本負擔の壓迫で兎角伸び悩んでゐる。一部では十六年下期に減配説を唱へる向きもあるやうだ。だが、右下期に關する限り、成績實體は良好だし現行九分配當は恐らく据置とならう。經營者の言に依れば、合併による新潟人絹、日本石鹼の稼働分を加へて當期の總賣上高は六千萬圓近いと云ふ。内輪に押へてもその利益金は五百二、三十萬圓、利益率二割臺となるからだ。

【事業】 肥料、油、石鹼、魚油、燐、接骨、人造纖維、肥料、油、石鹼、魚油、燐

株主名	株数	金額
肥後	100,000	10,000,000
大株主	1,000,000	100,000,000
株主名	株数	金額
石鹼	100,000	10,000,000
新潟	100,000	10,000,000

【資産負債】 十五年 十六年

項目	十五年	十六年
株主資本	100,000,000	150,000,000
借入金	50,000,000	80,000,000
流動資産	30,000,000	40,000,000
固定資産	20,000,000	30,000,000

日本火薬製造

【設立】大正五年六月
【決算期】五月十一月

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル(電報掛一五五七)

【朝火株の公開】 二年越しの懸案だつた當社の朝鮮火薬株公開は、この程愈々具體化の運びとなつた。朝鮮火薬の株式は新舊共全部親日本火薬が保有してゐる親日火は、之が自社株主への配當を企圖し、その保有株二十萬株の内約三の二の公開を當局に認可申請中だつたが、十六年十月十六日附を以て認可された。残る處は何時、何株を、幾らの價格で株主に分譲するかと云ふ内部的な問題のみとなつた。その具體的な點に就ては、經營當局者自身未だ決定してゐない様だ。記者の豫想では、遅くも來春頃迄に、親日火二株に對し朝火一株の割合で割當られよう。一株の分譲價格は額面となる模様だ。

【割當の影響】 朝火の配當は現在六分だが、早晩八分程度迄の増配は期待してよい。従つて日火の朝火株割當は、當面興味薄乍ら、前途が樂しめる。
【配當据置か】 二期續いて減配した後なので、十六年下期も一應不安視されようが、近く公價引上げも豫見されてをり、成績上は固より經理令からも、一割六分配當は恐らく据置とならう。

【化學工業】

【株主名】 十五年 十六年

株主名	株数	金額
大株主	1,000,000	100,000,000
株主名	株数	金額
石鹼	100,000	10,000,000
新潟	100,000	10,000,000

【資産負債】 十五年 十六年

項目	十五年	十六年
株主資本	100,000,000	150,000,000
借入金	50,000,000	80,000,000
流動資産	30,000,000	40,000,000
固定資産	20,000,000	30,000,000

【化學工業】

日本化成工業

【設立】昭和九年八月
【決算期】一月 七月

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ四(電丸ノ内三三—〇)

【業績】當社の七月締切十六年上期の配當は、一分増配の八分を期待した向もあつたやうだが、七分を据置かれた。大體業績は前期並で、純益金では八萬圓の増益だが、他方平均拂込の増加から利益率では一割一分一厘と前期と變りなかつた。之で七分配當だから社内保留率は三四%九に過ぎず、この限り決算は一見餘裕薄である。然しそれは表面のこと、當社の償却は從來から相當徹底して行はれてゐる。償却前の當期利益金は恐らく五百五十餘萬圓と豫想され、その利益率は二割四分五厘となる。決算は充分裕り含みだ。

【興味津々】發展過程に立つ當社の今後には興味津々たるものがある。目下管々工場建設中の合成ゴム工業を筆頭に、藥品工業と結びつくべき電解曹達事業があり、更に去る九月には朝鮮化學工業並に新興製業工業との合併を内定した。何れも將來を注目される好材料で、他に某方面に關聯した大事業も起工中だ。

【拂込迫る】斯様に當社事業は發展過程にあり、其處に次の増資も氣構へられてゐる。差詰めその前提として最終拂込が近く徴収される筈だ。

Table with financial data for Nippon Kasei Kaisha, Ltd. including columns for '事業' (Business), '株数' (Shares), '資本' (Capital), and '負債' (Liabilities).

Table with financial data for Nippon Kasei Kaisha, Ltd. including columns for '株主' (Shareholders), '負債' (Liabilities), and '株價' (Share Price).

日本染料製造

【設立】大正五年二月
【決算期】六月 十二月

(本社) 大阪市此花區春出町二七八(電此花三三—七)

【業界不味】當社の業績は最近低下を辿つて來て居る。合成染料の主原料たるベンゾール、トルオール等が、高級燃料、爆薬等の軍需品製造用として擧げて其の方に向けられる現在、染料の減産は當然である。今後も尙ほ業績低下は免かれぬであらう。

巷間、住友化學との合併が傳へられるのも、同社が日染の大株主であり、且つ從來原料を供給して居つた關係からだ、目下の處、具體化はしてゐない様だ。

【減配懸念】當社は十六年上期に二分減配を行つたが、再減配懸念は依然として消えない。斯うは云つても、この下期と云ふのでは無い。上期の利益率は低下したとは云へ、尙ほ三割臺を示して居るし、下期の急低下は考へられない。資産内容は極めて優秀だし、再減配するにしても十七年の問題だ。

【將來への期待】永い目で見れば當社の前途は洋々たるものだ。時局後の製鐵業の目ざましい擴充は、戦後に於ける合成染料の原料の豊富を約束する。歐洲列強の生産力破壊は大きいし、東亞共榮圏内には斯業の勃興は見られまい。將來の發展は充分期待出来る。

【化學工業】

Table with financial data for Nippon Shikoku Chemicals, Ltd. including columns for '事業' (Business), '株数' (Shares), '資本' (Capital), and '負債' (Liabilities).

Table with financial data for Nippon Shikoku Chemicals, Ltd. including columns for '株主' (Shareholders), '負債' (Liabilities), and '株價' (Share Price).

大日本セルロイド

【設立】大正八年九月
 【決算期】五月十一月
 (本社)大阪府堺市七道西町二一七(電戎美八〇一四)
 (事務所)東京市日本橋區通一ノ二(電分ビル)(電日本橋美六〇)

【堅實な擴充】 當社は時局以來、擴充を續けて來たが、今尙ほ中止されたわけでは無い。斯うは云つても當社の場合、それは堅實一點張り、文字通り着々と進められた。例へば、十二年上期の公稱資本金二千萬圓、拂込一千二百五十萬圓は、十四年八月に二十萬圓全額拂込済となつたまゝだ。使用總資本も同期の二千六百萬圓から、十六年五月末四千八百萬圓になつたが、これも二倍に満たない。時局以來の擴充資金は二千三、五百萬圓ほどで、それは拂込金と利益の社内保留と借入金で賄つて來たわけだ。

【有機合成化學工業】 斯様に膨脹が急でないのは、單なる堅實政策と云ふ以外に、當社が進出しつゝある有機合成化學工業が、技術的に、資材的に、急速な擴充を阻止したと云ふ理由もある。然し、何れにしても既にスタートは切られたのだし、今後の擴充は必至だ。

【見透】 所要資金は、當面、社債發行か、借入金で賄ふ餘地が多分にあるから、増資も遅れよう。セルロイド業界は輸出不振で不冴えだが、代用品として内需は旺盛だ。資産内容は優秀だし現行配當は動くまい。

事業	株主数	資本金	負債	利益
製成品	1,000	2,000	1,000	1,000
セルロイド	1,000	2,000	1,000	1,000
工業用機械	1,000	2,000	1,000	1,000
その他	1,000	2,000	1,000	1,000

項目	十五年	十六年
株主資本	1,000	1,000
外債	1,000	1,000
使用資本	1,000	1,000
流動資産	1,000	1,000
現金	1,000	1,000
手預金	1,000	1,000
現預金	1,000	1,000
流動負債	1,000	1,000
短期借入金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000

鐵興社

【設立】昭和三年十月
 【決算期】五月十一月
 (本社)東京市京橋區京橋三ノ四ノ八(電京橋二〇二)

【當社事業と満庵】 當社の事業は可成り多方面に及ぶが、大別すると次の四部門となる。第一が満庵、第二が合金鐵、第三がカーバイド及び鹽を原料とする化學工業、第四が電力だ。このうち收益の上に最も大きい比重を占めるのは第一の満庵部門で、この部門の活躍は事變後の滿庵鐵輸入杜絶の中にあつて、當社のみならず國家的にも相當の役割を果してゐる。

【第二工場所選定】 その滿庵鐵山と云ふのは、既に知られる如く、北海道の稻倉石鐵山のことだ。最近増産が顯著に進捗したのと、浮游選鐵による貧鐵處理法が新らしく發見されたのとで、今後この部門より相當の増益を擧げ得る事情にあることは確だし、事實、これに期待を掛けてよいだらう。従つて、十一月末締切りの十六年下期、更に十七年上期の業績は滿庵部門の増益から、化學藥品部門の不調を補つて、尙幾分増益する見込みである。それに立谷澤第二發電所が愈々近く運轉開始することも、見逃してならぬ材料だ。

【配當】 かゝる環境から窺へる如く、當社の現行八分五厘配當の持續は、今後心配は無い。

事業	株主数	資本金	負債	利益
製成品	1,000	2,000	1,000	1,000
セルロイド	1,000	2,000	1,000	1,000
工業用機械	1,000	2,000	1,000	1,000
その他	1,000	2,000	1,000	1,000

項目	十五年	十六年
株主資本	1,000	1,000
外債	1,000	1,000
使用資本	1,000	1,000
流動資産	1,000	1,000
現金	1,000	1,000
手預金	1,000	1,000
現預金	1,000	1,000
流動負債	1,000	1,000
短期借入金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000
未払金	1,000	1,000

【化學工業】

日本理化工業

【設立】大正七年七月
【決算期】五月 十一月

【本社】東京市京橋區銀座三ノ三(電氣橋六八一六)
【支社】大阪市東區今橋三ノ一五(電北橋三七一七)

【拂込徴収】資金認可の關係で十六年春以來延期となつてゐた當社の新株第二回拂込は、十二月一日漸く徴收實現を見た。一株に付き十五圓、總額九十萬圓である。新資金の用途は無論、工事中の玉川工場新設費である。玉川工場の第一期工事は、大體十六年内完成、十七年夏迄には本格的操業の豫定。

【業績】十六年上期回復なつた主業酸素部門は、下期愈々好調に終始した。だが、玉川工場が完全操業となる迄は、當社の業績に多くを期待するは無理だ。今下期の利益率も矢張り二割臺で、一割配當は据置。

【事業】	酸素、理化學機械、化學藥品
【資本】	公稱 九、〇〇〇 拂込 七、七〇〇
【株數】	新(五〇〇) 110,000 舊(五〇〇) 60,000
【重役】	社長 高橋直行 常務 高橋直行 高橋是賢 三島武彦 山下太助 取田山 口島野二 長谷川辰男 藤好 南野生 監査 藤崎三 船助 子安平司 河路寅三
【大株主】	十六年上期 六六名
【安田保善社】	二八、〇〇〇
【業績】	利益率 配當率 一五年上 七三・三 三三・一 一五年下 七三・三 三三・一 一六年上 七三・三 三三・一 一六年下 七三・三 三三・一
【株價】	實物(舊) 新 一五年中 六・五五 五・八〇 一六年 五・五五 五・八〇 十月 五・五五 五・八〇

日本硫黃

【設立】明治四十年四月
【決算期】六月 十二月

【本社】東京市麹町區丸ノ内一ノ六(電丸ノ内三六)

【再び期待薄】十六年下期は硫黃も二硫化炭素も價格の改訂を見たので、需要狀勢が従來通りとすれば成績の向上が相當期待された。だが硫黃は兎も角、人絹スフ界の現狀では二硫化が問題だ。餘り期待は懸けられなくなつた。たゞ遅れてゐた大榮金山が漸く完成に近づいたので、旁々一割配當は据置くらう。

【金山操業近し】大榮金山は十六年内操業開始の運びにある。之が未働資本の壓迫から逃れ得るだけでも當社としては一息つける。然し完成後果してどの程度まで業績に寄與するかは、尙ほ未だ注目がある。

【事業】	硫黃の採掘、精製加工及販賣
【資本】	公稱 五、〇〇〇 拂込 二、七〇〇
【株數】	新(五〇〇) 60,000 舊(五〇〇) 30,000
【重役】	社長 常務 富川七之助 取締役 西脇健治 石川一 二神 吉川 林政次 小野 太田 若米 地蔵 三山 田 崎友三 若米 地蔵 三山 田
【大株主】	十六年上期 五五名
【西脇健治】	八、八〇〇
【業績】	利益率 配當率 一五年上 三三・八 二二・二 一五年下 三三・八 二二・二 一六年上 三三・八 二二・二 一六年下 三三・八 二二・二
【株價】	實物(舊) 新 一五年中 六・五五 五・八〇 一六年 五・五五 五・八〇 十月 五・五五 五・八〇

東海電極製造

【設立】大正七年四月
【決算期】五月 十一月

【本社】東京市麹町區丸ノ内海上ビル内(電丸ノ内六八一六)
【出張所】大阪市北區中ノ島三ノ三朝日ビル内(電北三三三)

【需要激増】臨戦下の生産擴充の線に沿ふて、特殊鋼、輕金屬工業、食鹽電解工業等に缺くことの出來ぬ高級電極の需要は最近激増した。特殊熱處理關係で當社のエレマ製品の需要も急増した。其他製品亦然り。

【擴充計畫】百五十萬圓の資金使用認可を得て、先づエレマの増産計畫に着手。今度は特需向の要請に應へて人造黒鉛電極の大増産を計畫せねばならぬ。

【見透】擴張分が活動して來たから原料單價高をカバーして増益は確實。ピツチユーズや無煙炭、黒鉛等國產原料で賄へるのが強味。配當は据置可能。

【事業】	電極、電解板、電刷
【資本】	公稱 10,000 拂込 10,000
【株數】	新(五〇〇) 100,000 舊(五〇〇) 100,000
【重役】	社長 會長 寒川恒吉 取締役 寒川恒吉 寒川恒吉 三内敬次 取田山 常務 村上 藤崎 下出 藤崎 村上 武藏 中島 爲喜 永井 雅夫 武藏 中島 爲喜 永井 崎友三 森孝三 小早川 常雄
【大株主】	十六年上期 六二名
【業績】	利益率 配當率 一五年上 一七・七 四・五 一五年下 一七・七 四・五 一六年上 一七・七 四・五 一六年下 一七・七 四・五
【株價】	實物(高) 安値 一五年中 二四・〇 二〇・〇 一六年 二四・〇 二〇・〇 十月 二四・〇 二〇・〇

【化學工業】

日本カーボン

【設立】大正四年十二月
【決算期】五月 十一月

【本社】横濱市神奈川區神奈川通九丁目(電神奈川三三三)
【事務所】東京市麹町區丸ノ内有樂館(内電丸ノ内三三三)

【業績向上か】十六年上期の利益率は償却控除後で三割六分七厘となり、業績は意外に低調であつた。だが當期は、鶴見、富山の新增設工場が期を通じて本格的に働いた。償却を引去つて尙ほ四割近い利益率が期待される。この限り増配も可能で、當下期六厘引上げ一割一分配當となるかも知れない、たゞ増資氣構へ途上にあり、その點増配自重が妥當たらう。

【前途】時局下必須資材として、カーボン事業の國家的重要性は愈々認識を深められてゐる。多少の資材難は免れないまでも、業績は今後も好調を辿らう。

【事業】	電極、電刷子、炭素
【資本】	公稱 10,000 拂込 10,000
【株數】	新(五〇〇) 100,000 舊(五〇〇) 100,000
【重役】	社長 會長 近藤實二 取締役 石川等 大谷米太郎 社一 棚橋實五郎 佐野隆一 吉田 棚橋實五郎 中村房次郎 吉井 棚橋實五郎 中村房次郎 相談 井坂孝 中村房次郎 工場 横濱、東京、大阪他
【大株主】	十六年上期 一、三六名
【近藤實二】	二、〇〇〇
【業績】	利益率 配當率 一五年上 一七・七 四・五 一五年下 一七・七 四・五 一六年上 一七・七 四・五 一六年下 一七・七 四・五
【株價】	實物(高) 安値 一五年中 二四・〇 二〇・〇 一六年 二四・〇 二〇・〇 十月 二四・〇 二〇・〇

〔化學工業〕

日本電池

〔設立〕大正三年一月
〔決算期〕四月 十月

〔本社〕京都市上京區新町通今出川北(電話三三〇一七)
〔営業所〕京都市麴町區丸の内仲八號館(電丸ノ内三三〇一七)

〔完成近し〕 當社は蓄電池メーカーとしては、我が國最古にして且つ最大なものだ。時局以來、一般民需向けは漸次抑制されて来たが、特需向けは急増して居る。蓄電池と云へば、潜水艦、航空機等にとつても重要備品だが、其の特需用途はまだ、多方面に上る。當社が、十三年末以來、鋭意、西大路工場の完成に向つて邁進して来た意味は明白である。これも愈々明春には完成し、操業開始の運びとなる豫定だ。

〔業績不安無し〕 内容業績から押へて現行配當は据置。然し増資實現後は若干減配するかも知れぬ。

〔事業〕	各種蓄電池其他
〔資本金〕	拂込済 100,000
〔株数〕	100,000
〔役員〕	社長 島津源三郎 常務 山岡景範 今井捨吉 取締役 島津常三郎 内貴清 兵衛 河村勝 斯波孝四郎 大倉 一 松田 茂 正二 監査 島津源吉 門野 松 村 太郎 大倉直介
〔金融關係〕	三菱銀行
〔工場〕	京都市四ヶ所
〔株主〕	十六年上 四八名
〔業績〕	利益金 利率配當率 一五年上 一、四〇五・五三 一五年下 二、四九八・〇〇 一六年上 二、五三三・八三 一六年中 三、〇八三・〇五
〔株價〕	高値安値 高値安値 一五年中 三、〇八三・〇五 一六年中 三、〇八三・〇五

松下乾電池

〔設立〕昭和十年十二月
〔決算期〕四月 十月

〔本社〕大阪府北河内郡三郷町大字高瀬(電話川三三二一七)

〔擴充進捗〕 當社は、我が國最初の電解金屬マンガンの精錬に成功し、之を大々的に増産する爲め、目下四國の高松に新工場を建設中である。建設資金は十六年一月に百五十萬圓の増資を認可されたので、この拂込を充當する。工事は大略出来上り、十六年中には一部操業開始の見込みである。

〔前途〕 當社は、松下電器産業傘下の中で内容も良く、又事業も新分野の開拓で前途は有望となつて来た。近く第二回拂込を徴収するだらう。が新収益部門の活動が期待されるから、一割配當は繼續可能だ。

〔事業種目〕	乾電池、携帯電燈
〔資本金〕	公稱 六、五〇〇
〔株数〕	新(三五〇)
〔役員〕	社長 松下幸之助 専務 吉田幸太郎 常務 松本 謙 小松 盛 吉田 幸太郎 常務 松本 謙 山田 利雄 井植 謙 井植 謙 山田 利雄 井植 謙 井植 謙
〔金融關係〕	金庫、金庫、金庫
〔株主〕	十六年上 三五名
〔業績〕	利益金 利率配當率 一五年上 三、三三三・三三 一五年下 三、三三三・三三 一六年上 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三
〔株價〕	高値安値 高値安値 一五年中 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三

〔化學工業〕

大多喜天然瓦斯

〔設立〕大正六年五月
〔決算期〕五月 十一月

〔本社〕京都市京橋區銀座西六朝日ビル(電銀座三五一七)

〔業績〕 當社の主製品たる天然瓦斯は、重油、ガソリンに代る主要代用燃料として認められ、企業院邊りが中心となつて、當社事業の伸張に援助を與へつゝある。現にガソリンの消費規正から天然瓦斯の利用は益々高められた。斯様な需要部面の増加に對し、供給部面も亦その産出量は漸次増加傾向にある。

〔配當〕 右の様に、當社の環境が有利となつて来たにも拘らず、業績がその割に伸びないのは、資産内容に償却を要すべき勘定があるからだ。しかし、八分配當には漸次餘裕が生じよう。

〔事業〕	天然瓦斯、ガソリン
〔資本金〕	拂込済 10,000
〔株数〕	10,000
〔役員〕	社長 林 謙一 専務 手島 謙三 取締役 早川 久右エ門 藤野 淺 見 勇 岡 義次 岡 秀實 信 威 岡 義次 岡 秀實 配 人 飯 島 長 介 監 査 三 川 逸 郎 飯 島 長 介 監 査 三
〔金融關係〕	三菱銀行
〔工場〕	京都市四ヶ所
〔株主〕	十六年上 一七〇名
〔業績〕	利益金 利率配當率 一五年上 三、三三三・三三 一五年下 三、三三三・三三 一六年上 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三
〔株價〕	高値安値 高値安値 一五年中 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三

日清製油

〔設立〕明治四十年三月
〔決算期〕九月(年一回)

〔本社〕京都市京橋區新川二ノ二(電京橋三二一七)

〔業績〕 十六年九月期の業績は純益金百萬圓で、前年同期に比し約十三萬圓の増益を示し、餘裕をもつて一割配當を据置いた。

〔事業・前途〕 當社は大連、横濱に工場を持ち、菜種、胡麻、落花生、麻實等を原料として、各種工業用油脂の製造を行つて居るが、時局以來、特需用が増加の一方で繁忙を極めて居る。十六年三月の一千五百萬圓の拂込徴収も、需要増加に應ずる爲の設備擴張資金であつた。今後は、燃料、努力に一段と窮屈さが加はるだらうが、現状程度の成績は維持出来る見込み。

〔資本金〕	公稱 六、〇〇〇
〔株数〕	新(三五〇)
〔役員〕	社長 松下 幸之助 専務 飯 島 謙三 取締役 飯 島 謙三 飯 島 謙三 常務 飯 島 謙三 飯 島 謙三 大倉 謙三 飯 島 謙三 大倉 謙三 飯 島 謙三
〔金融關係〕	三菱銀行
〔工場〕	大連、横濱
〔株主〕	十六年上 三五名
〔業績〕	利益金 利率配當率 一五年上 三、三三三・三三 一五年下 三、三三三・三三 一六年上 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三
〔株價〕	高値安値 高値安値 一五年中 三、三三三・三三 一六年中 三、三三三・三三

【製紙パルプ事業】

王子製紙

【設立】明治六年二月
【決算期】五月十一月

【最終拂込徴収】十六年九月一日三千七百五十萬圓の最終拂込徴収を行った。之は雨龍電力、樺太鑛業、錦州パルプの建設擴充資金に振當てられた。

【環境不味】當社最近の製造量、販賣量は毎期減少を示して居る。これは、原木、藥品、燃料等が割當制になつた事、それに加ふるに輸送機關の逼迫の爲、之等諸原料の入手並びに製品配給が困難に陥つて居るためだ。このやうな諸原料の入手難に依る製造、販賣數量の減少と同時に、製品コストの増高がある。原料及び用具費を十六年上期末について見ると、十五年下期に比し五百萬圓からの増高である。斯様に、生産量は減少するに反し他方諸原料は増高を辿るのだから、當然、業績低下はまぬかれぬ。この傾向は今後とも當分阻止されまいから、當社業績の低下傾向も亦暫らく續くだらう。

【強韌性】とは言へ、資産内容は極めて充實し、固定資産の償却も毎期四、五百萬圓の手厚い償却で、而かも一億餘圓の大蓄積を有して居る當社の事だ。一割配當にひびの入る様な事は當分あるまい。

【製紙パルプ事業】

三菱製紙

【設立】大正六年十一月
【決算期】四月十月

【環境不味】當社は製紙と言つても、パライタ紙ケント紙、地圖用紙、電氣絶縁體、煙草用紙等の特殊紙が多く、従つて採算も比較的良い。だから一般の製紙會社沈滞の今日に於ても、尙純益率二割九分(十六年上期)と云ふ好成绩を示して居る。しかし、パルプ、公價の引上げや、苛性ソーダ、燃料等の配給減、加ふるにサルファイト入手難による高級紙の生産減少等の惧れがあり、今後は業績低下を免れない。

【配當】併し、財閥獨特の堅實經營が行はれて居る當社の事だ。配當への響きは當分あるまい。

【強韌性】とは言へ、資産内容は極めて充實し、固定資産の償却も毎期四、五百萬圓の手厚い償却で、而かも一億餘圓の大蓄積を有して居る當社の事だ。一割配當にひびの入る様な事は當分あるまい。

北越製紙

【設立】明治四十年五月
【決算期】五月十一月

【業況】當社の製品種目は洋紙、板紙、ファイバー等であるが、洋紙、板紙の採算は良好でない。そこでファイバー大増産計畫を樹て、目下長岡のファイバー工場を擴張中である。十六年末には完成豫定で、其の曉の業績寄與が樂しめる。

【前途】製紙界不明朗の内にあつても、ファイバー増産と云ふ特徴を持つ當社は、今後も尙好成绩が維持出來よう。しかし、當社は借金經營の傾きがないでもない。それだけに一面、危険性も多い譯で、之が資本構成上の不均衡は早晩是正の要があらう。

【事業】洋紙及和紙製造販賣
【資本金】拂込済 10,000,000
【株數】(500) 20,000
【役員】信貴英三 常務 三
島四郎 岡本達夫 取締役 三
岩崎隆三 三品幸造 取締役 三
金澤監査 加藤武男 前
田幸太郎
大株主 十六年上 2,055名
岩崎 久彌 七五〇〇
明治 生命 一九三五

【金融關係】三菱銀行
【工場所在地】高砂、中川
【事業成續】十五年下 十六年上
【製造高】(千圓) 四、二八四、三〇五
【販賣高】(千圓) 四、三〇三、四八四
【利益】(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇
【配當率】一〇・〇〇%
【株價】(實物) 高値 一〇〇
一六年中 一三・五
一六年中 一三・五
一六年中 一三・五

【製紙パルプ事業】

【事業】紙類及其原質製造販賣
【資本金】公稱 三、一五〇、〇〇〇
【株數】(500) 20,000
【役員】新田文平 常務 三
中村文之助 取締役 三
宗清一郎 取締役 三
川本留次 山他 大橋誠太郎 他

【事業規模】抄紙機
【工場所在地】長岡、新潟市
【大株主】十六年上 一、四八八名
田村文之助 一、〇〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一六年中 一〇・〇〇%
一六年中 一〇・〇〇%
一六年中 一〇・〇〇%

【製紙バルブ事業】

高崎板紙

【設立】大正三年三月
【決算期】三月 九月

【本社】群馬縣高崎市八島町一九二（電二三三）
【出張所】東京市神田區五軒町四六（電下谷四八三）

【業績低下】十六年九月份は利益金九十六萬圓、利益率三割一分五厘で、一割一分配當を据置いた。三月份に比し三十九萬圓の減益だ。これは資材の不足、營業費の増加による事勿論だが、資産凍結に依る輸出減少の影響も見逃せぬ。又、十六年十月から燃料使用制限が強化され、今後も業績低下は免れぬ。

【當社の強味】當社は原料から製品まで一貫作業を行つて居る技術的強味を有してゐる上に、従來、よく償却にも努めた結果、資産の含みは相當大きい。だから、差當りの情況のみで行過ぎた悲觀は無用だ。

【事業】	板紙専門
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	拂込 1,000
【役員】	新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇
【大株主】	十六年下、五六名
【前田】	利次郎 一、八〇〇
【業績】	利益金 九十六萬圓 利益率 三割一分五厘 配當率 一割一分
【株價】	高値 三・五 低値 二・五 安値 二・〇
【株主】	十六年中 一、〇〇〇名

日本紙業

【設立】大正二年八月
【決算期】六月 十二月

【本社】東京市日本橋區吳服橋二ノ三（電日本橋二六七八）

【業績】十六年六月份の業績は利益金六十四萬八千圓で、前期に比し二十六萬圓の増益となり七分配當を据置いた。十二月份はバルブ公定價格の引上げや、マニラ麻、三椏等の原料入手難、販賣機構の整備に伴ふ収益減等のため、業績低下は免れない。

【減配か】十六年十月から燃料炭の割當に相當の削減を受ける事になつた。其のため、十七年上期以降の業績は一段と低下するだらう。内部蓄積の豊かでない當社としては減配も免れない筋合にある。或は十六年十二月份に減配となるかも知れぬ。

【事業】	和洋紙、板紙
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	拂込 1,000
【役員】	新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇
【大株主】	十六年上、一四四名
【業績】	利益金 六十四萬八千圓 利益率 三割一分五厘 配當率 七分
【株價】	高値 三・五 低値 二・五 安値 二・〇
【株主】	十六年中 一、〇〇〇名

【製紙バルブ事業】

興國人絹バルブ

【設立】昭和十二年三月
【決算期】四月 十月

【本社】東京市麹町區大手町日曹ビル（電九ノ内三七一―五）

【社名變更】當社は從來日曹人絹バルブと稱して居たが、「日曹」を冠したのでは世間の受けが悪いと云ふ理由と共に、當社と日曹との關係が近年大分稀薄になつたので、過般現社名に改稱した。

【環境不味】カナダ材の入手不可能、原木の割當制度實施、赤松使用制限、燃料割當の減少等と、當面悪材料揃ひである。而もこの環境は今後とも當分續くであらうから、業績向上も當分望めまい。それに、當社は一千三百萬圓に上る多額の借金を持つてゐるから當社の將來は仲々樂でない。

【事業】	人絹用バルブ、人絹
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	拂込 1,000
【役員】	新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇
【大株主】	十六年上、三、四〇〇名
【業績】	利益金 九十六萬圓 利益率 三割一分五厘 配當率 一割一分
【株價】	高値 三・五 低値 二・五 安値 二・〇
【株主】	十六年中 一、〇〇〇名

北鮮製紙化學工業

【設立】昭和十一年
【決算期】三月 九月

【本社】或鏡北道吉州郡吉昌營基洞
【出張所】東京市麹町區有樂町三信ビル（電銀座七二一）

【業績】十六年九月份の業績は利益金六十四萬圓で、同三月份に比し約十萬圓の減益である。之はバルブ公價の引上げが内地のみに止つたので、當社製品は其の恩恵を全面的に享け得なかつたし、且つ、バルブ會社一般の傾向に洩れず、原木高と薬品値上りで採算が悪化したからだ。純益率一割二分八厘で一割配當だから、償却金控除後とは云へ餘り樂な決算ではない。

【今後】十六年十月より燃料の使用制限が一段と強化される事になつたから、今後も業績低下は免れない。一割配當持續は不可能とならう。

【事業】	各種バルブ及紙類、化學工業
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	拂込 1,000
【役員】	新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇 新(吉) 小 六〇〇〇
【大株主】	十六年下、一、〇〇〇名
【業績】	利益金 六十四萬圓 利益率 三割一分五厘 配當率 一割二分八厘
【株價】	高値 三・五 低値 二・五 安値 二・〇
【株主】	十六年中 一、〇〇〇名

【セメント事業】

小野田セメント

【設立】明治十四年五月
【決算期】五月 十一月
(本社) 山口縣小野田市小野田町六二七六(電小野田一〇)
(出張所) 東京市京橋區銀座西建築會館内(電京橋三九七)

【統合の中心】セメント界の統合案によると、當社は東北セメントを合併し、東洋産業のセメント工場、日本石綿盤根工場を買収することに一應なつてゐる。實際どうなるかはよく判らぬが、内地、朝鮮、關東州に地盤を築き、三井をバックにしてゐる當社は、確かに統合の主體たる貫録を充分もつてゐる。

【事業】セメント製造販賣
【資本金】拂込済 四〇〇、〇〇〇
【株数】(五〇〇) 八〇六、七七八
【役員】社長 狩野宗三
専務 枝野常三
河内通 赤羽克巳
國吉一 白根竹介
爲次郎 山本義人
茂吉 監査 坂直 渡部 上
相談 三井 廣三 坂本 章造
【金融關係】三井、百十、興銀

【大株主】十六年上七、〇八八名
三井物産 七五、〇〇〇
内國貯蓄銀行 四六、三〇七
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 三、四七四 一・二〇 一・〇〇
一五年下 三、三〇四 一・一六 一・〇〇
一六年上 三、四四一 一・一六 一・〇〇
一六年下 三、四四一 一・一六 一・〇〇
【株價】(實物) 高値 安値
一五年中 八五〇 七〇〇
一六年中 七三〇 七二二

磐城セメント

【設立】明治四十年十一月
【決算期】五月 十一月
(本社) 東京市麹町區丸の内丸ビル内(電丸ノ内二五七一)
(出張所) 青森縣青森市古川町一七

【七尾・豊國合併】當社は十六年十一月廿六日期日を以て、その子會社七尾・豊國の兩セメント會社を合併した。合併比率は三社一對一である。右合併の有つ意味は、所謂商工省の六プロツク案に應じて業界の統合機運に先鞭をつけたことだ。

【事業】セメント製造販賣
【資本金】公稱 三〇〇、〇〇〇
【株数】(五〇〇) 五八四、〇〇〇
【役員】社長 岩崎清七
専務 岩崎清一郎
吉永 監査 南野利兵衛
田部 監査 佐藤山
相談 大橋新政 他二名

【大株主】十六年上 三、五三六名
磐城 證券 三〇、四四五
日本 證券 三〇、三〇〇
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 一、三三三 一・三三 一・〇〇
一五年下 一、三三三 一・三三 一・〇〇
一六年上 一、三三三 一・三三 一・〇〇
一六年下 一、三三三 一・三三 一・〇〇
【株價】(東長) 高値 安値
一五年中 六五〇 四〇〇
一六年中 六五〇 四〇〇

秩父セメント

【設立】大正十二年一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 東京市麹町區日本工業俱樂部内(電丸ノ内三六一)
【買収内定】斯業整理統合の商工省案に依れば、秩父は産業セメントを買収して、六プロツクの一つとして残る事になつてゐる。既に兩社間の内交渉も略成つた模様で、統合機運の熱するを俟つて近く實現か。

【事業】セメント製造販賣
【資本金】公稱 二〇〇、〇〇〇
【株数】(五〇〇) 一〇〇、〇〇〇
【役員】社長 大友幸助
専務 諸井實一 取締 小
柳勝三 監査 藤原
萬藏 三輪善兵衛 監査
鈴木六郎 渡邊得男 相談
大橋新太郎
【金融關係】第一、興業銀行

【大株主】十六年上 三、九八名
有 恒興業 一五、八〇五
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 八、三三三 二・三三 一・〇〇
一五年下 八、三三三 二・三三 一・〇〇
一六年上 八、三三三 二・三三 一・〇〇
一六年下 八、三三三 二・三三 一・〇〇
【株價】(實物) 高値 安値
一五年中 三、五〇〇 三、四〇〇
一六年中 三、五〇〇 三、四〇〇

【セメント事業】

大阪窯業セメント

【設立】昭和元年十二月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪府北區堂島濱通二ノ一四(電北二〇一)
(出張所) 東京市神田區神保町一ノ二(電神田四三三)
【再轉惡化】十五年來の操短解除の結果、當社も十六年下期を底として好轉するだらうと考へられたが事實は逆に石炭割當削減の影響で、下期から又々不振期を迎へねばならぬ事となつた。今後は聯合會當時の能力から見て三割二分程度の操業となる見込だから心細い。而も炭質の向上も期し得ぬ状態だ。上期は經理令により再減配したのについて、今期更に減配はしないとしても、來期以降は何とも言へない。

【事業】セメント製造販賣
【資本金】公稱 二〇〇、〇〇〇
【株数】(五〇〇) 一〇〇、〇〇〇
【役員】社長 淺田平藏
専務 白竹善三郎 取締 橋
野小次郎 監査 永井清七
本太郎 監査 山口次郎
有田邦敏 住友第一、三和
三菱、三井、安田各銀行

【大株主】十六年上 三、二〇名
大 證券 四三、六六二
淺田 平藏 六、三六八
【業績】利益金利益率配當率
一五年上 一、〇七一 一・〇七 一・〇〇
一五年下 一、〇七一 一・〇七 一・〇〇
一六年上 一、〇七一 一・〇七 一・〇〇
一六年下 一、〇七一 一・〇七 一・〇〇
【株價】(實物) 高値 安値
一五年中 一、五〇〇 一、二〇〇
一六年中 一、五〇〇 一、二〇〇

セメント事業

東洋産業

【設立】明治三十一年四月
【決算期】五月 十一月
【本社】名古屋市中區廣小路通り三朝日ビル(電本局五四)

【洋灰部門整理】高濱田原兩工場の中、前者は臺灣に移駐臺灣電力と共同出資にて新會社を設立。田原の舊設備一基は東北亞鉛鑛業に賣却、残る一基は小野田への賣却問題が再燃目下交渉中。恐らく成立しよう。
【持株會社に編入】残る船舶石炭部門は小規模で、石炭増産計畫も資材勞力の不足で遅々としてゐる。結局將來當社は、南海興業等への投資が主業とならう。
【展望】十一月期は石炭が多少増産するが、洋灰部門の不振と相殺前期並に落着かう。配當は据置。

東洋セメント工業

【設立】昭和九年五月
【決算期】六月 十二月
【本社】大阪市北區堂島濱通福徳ビル(電北三三五一)
【事務所】東京市麹町區丸ノ内三三二一(電丸三九九)

【不味】十五年下期に比しやつと一割程度の増産を豫想せしめた上期に引きかへ、十六年下期は又々減産減益の悲運を啣たねばならなくなつた。尤も下期は期初の運轉が稍や活潑だつたから、さほど心配ないかもしれぬ。それにしてもコスト高は甚だしいものがあるから、依然芳しくない業績が豫想される。
【副業】スレート部門は内地、朝鮮、北支に互つて工場をもつてゐるが、未だ本格的に當社の業績に寄與するに至らぬ。なほ字部セメントとの合併談は、解消することになつた。(字部興産の項参照)

セメント事業

滿洲セメント

【設立】昭和九年二月
【決算期】十一月(年一回)
【本社】滿洲國哈爾濱市道徳街二三三號
【出張所】東京市日本橋區吳服橋三ノ七(電日本橋四六)

【拂込額收】十六年十一月一日期日を以て當社は新株第一回拂込を徴收した。一株十二圓五十錢宛、總額百八十七萬五千圓である。これで拂込資本金は六百二十五萬圓に増加したが、右拂込に依る新資金は借入金返済に充當されるものだから、大して資本負擔の壓迫とはならない。
【業績】十六年度の業績は未だ不明だが、新設第二工場が期を通じて働いた。十五年度より向上は確實だが、大きな期待は懸けられぬ。炭價値上りで採算的に惠まれなかつたからだ。然し八分配當は据置。

哈爾濱セメント

【設立】昭和九年八月
【決算期】五月 十一月
【本社】滿洲國哈爾濱市道徳街二三三號
【出張所】東京市日本橋區吳服橋三ノ七(電日本橋四六)

【信額増資】當社は十六年九月倍額増資を行ひ、百七十萬圓の新株第一回拂込を徴收した。依つて現在資本金は一千萬圓、内拂込六百七十萬圓となつた。新資金は借金返済に充てたから、資本負擔は増加しない。現行配當が四分に過ぎないから、當社としては今後の配當も四、五分程度に甘んじ、當分内容充實に専念すべきだらう。
【新工場に期待】十六年下期の業績は未だ期待薄だが、新鋭牡丹江工場の操業が本格化するに伴れ、次期以降の向上は見込める。四分配當も漸次訂正されん。

Table with columns for company name, capital, and other financial details.

Table with columns for company name, capital, and other financial details.

Table with columns for company name, capital, and other financial details.

Table with columns for company name, capital, and other financial details.

【セメント事業】

大阪窯業

【設立】明治十五年一月
【決算期】五月 十一月
【本社】大阪市北区堂島通二ノ一四（電北二〇一四）
【出張所】東京市神田區神保町一ノ二（電神田四〇三）

【減益せん】セメント界の石炭問題は煉瓦界にも響かざるを得ぬ。当社製品は普通煉瓦、耐酸煉瓦、耐火煉瓦で、賣行きに問題なしとしても官需、特需、生擴用煉瓦生産さへ思ふ様に行へぬ現状では、コスト高は甚だしく減益は必至だ。十六年下期月平均五萬圓の利益は一寸期待出来ぬかもしれぬ。内容的に今期は減配せず済むだらうが、次期以降は何とも言へぬ。
【前途】セメント界統合の圏外に一應立つとは言へ、今後状態の進展如何によつて、窯業セメントとの合併が或ひは實現せぬとも限らぬ。

【事業】各種煉瓦、耐火煉瓦、耐火材料	【金融関係】住友、第一、三和
【資本】拂込済 二、〇〇〇	【生産高】千個 一四、二五〇
【株数】新(五〇〇) 二〇、〇〇〇	【赤煉瓦】一三、〇〇〇
【役員】社長 津田平蔵	【其他煉瓦】一三、〇〇〇
常務 高野新治郎 山田平蔵	【業】利益金利益率配當率
取締役 白井新三郎 野田平蔵	一五年上 三〇・三
取締役 山崎三郎 野田平蔵	一五年下 三〇・三
監査 山口大郎 野田平蔵	一六年上 三〇・三
監査 山口大郎 野田平蔵	一六年下 三〇・三
大株主 十六年上 一、四二名	【株】(買物)高値 三三・七
大株主 十六年上 一、四二名	【株】(買物)低値 三三・七
大株主 十六年上 一、四二名	【株】(買物)安値 三三・七
大株主 十六年上 一、四二名	【株】(買物)安値 三三・七

川崎窯業

【設立】昭和五年六月
【決算期】四月 十月
【本社】神奈川県川崎市扇町六（電川崎三二一）

【業況順調】時節柄、努力資材に制約されはするが、日本鋼管と提携の強味、高級品への製造轉換等に依り、最近當社の業績は漸徐乍ら向上を辿つてゐる。十月末締切の十六年下期も、まだ詳細不明だが、特殊製品アレックスは終始好調だつたやうだから、幾分更に向上を期待される。
【増資と配當】當社は現在、七百萬圓全額拂込済である。右アレックスの好評に鑑み、之が設備の擴充を意圖されてゐる。早晩増資の筋合にある。だが増資が實現すれば、一割配當は訂正を見るかも知れない。

【事業】耐火煉瓦、耐火材料	【工場所在地】川崎、岡山、普
【資本】拂込済 七、〇〇〇	【商店、瓦房店】日本鋼管子會社
【株数】新(五〇〇) 七、〇〇〇	【業】利益金利益率配當率
【役員】社長 白石元治郎	一四年上 三三・三
常務 三浦嘉一 取部支店	一四年下 三三・三
取締役 長久今泉 廣島三取	一五年上 三三・三
取締役 高松誠三 高松島喜下	一五年下 三三・三
監査 前田利定 高松島喜下	一六年上 三三・三
監査 前田利定 高松島喜下	一六年下 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)高値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)低値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)安値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)安値 三三・三

名古屋製陶

【設立】大正六年八月
【決算期】五月 十一月
【本社】名古屋市中區東野町二ノ七八（電瑞穂三五〇）
【支社】東京市芝區新橋四ノ六（電芝一六六）

【轉換熱成る】當社は近來環境の悪化から極度の苦境に陥つてゐたが、當局者の努力により最近轉換態勢を整へ時局産業に再出發せんとしてゐる。即ちトネル窯による海綿鐵製造で、既に當局の許可も得、原鑽入手に就ても見透しがつてゐるやうだ。現在は某方面よりの食器生産に追はれ、事業轉換は未だ積極的でないが、二三ヶ月後には本格的に着手する筈。
【見透】十六年下期は若干の赤字とならう。勿論無配の外ない。只前記製鐵事業が軌道に乗れば業績を見直す時がある。但し復配迄少くも數期を要さう。

【主要製品】陶磁器、タイル	【金融関係】愛知銀行
【資本】公稱 二、〇〇〇	【大株主】十六年上 一、五三名
【株数】新(五〇〇) 二〇、〇〇〇	【業】利益金利益率配當率
【役員】社長 伊藤次郎	一五年上 三三・三
常務 寺澤増太郎	一五年下 三三・三
取締役 伊藤次郎	一六年上 三三・三
取締役 伊藤次郎	一六年下 三三・三
監査 伊藤次郎	【株】(買物)高値 三三・三
監査 伊藤次郎	【株】(買物)低値 三三・三
監査 伊藤次郎	【株】(買物)安値 三三・三
監査 伊藤次郎	【株】(買物)安値 三三・三

【煉瓦事業】

日本陶器

【設立】大正六年七月
【決算期】五月 十一月
【本社】名古屋市中區則武新町一ノ一（電西局八七〇）

【磁石製作本格化】當社は輸出杜絶に處して研削砥石の製作に轉換すべく工場新設中だが、二、三ヶ月前より操業を開始した。舊工場の設備轉用と相俟つて本格的製作に乗り出したわけだ。トネル窯による砥石メーカーは本邦に於て當社唯一である。質量共に本邦第一のメーカーとなる日も遠くあるまい。
【見透】輸出杜絶の打撃は大きい。従つて十六年下期業績はよくない。配當は一割を割らう。來期以後の食器類の生産割當は大削減を止むなくされるが、今は砥石が増産の筋合にあり、漸次業績も回復しよう。

【事業】陶器製造販賣	【工場所在地】川崎、岡山、普
【資本】公稱 七、〇〇〇	【商店、瓦房店】日本鋼管子會社
【株数】新(五〇〇) 七、〇〇〇	【業】利益金利益率配當率
【役員】社長 廣瀬實光	一四年上 三三・三
常務 廣瀬實光	一四年下 三三・三
取締役 廣瀬實光	一五年上 三三・三
取締役 廣瀬實光	一五年下 三三・三
監査 廣瀬實光	一六年上 三三・三
監査 廣瀬實光	一六年下 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)高値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)低値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)安値 三三・三
大株主 十六年上 六、四三名	【株】(買物)安値 三三・三

【煉瓦事業】

品川白煉瓦 【設立】明治三十六年三月
【決算期】三月 九月
【本社】東京市麹町區丸の内丸ビル（電丸ノ内三五六一）
【支社】大阪市北區中ノ島三ノ三

【配當措置】 當社の十六年九月期業績は、八分配當措置に何等支障なかつたが、時節柄稍や不調を免れなかつた。即ち上期に比し利益金約一萬圓を微減し、利益率亦僅か乍ら二厘方低下した。成績不調の原因は努力、輸送力難で製品賣上高が減少したからだ。

【重點的強味】 従つて當社今後の業績に就ては、この努力、輸送力の關係如何を注視する要がある。だが努力、輸送力の不足は他面に於てそれ等の重點的配分を必要とし、耐火煉瓦事業に於ても漸次重點主義の強化を促すことにならう。この場合技術に勝れ、大規模設備を有する當社の如きは、當然最重點會社としてその立場は一層有利となる筈だ。だから差詰め、著しい成績の向上は望めまいまでも、十六年下期程度の業績ですら易々と据置けた現行八分配當は、今後とも無論維持可能と見て差支へない。

【新事業】 年内か遅くも來春迄に新設される朝鮮品川白煉瓦は、資本金四百五十萬圓の純然たる品川白煉瓦の子會社である。朝鮮マグネ開發から原石を受けマグネシア耐火物を製造する。時節柄有望視される。

日本エタニットパイプ

【設立】昭和六年二月
【決算期】五月 十一月
【本社】東京市京橋區木挽町五ノ二
【支社】エタニットビル（電銀座三三四一）

【配當】 當社は十五年下期に於て、從來の一割配當から四厘減の九分六厘に引下げられたが、十六年上期には再び一割配當に復活した。自己資本の増大から可能配當率が一割に達したからである。十六年下期も一割配當は据置かれる筈だ。

【原料問題】 當社の問題は、云ふ迄もなく原料石綿である。即ち、從來はその大部分を加奈陀とローデシヤから輸入してゐたが、勿論それは止まつた。そこで、専ら蒙疆の包頭の石綿採掘に大童で、十七年からこれが使用可能状態にある、と當局者は云ふ。

【事業】 エタニットパイプ
【資本金】 公稱 三、五〇〇
株數 八、〇〇〇
【役員】 社長 篠塚宗吉
取締役 林卯之助 篠塚宗吉
助 木村信治 小山倉之助
監査 松浦孝治
【金融關係】 日本晝夜、三和

【其他事業】

大株主 十六年上 三、八〇〇名
篠塚宗吉 六、〇〇〇
土橋半次郎 六、〇〇〇
【工場所在地】 大宮、東京、
四國、蒲田
【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 七六六 二二八 〇・六
一五年下 七〇〇 二二八 〇・六
一六年上 七六六 二二八 〇・六
一六年下 七六六 二二八 〇・六
【株價】 新 高値 二九八
一五年中 四〇〇
一六年中 二六八
一六年十 二二五

【煉瓦事業】

品川白煉瓦 【設立】明治三十六年三月
【決算期】三月 九月
【本社】東京市麹町區丸の内丸ビル（電丸ノ内三五六一）
【支社】大阪市北區中ノ島三ノ三

【配當措置】 當社の十六年九月期業績は、八分配當措置に何等支障なかつたが、時節柄稍や不調を免れなかつた。即ち上期に比し利益金約一萬圓を微減し、利益率亦僅か乍ら二厘方低下した。成績不調の原因は努力、輸送力難で製品賣上高が減少したからだ。

【重點的強味】 従つて當社今後の業績に就ては、この努力、輸送力の關係如何を注視する要がある。だが努力、輸送力の不足は他面に於てそれ等の重點的配分を必要とし、耐火煉瓦事業に於ても漸次重點主義の強化を促すことにならう。この場合技術に勝れ、大規模設備を有する當社の如きは、當然最重點會社としてその立場は一層有利となる筈だ。だから差詰め、著しい成績の向上は望めまいまでも、十六年下期程度の業績ですら易々と据置けた現行八分配當は、今後とも無論維持可能と見て差支へない。

【新事業】 年内か遅くも來春迄に新設される朝鮮品川白煉瓦は、資本金四百五十萬圓の純然たる品川白煉瓦の子會社である。朝鮮マグネ開發から原石を受けマグネシア耐火物を製造する。時節柄有望視される。

日本コンクリート・ボール

【設立】昭和九年九月
【決算期】五月 十一月
【本社】東京市足立區千住關屋町三八（電足立三三三）
【支社】東京市京橋區銀座西五ツツダビル（電銀座四四四）

【事業は有望】 當社事業は重要代用品として有望なものだから、今後機會ある毎に、その活用が問題となる筈である。

【配當】 だが記者は、當社の利益率なり資産内容から見て、從來から二分減配を慫慂して來たのである。しかし當局者としては、前途に期待する處から八分配當を維持してゐる如く見える。だが、この際二分程度の減配を斷行し、業績が向上したら、その時に再び八分配當に復歸してもよいと思ふ。當社の株價から見ても、減配は織込済だ。

【事業】 コンクリートボール
【資本金】 公稱 三、〇〇〇
株數 三、〇〇〇
【役員】 社長 吉澤兵左
取締役 田中兵衛 吉澤兵左
助 田中兵衛 吉澤兵左
監査 田中兵衛 吉澤兵左
【金融關係】 日本晝夜、安田

【其他事業】

大株主 十六年上 八、〇〇〇名
吉澤兵左 六、〇〇〇
田中兵衛 六、〇〇〇
【工場所在地】 東京、
吉澤兵左
【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 二二七 二二八 〇・八
一五年下 二二七 二二八 〇・八
一六年上 二二七 二二八 〇・八
一六年下 二二七 二二八 〇・八
【株價】 新 高値 二九八
一五年中 四〇〇
一六年中 二六八
一六年十 二二五

【煉瓦事業】

品川白煉瓦 【設立】明治三十六年三月
【決算期】三月 九月
【本社】東京市麹町區丸の内丸ビル（電丸ノ内三五六一）
【支社】大阪市北區中ノ島三ノ三

【配當措置】 當社の十六年九月期業績は、八分配當措置に何等支障なかつたが、時節柄稍や不調を免れなかつた。即ち上期に比し利益金約一萬圓を微減し、利益率亦僅か乍ら二厘方低下した。成績不調の原因は努力、輸送力難で製品賣上高が減少したからだ。

【重點的強味】 従つて當社今後の業績に就ては、この努力、輸送力の關係如何を注視する要がある。だが努力、輸送力の不足は他面に於てそれ等の重點的配分を必要とし、耐火煉瓦事業に於ても漸次重點主義の強化を促すことにならう。この場合技術に勝れ、大規模設備を有する當社の如きは、當然最重點會社としてその立場は一層有利となる筈だ。だから差詰め、著しい成績の向上は望めまいまでも、十六年下期程度の業績ですら易々と据置けた現行八分配當は、今後とも無論維持可能と見て差支へない。

【新事業】 年内か遅くも來春迄に新設される朝鮮品川白煉瓦は、資本金四百五十萬圓の純然たる品川白煉瓦の子會社である。朝鮮マグネ開發から原石を受けマグネシア耐火物を製造する。時節柄有望視される。

日本コンクリート・ボール

【設立】昭和九年九月
【決算期】五月 十一月
【本社】東京市足立區千住關屋町三八（電足立三三三）
【支社】東京市京橋區銀座西五ツツダビル（電銀座四四四）

【事業は有望】 當社事業は重要代用品として有望なものだから、今後機會ある毎に、その活用が問題となる筈である。

【配當】 だが記者は、當社の利益率なり資産内容から見て、從來から二分減配を慫慂して來たのである。しかし當局者としては、前途に期待する處から八分配當を維持してゐる如く見える。だが、この際二分程度の減配を斷行し、業績が向上したら、その時に再び八分配當に復歸してもよいと思ふ。當社の株價から見ても、減配は織込済だ。

【事業】 コンクリートボール
【資本金】 公稱 三、〇〇〇
株數 三、〇〇〇
【役員】 社長 吉澤兵左
取締役 田中兵衛 吉澤兵左
助 田中兵衛 吉澤兵左
監査 田中兵衛 吉澤兵左
【金融關係】 日本晝夜、安田

【其他事業】

大株主 十六年上 八、〇〇〇名
吉澤兵左 六、〇〇〇
田中兵衛 六、〇〇〇
【工場所在地】 東京、
吉澤兵左
【業績】 利益金利益率配當率
一五年上 二二七 二二八 〇・八
一五年下 二二七 二二八 〇・八
一六年上 二二七 二二八 〇・八
一六年下 二二七 二二八 〇・八
【株價】 新 高値 二九八
一五年中 四〇〇
一六年中 二六八
一六年十 二二五

Table with financial data for various companies, including columns for assets, liabilities, and income. Includes sub-headers like '株主負債', '外債', '流動負債', '固定負債', '流動資産', '固定資産', '支拂手形', '現金', '債権', '借入金', '負債', '借入金', '負債', '借入金', '負債'.

東洋紡績

【設立】大正三年六月
【決算期】五月 十一月
【本社】大阪市北區堂島通二ノ八(電北二〇〇一七)
【出張所】東京市日本橋區小網町一ノ三(電芝場五七〇一)

【對策既に成る】綿紡部門の工場別操業指定問題は比較的圓滑に對處し得た。當社は既にずつと前から工場の地域別プロック化を行ひ非能率工場を自主的に閉鎖して來た。最近のA、B、Cの順位決定では、右に加へて數ヶ工場を閉鎖することになつたが別に慌てずに處置し得た様だ。休止するにせよ閉鎖するにせよ相當經費を要するが、反面今後の經費は節約し得る。

【積極面】羊毛、人造纖維の兩部門は可成り積極的でさへある。前者に在つては伊丹、三重兩社合併に續いて、最近東洋毛糸紡績、東洋毛織、日本毛糸三社の合併を決定し、朝日毛糸を委任經營することとなつた。これで當社はミニール換算三十餘萬錠の設備をもつこととなる。右の統合前に比し約六倍の膨脹である。人絹はダイヤコード用の強力なものが既に大量生産されつゝあるしスフは二溶化によつて品質は著しく向上して常に最高點を獲てゐる。

【安定性大】當社の綜合經營は益々堅い。斯業の前途は樂觀を許さないが、危な氣な部門を持たないだけに當社の業礎は依然安定性大と評して差支へない。

鐘淵紡績

【設立】明治十九年十一月
【決算期】五月 十一月
【本社】東京市向島區隅田町二ノ三(電墨田三〇九一二)
【營業所】神戸市林田區御崎町一丁目(電兵庫八〇)

【合理化途上の問題】綿紡關係の操業指定で當社は北九州の三池、久留米、熊本の三ヶ工場をはじめ、數ヶ工場の閉鎖を行ひ集中生産に進んでゐる。この部門での問題はあまりないが、羊毛部門その他には問題なしとしない。荻原毛糸合併は問題なしとするも、東洋紡績工業の合併は職員の一致した反對を押し切つての合併であつただけに人的融合や其他の點で相當悩みがある様だ。人造纖維製造部門で合併した日本人造羊毛壽織維の兩社はいづれも弱體會社で問題なく當社の閉鎖工場に向けられることと思ふ。今後の問題は當社自體の人絹スフ製造技術の向上にある。

【減益對策】當面する減益をカバーする點で生絲部門は大きな役割を果さう。總簽數九千三百三十六簽で片倉、那是に次ぐものだが、最近の内需轉換成功で相當の好収益を見込まれ、少なくとも總益の三割近くをこの部門で擧げ得る模様である。

【減配期】實力から見て十六年下期の据置は大體可能である。然し十七年上期以降は減配必至と見てよいであらう。

事業	資本	株主	役員	事務所
東洋紡績	1,000,000	1,000,000	社長 城上 幸吉	大阪 堂島
鐘淵紡績	1,000,000	1,000,000	社長 津田 信吾	東京 向島
三井	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町
三井物産	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町
三井銀行	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町

項目	十五年	十六年
株主資本	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000
現金	1,000,000	1,000,000
手帳	1,000,000	1,000,000

事業	資本	株主	役員	事務所
東洋紡績	1,000,000	1,000,000	社長 城上 幸吉	大阪 堂島
鐘淵紡績	1,000,000	1,000,000	社長 津田 信吾	東京 向島
三井	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町
三井物産	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町
三井銀行	1,000,000	1,000,000	社長 三井 隆夫	東京 有樂町

項目	十五年	十六年
株主資本	1,000,000	1,000,000
外部負債	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000
現金	1,000,000	1,000,000
手帳	1,000,000	1,000,000

日清紡績

【設立】明治四十年二月... 【事務所】東京市城東區龜戸町二ノ七八

【十一月期豫想】當社は周知の如く、紡績各社中最も輸出依存度の高い會社である。

【第二次再編】情勢の重大化に對處すべき紡績業の第二次再編は、操業、豫備及閉鎖工場の決定に伴ひ進捗しつゝあるが、當社は設備總額六十七萬餘鎊の二割、約十三萬四千鎊の整理を必要とする。

大日本紡績

【設立】明治二十二年六月... 【事務所】兵庫縣尼崎市東本町一ノ五〇

【二社合併】東亞纖維、第一毛絲の兩社を合併することにした。前者はスフの専門メーカー、後者は小型乍ら内容堅實で紡毛部門を持つ會社だ。

【在華工場】法幣暴落の打撃はなしとしないが、目下のところ大した問題はない。上海、青島を合せて總額僅かに二十萬鎊で月々二百萬圓近い利益を出してゐるから實に豪勢なものである。

日清紡績

【設立】明治四十年二月... 【事務所】東京市城東區龜戸町二ノ七八

【十一月期豫想】當社は周知の如く、紡績各社中最も輸出依存度の高い會社である。

【第二次再編】情勢の重大化に對處すべき紡績業の第二次再編は、操業、豫備及閉鎖工場の決定に伴ひ進捗しつゝあるが、當社は設備總額六十七萬餘鎊の二割、約十三萬四千鎊の整理を必要とする。

大日本紡績

【設立】明治二十二年六月... 【事務所】兵庫縣尼崎市東本町一ノ五〇

【二社合併】東亞纖維、第一毛絲の兩社を合併することにした。前者はスフの専門メーカー、後者は小型乍ら内容堅實で紡毛部門を持つ會社だ。

【在華工場】法幣暴落の打撃はなしとしないが、目下のところ大した問題はない。上海、青島を合せて總額僅かに二十萬鎊で月々二百萬圓近い利益を出してゐるから實に豪勢なものである。

紡績事業

【安定性大】業界の前途は益々困難と言ふ他なく綿紡工場の閉鎖も更に増加する見込だ。然し當社の堅實な内容から見れば維持力は充分ある。

紡績事業

【安定性大】業界の前途は益々困難と言ふ他なく綿紡工場の閉鎖も更に増加する見込だ。然し當社の堅實な内容から見れば維持力は充分ある。

Table with columns for company names (e.g., 綿紡績, 東亞纖維), financial metrics (e.g., 資本, 利益), and years (15, 16).

Table with columns for company names (e.g., 日清紡績, 大日本紡績), financial metrics (e.g., 資本, 利益), and years (15, 16).

【紡績事業】

富士瓦斯紡績

【設立】明治二十九年三月
【決算期】五月十一月

【重組生産進捗】 資産凍結に對應する綿業第二次再編に際し、當社は四工場の閉鎖を斷行した。人絹、スフに於ても、最近東洋レーヨンとブロックを結成し、富士工場の人絹を東洋レーヨンに委託、スフは壬生川工場に集中するに決定し、同工場は閉鎖することとなつた。がこれに依る影響は殆ど云ふに足りない。

【十一月期業績】 資産凍結の實施から、原棉輸入の杜絶と製品輸出の梗塞と云ふ苦境に立たされたが、期初に於ける輸出の活況から、既に莫大な収益を擧げてをり、また原棉も十六年一杯の操業には大して支障を來さぬから、上期程度の利益計上は問題ない。八分配當の据置は可能。

【今後の問題】 今後の業績は大局的よりすれば國際情勢の推移如何に懸る譯であるが、當面の問題としては支那棉の内地輸入に關し、現地に於ける價格の暴騰に對して、如何なる方法に依り調整資金を求めるか或は内地價格の引上げを實施するか、にあるが何れにしてもこれが解決は容易ではなからう。所詮綿業の前途は苦難を免れぬ情勢に立到つてゐる。

Table with financial data for Fuji Gas Spinning, including columns for capital, assets, and liabilities.

Table with financial data for Fuji Gas Spinning, including columns for income, expenses, and dividends.

【紡績事業】

吳羽紡績

【設立】昭和四年七月
【決算期】五月十一月

【膨脹急】 當社は昭和十四年來、目ぼしい會社だけでも七社合併した。その上、今春二千七百七十三萬圓を増資して去る六月廿一日その第一回拂込一株につき廿五圓、總額一千八百六十五萬圓を徴收した。現在當社は公稱六千七百六十五萬圓、拂込五千六百七十八萬五千圓だが、十四年上期末の二千萬圓拂込に比し拂込は三倍近くの急増で、十六年下期の平均拂込五千三百三十九萬圓は上期に比較してさへ一千四百萬圓以上の増加となつてゐる。

【減配か】 設備の膨脹も亦活潑で、綿紡關係のみでも十四年上期末の五十四萬五千圓から最近の百四十五萬二千圓へ四期間に三倍に近い増加となつてゐる。而も時局柄相當多くの工場を閉鎖せねばならない。合理化の行きとどいた優秀工場を多數擁する當社としては痛いことだ。外地の建設は中々進み難く、進んだとしてもその規模は小だ。とすると當社は當面内地一本でやつて行かねばならぬが、綿絲の價格改訂問題は歩々しく進まぬやうだし、當社の場合今期減配懸念なしとせぬ。

Table with financial data for Iwaba Spinning, including columns for capital, assets, and liabilities.

Table with financial data for Iwaba Spinning, including columns for income, expenses, and dividends.

【紡績事業】

大和紡績

【設立】昭和十六年四月
【決算期】五月、十一月
(本社) 大阪市東區今橋一ノ一五

【閉鎖工場】紡績工場の操業指定問題に先んじて當社は日高第一、大津(舊日出關係)、濱寺(舊錦華關係)和歌山(舊和歌山關係)の各工場を自發的に閉鎖し、その鍾數合計二十三萬鍾と丁度全設備の二割に相當する。だから指定問題が起つても大して慌てはしない。人絹スフ關係の三ヶ工場は設備から見ても製品の品質からしても大して優れたものとは考へられない。この部門がどの程度合理化されるかが、今後の問題としては相當重要であると見てよい。

【一割配當】特免と特需向に今後の製品が限定される場合、當社はその方面に古くから經驗をもつてゐるから相當の成果を期待してよい。唯然し、内地向の價格收訂はあまり期待出來ず、實現するとしても採算的には依然惡からうから問題だ。殊に當社は對支進出の機を逸した憾みがあり、利益も内地一本だから價格收訂が思はしくなると減益をカバーする道がなく。内容的な含みも相當あるから十六年下期の一割配當据置は可能だらうが、十七年上期以降は減配懸念が多い。

【事業】各種の纖維工業並に化學工業品の製造加工販賣
【資本金】公稱、六、六〇〇、〇〇〇圓
【株數】舊(五〇〇) 新(七〇〇) 二新(七〇〇) 三新(七〇〇) 五七〇、〇〇〇

【重役】社長 加藤正人 副社長 加藤一良 加藤實 加藤正一 加藤正二 加藤正三 加藤正四 加藤正五 加藤正六 加藤正七 加藤正八 加藤正九 加藤正十 加藤正十一 加藤正十二 加藤正十三 加藤正十四 加藤正十五 加藤正十六 加藤正十七 加藤正十八 加藤正十九 加藤正二十 加藤正二十一 加藤正二十二 加藤正二十三 加藤正二十四 加藤正二十五 加藤正二十六 加藤正二十七 加藤正二十八 加藤正二十九 加藤正三十 加藤正三十一 加藤正三十二 加藤正三十三 加藤正三十四 加藤正三十五 加藤正三十六 加藤正三十七 加藤正三十八 加藤正三十九 加藤正四十 加藤正四十一 加藤正四十二 加藤正四十三 加藤正四十四 加藤正四十五 加藤正四十六 加藤正四十七 加藤正四十八 加藤正四十九 加藤正五十 加藤正五十一 加藤正五十二 加藤正五十三 加藤正五十四 加藤正五十五 加藤正五十六 加藤正五十七 加藤正五十八 加藤正五十九 加藤正六十 加藤正六十一 加藤正六十二 加藤正六十三 加藤正六十四 加藤正六十五 加藤正六十六 加藤正六十七 加藤正六十八 加藤正六十九 加藤正七十 加藤正七十一 加藤正七十二 加藤正七十三 加藤正七十四 加藤正七十五 加藤正七十六 加藤正七十七 加藤正七十八 加藤正七十九 加藤正八十 加藤正八十一 加藤正八十二 加藤正八十三 加藤正八十四 加藤正八十五 加藤正八十六 加藤正八十七 加藤正八十八 加藤正八十九 加藤正九十 加藤正九十一 加藤正九十二 加藤正九十三 加藤正九十四 加藤正九十五 加藤正九十六 加藤正九十七 加藤正九十八 加藤正九十九 加藤正一百

【資産負債】
株主資本 十五、〇〇〇、〇〇〇
外債 一、〇〇〇、〇〇〇
借入金 二、〇〇〇、〇〇〇
流動資産 三、〇〇〇、〇〇〇
固定資産 四、〇〇〇、〇〇〇
負債 五、〇〇〇、〇〇〇
純資産 六、〇〇〇、〇〇〇

項目	十五年	十六年
株主資本	十五、〇〇〇、〇〇〇	十五、〇〇〇、〇〇〇
外債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
借入金	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇
負債	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
純資産	六、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇

倉敷紡績

【設立】明治二十一年三月
【決算期】六月、十二月
(本社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四(電倉敷一〇一七)
(出張所) 大阪市西區江戶堀北通一丁目(電土佐堀六三〇一七)

【共同毛絲合併】九月下旬共同毛絲の合併を決定した。條件は對等、實施期日は來年二月二十五日だ。當社は梳毛同志會を結成してゐたが、共同毛絲はその會員ではなく河崎系の日本毛紡同業會員だ。合併によつて當社の設備はミニール換算八萬鍾足らずになる。あと二萬鍾程の合併を行はねばならない。

【一割配當】内地關係では仙臺、枚方、堺、長崎等の工場を閉鎖することにし、集中生産を行ふが、青島工場の利益のみでも十六年下期二百萬圓を豫想され、今來期の現行配當維持は大體確實と見てよい。

朝日紡績

【設立】昭和十六年七月
【決算期】五月、十一月
(本社) 大阪市東區備後町四ノ三四(電本町六)

【合理化進む】A、B、Cの順位決定で、當社は思ひ切つて閉鎖を斷行し、舊近江帆布關係で味野、宇和島兩工場を閉鎖し、それにプロック内の大野木紡績部、箕福紡績本社工場、日高紡績本社工場等を皆閉鎖して了つた。結局舊天滿織物の四ヶ工場を主體として集中生産を行ふ模様で、最も妥當な行き方と考へられる。

【第一期配當】設立第一期は十一月末で締切るが一割配當は堅い。當社は内地のみでやつて行く會社で公定價格の決定如何では相當苦しくならうが、含みは相當大だから當面の配當は問題ない。

【紡績事業】

【事業】縮紡績及縮織布
【資本金】公稱、五、七〇〇、〇〇〇
【株數】舊(五〇〇) 新(七〇〇) 二新(七〇〇) 三新(七〇〇) 五七〇、〇〇〇

【金銀關係】安田、三井、三和
【大株主】十六年上期、三〇名
【業績】利益金利益率配當率
一五年上、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一五年下、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一六年上、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一六年下、三、七、〇〇〇、〇〇〇

【事業】縮紡績及縮織布
【資本金】公稱、五、七〇〇、〇〇〇
【株數】舊(五〇〇) 新(七〇〇) 二新(七〇〇) 三新(七〇〇) 五七〇、〇〇〇

【業績】利益金利益率配當率
一五年上、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一五年下、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一六年上、三、七、〇〇〇、〇〇〇
一六年下、三、七、〇〇〇、〇〇〇

【紡績事業】

同興紡織

【設立】大正九年五月
【決算期】四月 十月

(本社) 支那上海路浦路第二〇八六號
(出張所) 大阪市北區宗是町一(電土佐堀七〇七)

【大體順調】 法幣大暴落はあつても、内外綿の項で述べた如く大した影響はない様だ。それに十六年十月期は前半の利益が相當多く、結局いくら内輪に見積つても上海で三百萬圓、青島で百二十萬圓、合計四百二十萬圓の利益は堅い。恐らく四月期並の利益を計上し四割臺の利益率に止めることとならう。増配はすまい。

【來期以降】 政治上の問題がどうなるか全く豫斷は許されぬ。然しそれに大變化なき限り、原棉の手持は充分あるから來期以降は假令操業率は落ちてても何とかやつて行けさうだ。唯、從來の如き好収益は望めぬ。

【事業】	綿紡織、綿布加工
【資本金】	拂込済 一五〇,〇〇〇
【株数】	(株) 一五〇,〇〇〇
【役員】	社長 立川三郎 常務 鳥羽智加造 平井晴雄 取締役 三島三郎 河野三郎 監査 江島良雄 山崎清三 三 坂田幹太 竹中源助 三 谷口三郎 三 川口三郎 三 立川三郎 三 谷川三郎
【大株主】	十六年上、二、〇二名 三、〇七〇名 三、〇七〇名
【金融關係】	三井、三菱、朝鮮
【生産高】	十四年上 十四年下 綿(粗) 三、八三三 三、四七〇 綿(精) 三、八三三 三、四七〇
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上 四、〇三三 一、〇三三 一五年下 三、四七〇 一、〇三三 一六年上 三、四七〇 一、〇三三 一六年中 三、四七〇 一、〇三三
【株價】	(實物) 高値 安値 一五年中 一、二五〇 一、〇三三 一六年中 一、二五〇 一、〇三三

内外綿

【設立】明治二十年九月
【決算期】五月 十一月

(本社) 大阪市北區堂島中ノ二五(電北二〇一〇三)
(支社) 支那上海支登路

【法幣大暴落】 法幣の大暴落で在華紡の蒙る打撃は手持資金の値下り損と、先約關係で、今後の賣値は暴落に比例して昂ると見てよいかさう心配ない。各社手持資金、先約共大してもつておないから全體として見ればさう悲觀することはない。當社の外地工場も依然落着いた成績を擧げてゐる。配當は勿論安泰だ。

【内地】 内地關係の二工場は十五年末七社と組合を結成したが、十六年十月末それを五百五十三萬圓の有限會社に改組した。資本合同に迄行かねば本格的ではないが、當社の積極化如何によつては達し得る筈だ。

【事業】	綿紡織、綿布加工
【資本金】	拂込済 三〇〇,〇〇〇
【株数】	(株) 三〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 佐々木國藏 常務 岡田源太郎 木岡藏 取締役 岡田源太郎 勝田俊 監査 中野三郎 他四名 三 木紫二郎 大西喜一郎 他四名 三 監査 中野三郎 他四名 三 住友 安田、三和
【大株主】	十六年上、二、〇三六名 三、〇七〇名 三、〇七〇名
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上 一〇、八三三 一、〇三三 一五年下 一〇、八三三 一、〇三三 一六年上 一〇、八三三 一、〇三三 一六年中 一〇、八三三 一、〇三三
【株價】	(實物) 高値 安値 一五年中 一、二五〇 一、〇三三 一六年中 一、二五〇 一、〇三三

【紡績事業】

朝鮮紡織

【設立】大正六年十一月
【決算期】五月 十一月

(本社) 朝鮮釜山府凡一町七〇〇(電釜山四〇五)
(出張所) 東京市麴町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内六六六)

【強味】 内地紡績業が原棉の杜絶と輸出の梗塞から深刻なる打撃を蒙りつゝあるとき、當社は在鮮紡として立地的條件に恵まれ且つ鮮内需要の特異性から、内地紡に比し遙かに良好な操業を續けてゐる。

【業績】 十六年下期の業績は未だ判明しないが、上期程度の利益は擧げられると見られる。十七年上期は、十六年度の朝鮮棉が豐作を豫想せられてをり、従つて當社の繰繰収益も昨年より著しく増大しようから利益は向上の筋合にある。現行一割二分配當に不安はない。

【事業】	綿紡、綿織布加工、人編織物
【資本金】	拂込済 一〇〇,〇〇〇
【株数】	(株) 一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 原安三郎 常務 藤野謙吉 取締役 藤野謙吉 野中俊 監査 藤野謙吉 野中俊 三 藤野謙吉 野中俊 三 藤野謙吉 野中俊
【大株主】	十六年上、一、〇六六名 二、〇三三名 二、〇三三名
【業績】	利益金利益率配當率 一五年上 一、九四二 一、〇三三 一五年下 一、九四二 一、〇三三 一六年上 一、九四二 一、〇三三 一六年中 一、九四二 一、〇三三
【株價】	(實物) 高値 安値 一五年中 一、〇三三 一、〇三三 一六年中 一、〇三三 一、〇三三

興亞紡績

【設立】大正元年十月
【決算期】三月 九月

(本社) 愛知縣名古屋市東區富町一ノ五

【下期業績】 九月末締切の本年下期業績は當社創立以來の好成績で、一割配當の据置には些かの不安も無かつた。言ふ迄もなく期初四月から六月頃まで未曾有の輸出の活況で、眞向からその恩澤を蒙つたからだ。

【前途】 資産凍結令以後の苦難から勿論當社も免れないが、然し前身服部商店時代からの綿絲商としての永年の歴史と、紡績から機業、染色整理、販賣迄の完全な一貫作業形態と、更に特殊筋からの命令で、目下この方面の生産に主力を集中してゐることを考へれば前途は不安視する必要はない。

【事業】	綿紡織
【資本金】	拂込済 一〇〇,〇〇〇
【株数】	(株) 一〇〇,〇〇〇
【役員】	社長 三輪常次郎 常務 大森海市 尾崎三郎 取締役 小澤齊一 松本庄治 尾崎三郎 監査 松本庄治 尾崎三郎 三 松本庄治 尾崎三郎 三 松本庄治 尾崎三郎
【大株主】	十六年上、五七〇名 二、〇三三名 二、〇三三名
【業績】	利益金利益率配當率 一四年上 一、五八八 一、〇三三 一四年下 一、五八八 一、〇三三 一五年上 一、五八八 一、〇三三 一五年中 一、五八八 一、〇三三
【株價】	(實物) 高値 安値 一五年中 一、〇三三 一、〇三三 一六年中 一、〇三三 一、〇三三

【人絹人織事業】

帝國人造絹絲

【設立】大正七年六月
【決算期】五月 十一月
【本社】大阪市北區中之島江商ビル内(電北濱三三三)
【支社】東京市日本橋區室町三三ビル内(電日本橋二二三)

【子會社合併】當社は子會社(第二帝國)を吸收合併することになった。第二帝國人は資本金二千萬圓(千萬圓拂込)であるが、帝人の技術と經驗とが集中されて建設されたものだけあつて頗る優秀だ。操業第一年目に早くも一割配當をつけた程で、その収益力の秀れてゐることも確だ。之を五百四十萬圓(内拂込四百五十萬圓)に切捨て合併するのだから、合併後の當社は、當然収益力の向上が期待される譯である。

【當面の見送】人絹ス・フ共に各標準品は百封度に付き各七圓五十錢の公價引上げが實施された。この影響は當然見落してはならないが反面に収益の最も良好であつた第三國向輸出が、去る八月から事實上中絶の形となつてゐる點を考慮すれば、公價引上げの効果を過大視出來ない。當面収益は下り坂を辿らざるをえないだらう。

【配當】當社は一割二分をつけてをり、第二帝國人合併も配當力の補強になつたのだから、當下期は素より十七年上期も恐らく一割二分を續けるだらう。當社にはそれだけの含みがあるからだ。

【人絹人織事業】

倉敷絹織

【設立】大正十五年六月
【決算期】五月 十一月
【本社】岡山縣倉敷市元町四九七ノ四
【支社】大阪市東區今橋三三三信託ビル(電北濱三三三)

【下期配當】當社の下期配當は去る重役會に於て前期同様一割据置きに内定した。下期は未だ多少の輸出があつたし、九月から人絹ス・フの公定價格が改訂されたりして多少共息がつけたので、成績はさうひどい低下とはならず済んだようだ。殊に當社は相當の含みを持つてゐるので、下期は据置くことになつたのであらう。

【今後の業績】だが、十七年上期以降の業績は低下を免れまい。この點は何も當社に限らず、今後の人絹ス・フ業界の環境悪化に伴ひ、各社共通のことである。資産凍結後の第三國向輸出としては、僅かに佛印、泰があるが、數量的に微々たるもので問題とならない。原料部面に於ては、原鹽難に基き苛性曹達の不足が、當面改善される見込なく、その上、最近に於ては石炭の割當削減から、先般の公價引上げも、操業率低下に依る操業悪化で相殺されてゐると云つた形だ。人絹界の現状は右の如く不味であるが、然しなほ當社の資産内容が充實してゐる點、製品の優秀性等は、此の際考慮されるべきことであらう。

Table with columns for '事業', '株主', '役員', '工場', '支店', '倉庫', '事務所', '資本金', '株数', '株主名', '役員名', '工場所在地', '支店所在地', '倉庫所在地', '事務所所在地', '資本金', '株数', '株主名', '役員名'. Includes names like 公稱, 新長, 久村, 清太郎, 廣島, 山口, 岩手, 青森, 秋田, 山形, 宮城, 福島, 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 愛知, 三重, 滋賀, 京都, 大阪, 和歌山, 奈良, 徳島, 香川, 高松, 愛媛, 高知, 福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄.

Table with columns for '資産負債', '株主', '役員', '支店', '倉庫', '事務所', '資本金', '株数', '株主名', '役員名', '工場所在地', '支店所在地', '倉庫所在地', '事務所所在地', '資本金', '株数', '株主名', '役員名'. Includes financial data for 15th and 16th years.

Table with columns for '事業', '株主', '役員', '工場', '支店', '倉庫', '事務所', '資本金', '株数', '株主名', '役員名'. Includes names like 公稱, 新長, 久村, 清太郎, 廣島, 山口, 岩手, 青森, 秋田, 山形, 宮城, 福島, 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川, 新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 愛知, 三重, 滋賀, 京都, 大阪, 和歌山, 奈良, 徳島, 香川, 高松, 愛媛, 高知, 福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄.

Table with columns for '資産負債', '株主', '役員', '支店', '倉庫', '事務所', '資本金', '株数', '株主名', '役員名', '工場所在地', '支店所在地', '倉庫所在地', '事務所所在地', '資本金', '株数', '株主名', '役員名'. Includes financial data for 15th and 16th years.

【人絹人絹事業】

東京人造絹糸

【設立】大正十五年三月
【決算期】五月 十一月
【本社】東京市日本橋區大傳馬町二丁目一(電浪花二九一)
【出張所】大阪市東區備後町第二野村ビル(電本町一七〇九)

【苦難の業界】人絹、スフ界の現状は、資産凍結
以來の輸出杜絶に加へ、原鹽難に基く苛性曹達不足、
更に最近に於ては石炭の削減と悪材料の重加に襲はれ
て生産高は著しく減少を見てゐる。

【一、二分減配】十六年十一月期は、期初以降の輸
出好調に恵まれて、六、七、八の三ヶ月間に、既に百
萬圓からの利益を計上した。だが、期後半は前述の如
き悪條件に災ひされ、業績は急低下を來してゐる。結
局、利益は五月期に比し二、三十萬圓減とならう。前
途の多難と睨み合せて一、二分減配は當然の處置だ。

【資本金】公稱 一、九五〇〇
拂込 一、六一二五
【株数】新(三五) 三〇〇,〇〇〇
【重役】社長 藤岡 穴水熊雄
部長 藤岡 渡 専務 渡 定二 服
部 利八 常務 小西 高兵衛
取締役 大川 鐵雄 西村 勝太
監査 久保 隆三 町田 中徳
常務 藤原 喜三 他 田 中 徳
監査 北河 豊次 郎 他 田 中 徳

【大株主】十六年上 三、五八二名
東部 證券 共、五五〇
【業績】利益金利配率配當率
一五年上 一、四七三 一、八三 〇・七〇
一六年上 一、三三三 一、六九 〇・七〇
【株價】(東長)舊(實物)新
一五年中 五、〇五五 五、〇三二
一六年中 五、〇五五 五、〇三二
一五年上 五、〇五五 五、〇三二
一六年上 五、〇五五 五、〇三二

郡是纖維工業

【設立】昭和十年七月
【決算期】五月 十一月
【本社】兵庫縣川邊郡立花村塚口字西鹽幸三二〇

【増産へ】米國から購入したフルファツション編
機二十臺の増設分の振付は今期初愈々完成の模様で、
年産二十五萬打生産が遠からず實現するとなつた。
増設前に比し年約十萬打の増産である。従つて十六年
五月の拂込徴収により拂込は五百萬圓に倍増し、同年
下期から配當負擔は増加はしても八分据置きに支障は
來たさぬ筈だ。

【親會社】親會社の郡是製絲は内需轉換に邁進し
てゐるが、當社はその際實に重大な役割を果してゐる。
増産可能となつた今後は一層期待してよい。

【事業】絹靴下、襪及人絹
【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇
拂込 五〇,〇〇〇
【株数】新(三五) 一〇〇,〇〇〇
【重役】社長 波多野 林一
部長 小野 藤三 取締役 川 林
大野 兵衛 監査 川 林
大村 兵衛 相談 宅間 藤
馬 村 鹿太郎
【大株主】十六年上 三、九八八名
三 菱 社 一〇〇,〇〇〇
三 菱 社 一〇〇,〇〇〇

【業績】利益金利配率配當率
一五年上 二、三四 一、八七 〇・八〇
一六年上 二、五七 二、八六 〇・八〇
【資産負債】十五年下 十六年上
株主資本 二、九七五 五、五五五
外部資本 三、四三六 七、七三二
使用總資本 六、四一一 一三、二八七
固定資産 四、一五五 五、三九六
流動資産 二、二五六 七、八九一
【設備能力】襪機 三、〇〇〇
絹靴下機 一、〇〇〇

【人絹人絹事業】

新日本レイヨン

【設立】昭和十二年九月
【決算期】五月 十一月
【本社】大阪市東區今橋三ノ五(電北濱 大五二)
【工場】島根縣那賀郡江津町

【難局は續く】當社の最近の成績をみると利益金
は半期に四十萬圓程度だ。利益率は四、五分に止まる。
新進會社の爲め原料割當が少なく、設備に遊びが多い
から、成績不振は當然であらう。更生絲の増産に努め
てゐるが、之れとて原料に制限があるから大きな期待
は持てない。難局はまだ續くとみられる。

【前途】親會社日本レイヨンとプロツクを結成し
てゐるが、人絹・スフ企業統合が更に進行するに從
つて當社も現状の儘ではゐられなくなるだらう。即ち
日レへの吸収合併とならざるをえない譯だ。

【事業】人絹の製造販賣
【資本金】公稱 三〇,〇〇〇
拂込 二五,〇〇〇
【株数】新(三五) 三〇〇,〇〇〇
【重役】社長 菊池 恭三
部長 池田 文吾 宮野 源一
常務 菊池 文吾 宮野 源一
取締役 藤原 助 岩田 宗次 江津 町 名
監査 藤原 助 岩田 宗次 江津 町 名

【大株主】十六年上 六、三三三名
日本レイヨン 一〇〇,〇〇〇
大日本紡績 一〇〇,〇〇〇
【業績】利益金利配率配當率
一五年上 三、〇〇 三、〇〇 〇・四〇
一五年下 三、〇〇 三、〇〇 〇・四〇
一六年上 三、〇〇 三、〇〇 〇・四〇
一六年下 三、〇〇 三、〇〇 〇・四〇
【株價】(實物)高値 無配
一五年中 三、〇〇 三、〇〇
一六年中 三、〇〇 三、〇〇
一五年上 三、〇〇 三、〇〇
一五年下 三、〇〇 三、〇〇
一六年上 三、〇〇 三、〇〇
一六年下 三、〇〇 三、〇〇

酒伊纖維工業

【設立】昭和九年十月
【決算期】五月 十一月
【本社】福井市花堂町牛ノ返一(電福井 四二一)

【復配期待】當社は成績不振から十五年下期に再
度の無配に轉落したが、最近の情勢は一變し、早くも
今期に五、六分程度の配當復活が期待される。未働状態
にあつた小濱ス・フ紡工場が活動を始めたことと子會
社豆稈バルブからバルブの供給を受けてス・フの生産
を開始し一貫作業を實現したことが情勢を好變に導い
たのである。

【前途】業界の整理統合はかなり進捗してゐる。
當社は比較的大規模であり、技術もよい。従つて重點
會社として存續出來よう。

【事業】絹、人絹、人絹織物
【資本金】公稱 一〇〇,〇〇〇
拂込 一〇〇,〇〇〇
【株数】新(三五) 三〇〇,〇〇〇
【重役】社長 酒井 伊四郎
部長 酒井 伊四郎 酒井 伊四郎
常務 酒井 伊四郎 酒井 伊四郎
取締役 酒井 伊四郎 酒井 伊四郎
監査 酒井 伊四郎 酒井 伊四郎

【大株主】十六年上 五、八八名
酒井伊四郎 一六、八〇〇
日本レイヨン 一〇〇,〇〇〇
【業績】利益金利配率配當率
一五年上 三、八 三、八 〇・六
一五年下 三、八 三、八 〇・六
一六年上 三、八 三、八 〇・六
一六年下 三、八 三、八 〇・六
【株價】(實物)高値 無配
一五年中 三、八 三、八
一六年中 三、八 三、八
一五年上 三、八 三、八
一五年下 三、八 三、八
一六年上 三、八 三、八
一六年下 三、八 三、八